

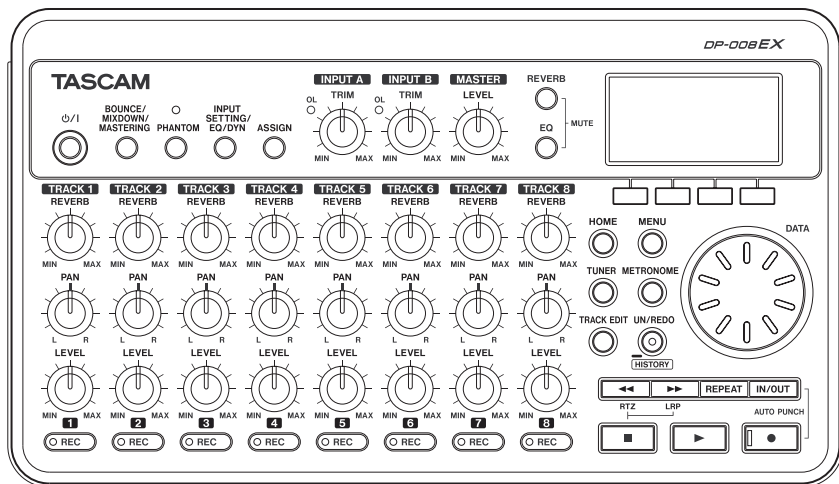
TASCAM

D01175801B

DP-008EX









Digital Multitrack Recorder

取扱説明書



安全にお使いいただくために

製品を安全に正しくお使いいただき、あなたや他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するために、以下の注意事項をよくお読みください。

	警告 以下の内容を無視して誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。
 ACアダプターの電源プラグをコンセントから抜く	万一、異常が起きたら 煙が出たり、変なにおいや音がするときは 機器の内部に異物や水などが入ったときは この機器を落としたり、カバーを破損したときは すぐに機器本体の電源を切り、必ずACアダプターの電源プラグをコンセントから抜いてください。異常状態のまま使用すると、火災・感電の原因となります。販売店またはティアック修理センター（裏表紙に記載）に修理をご依頼ください。
 禁止	ACアダプターのコードを傷つけない ACアダプターのコードの上に重い物をのせたり、コードを壁や棚との間に挟み込んだり、本機の下敷きにしない ACアダプターのコードを加工したり、無理に曲げたり、ねじったり、引っ張ったり、熱器具に近づけて加熱したりしない コードが傷んだまま使用すると火災・感電の原因となります。 万一、ACアダプターのコードが破損したら（芯線の露出、断線など）、販売店またはティアック修理センター（裏表紙に記載）をご依頼ください。
 禁止	別売のACアダプターや電源コードを他の機器に使用しない 故障、火災、感電の原因となります。
 禁止	交流100ボルト以外の電圧で使用しない この機器を使用できるのは日本国内のみです。表示された電源電圧（交流100ボルト）以外の電圧で使用しないでください。また、船舶などの直流（DC）電源には接続しないでください。火災・感電の原因となります。
 禁止	この機器の隙間などから内部に金属類や燃えやすい物などを差し込んだり、落としたりしない 火災・感電の原因となります。
 指示	航空機の離着陸時には使用しない 航空機の運航の安全に支障を及ぼす恐れがあるため、離着陸時の使用は航空法令により制限されていますので、離着陸時は本機の電源をお切りください。
 指示	ACアダプターの電源プラグにほこりをためない ACアダプターの電源プラグとコンセントの間にゴミやほこりが付着すると、火災・感電の原因となります。定期的（年1回くらい）にACアダプターの電源プラグを抜いて、乾いた布でゴミやほこりを取り除いてください。



警告

以下の内容を無視して誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。



分解禁止

この機器のカバーは絶対に外さない

カバーを開けたり改造すると、火災・感電の原因となります。

内部の点検・修理は販売店またはティアック修理センター（裏表紙に記載）にご依頼ください。

この機器を改造しない

火災・感電の原因となります。



注意

以下の内容を無視して誤った取り扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。



ACアダプターの電源プラグをコンセントから抜く

移動させる場合は、電源をスタンバイにし、必ずACアダプターの電源プラグをコンセントから抜き、外部の接続コードを外す

コードが傷つき、火災・感電の原因や、引っ掛けてけがの原因になることがあります。

旅行などで長期間この機器を使用しないときやお手入れの際は、安全のため必ずACアダプターの電源プラグをコンセントから抜く

通電状態の放置やお手入れは、漏電や感電の原因となることがあります。



指示

**オーディオ機器を接続する場合は、各々の機器の取扱説明書をよく読み、電源を切り、説明に従って接続する
また、接続は指定のコードを使用する**

電源を入れる前には、音量を最小にする

突然大きな音が出て、聴力障害などの原因となることがあります。また、モニター機器などを破損する原因となることがあります。

この機器はコンセントの近くに設置し、ACアダプターの電源プラグは簡単に手が届くようにする

異常が起きた場合は、すぐにACアダプターの電源プラグをコンセントから抜いて、完全に電源が切れるようにしてください。

**この機器には、別売の専用ACアダプターや電源コードを使用する
それ以外の物を使用すると、故障、火災、感電の原因となります。**



禁止

ぐらついた台の上や傾いた所など不安定な場所に置かない

湿気やほこりの多い場所に置かない。風呂、シャワー室では使用しない

調理台や加湿器のそばなど油煙や湯気があたる場所に置かない

火災・感電やけがの原因となることがあります。

ACアダプターの電源プラグを抜くときは、ACアダプターの電源コードを引っ張らない

コードが傷つき、火災・感電の原因となることがあります。

必ずプラグを持って抜いてください。



注意

以下の内容を無視して誤った取り扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。



禁止

濡れた手でACアダプターの電源プラグを抜き差ししない
感電の原因となることがあります。










注意

5年に一度は、機器内部の掃除を販売店またはティアック修理センター（裏表紙に記載）にご相談ください。
内部にほこりがたまったら、長い間掃除をしないと火災や故障の原因となることがあります。特に、湿気の多くなる梅雨期の前に行うと、より効果的です。なお、掃除費用については、ご相談ください。

電池の取り扱いについて

本機は、電池を使用しています。誤って使用すると、発熱、発火、液漏れなどを避けるため、以下の注意事項を必ず守ってください。

 警告 乾電池に関する警告	
 禁止	<p>乾電池は絶対に充電しない 破裂、液漏れにより、火災・けがの原因となります。</p>
 警告 電池に関する警告	
 強制	<p>電池を入れるときは、極性表示(プラスとマイナスの向き)に注意し、電池ケースに表示されているとおりに正しく入れる 間違えると電池の破裂、液もれにより、火災・けがや周囲を汚損する原因となる ことがあります。</p> <p>長時間使用しないときは電池を取り出しておく 液が液漏れて火災・けが、周囲を汚損する原因となることがあります。もし液が漏れた場合は、電池ケースについた液をよく拭き取ってから新しい電池を入れてください。また、万一漏れた液が身体についたときは、水でよく洗い流してください。</p>
 禁止	<p>指定以外の電池は使用しない 新しい電池と古い電池、または種類の違う電池を混ぜて使用しない 破裂、液漏れにより、火災・けがや周囲を汚損することがあります。</p> <p>金属製の小物類に携帯、保管しない ショートして液もれや破裂などの原因となることがあります。</p> <p>加熱したり、火や水の中に入れてない 電池の破裂、液漏れにより、火災・けがや周囲を汚損する原因となることがあります。</p>
 分解禁止	<p>分解しない 電池内の酸性物質により、皮膚や衣服を損傷する恐れがあります。</p>
 注意	<p>保管や廃棄をする場合は、他の電池や金属のものと接触しないようにテープなどで端子を絶縁してください。</p> <p>使い終わった電池は、電池に記載された廃棄方法、もしくは各市町村の廃棄方法に従って捨ててください。</p>

目次

安全にお使いいただくために	2	外部機器との接続	35
電池の取り扱いについて	6	リアパネル	35
		右サイドパネル	35
第1章 はじめに	8	コントラストを調節する	36
本機の概要	8	バックライトを設定する	36
本製品の構成	8	第5章 ソングの管理	37
本書の表記	8	パーティションとソング	37
商標および著作権に関して	9	アクティブパーティションを変更する	37
SDカードについて	9	名前の編集	38
取り扱い上の注意	9	ソングをロードする	38
設置上の注意	9	新しいソングを作成する	39
結露について	9	ソングを保存する	39
製品のお手入れ	9	ソング情報を見る	40
ユーザー登録について	9	ソングをコピーする	40
アフターサービス	10	ソングを消去する	41
		ソングをプロテクトする	41
第2章 クイックスタートガイド	11	第6章 基本レコーディング	42
再生とミキシング	11	入力ソースを選択する	42
準備する	11	ファントム電源について	42
デモソングを聴く	12	入力信号のモニターについて	43
録音からマスタリング	13	OLインジケータおよびレベルメーターについて	43
新しいソングをつくる	13	入力をアサインする	43
入力ソースを接続、設定する	14	入力のイコライザーを使う	44
ギターをTRACK 1の録音ソースにする	15	インプットダイナミクスを設定	44
入力レベル調節とモニター	15	ダイナミクスエフェクトを挿入する	44
TRACK 1にギターを録音する	16	コンプレッサーを使う	45
再生してみる	16	エキサイターを使う	46
TRACK 2にリードギターを録音する	17	ディエッサーを使う	46
TRACK 3にボーカルを録音する	18	レコーディング（最初の録音）	47
ステレオマスタートラックを作成する	20	マルチトラック録音	47
マスタリングする	21	録音するトラックを設定する	47
ステレオマスタートラックをパソコンに転送する	23	TRACKのPAN / LEVELを設定する	47
終了する	23	入力の選択とアサイン	47
		入力レベルを設定する	47
第3章 各部の名称と働き	24	録音する	47
トップパネル	24	実行した操作を取り消す（アンドゥ）	48
フロントパネル	26	最後に行った操作を取り消す （シングルアンドゥ）	48
リアパネル	27	ある操作以降の操作を取り消す （マルチアンドゥ）	48
右サイドパネル	28	操作履歴の消去について	49
ボトムパネル	28		
ホーム画面	29		
メニューの構成	30		
画面の操作	31		
第4章 準備	32	第7章 レコーダー機能	50
SDカードを挿入する／取り出す	32	トラックバウンス	50
SDカードを挿入する	32	トラックバウンスを行う	50
SDカードを取り出す	32	結果を確認する	50
SDカードのライトプロテクトスイッチについて	32	ロケート／サーチ機能	51
電源の準備	32	ダイレクトロケート機能	51
電池で使用する	32	ソングの先頭に戻す（RTZ機能）／ 最後に録音を始めた位置に戻す（LRP機能）	51
ACアダプターで使用する（別売）	33	早戻し／早送りサーチ	51
起動と終了	33	リピート再生	51
起動する	33	INポイント／OUTポイントを設定する	51
終了する	33	リピート再生を実行する	52
SDカードを使えるようにする	34	リピート再生の再生間隔を設定する	52
レコーダーモード	34		

INポイント/OUTポイントへのロケート.....	52	FATパーティションを再フォーマットする.....	73
パンチイン/アウト.....	53	SDカードを初期化(イニシャライズ)する.....	73
フットスイッチを使ったパンチイン/アウト.....	53	第12章 パソコンを使ったデータ送受信.....	74
フットスイッチの極性を設定する.....	53	必要なパソコンシステム.....	74
オートパンチイン/アウト機能.....	54	パソコンと接続する.....	74
オートパンチイン/アウトをリハーサルする.....	54	接続を解除する.....	75
オートパンチイン/アウトを実行する.....	54	ソングのバックアップとリストア(復元).....	76
第8章 トラックの編集.....	55	ソングをバックアップする.....	76
トラック編集の概要.....	55	ソングをリストア(復元)する.....	76
トラック編集ポイント.....	55	トラックのインポートとエクスポート.....	77
トラック編集の基本操作.....	55	トラックをインポートする.....	77
各トラック編集機能の設定項目.....	56	トラックをエクスポートする.....	78
コピー/ペースト.....	57	ステレオマスタートラックをエクスポートする.....	80
コピー/インサート.....	57	第13章 マスタリング用コンプレッサー設定一覧.....	81
ムーブ/ペースト.....	58	マスタリング用コンプレッサーの	
ムーブ/インサート.....	58	プリセットライブラリー.....	81
オープン(無音挿入).....	58	マスタリング用コンプレッサーの	
カット(部分削除).....	58	パラメーター初期設定一覧.....	81
サイレンス(部分消去).....	59	第14章 トラブルシューティング.....	82
クロントラック(トラック複製).....	59	第15章 メッセージ.....	83
クリーンアウト(トラック削除).....	59	第16章 仕様.....	86
第9章 ミックスダウンとマスタリング.....	60	定格.....	86
ミックスダウン.....	60	入出力定格.....	86
レベルとバランス.....	60	アナログオーディオ入出力定格.....	86
定位(パン).....	60	コントロール入出力定格.....	86
トラックのイコライザー.....	60	オーディオ性能.....	86
リバープ.....	60	動作条件.....	86
トラックのミュート.....	61	一般.....	86
ステレオマスタートラックを作成する.....	62	バックアップメモリー.....	87
始点/終点を設定する.....	62	寸法図.....	87
ステレオマスタートラックの作成.....	62	ブロックダイヤグラム.....	88
ステレオマスタートラックを確認する.....	63	第17章 こんなことをするには.....	89
ステレオマスタートラックを			
仕上げる(マスタリング).....	64		
オートマスタリングモードで仕上げる.....	64		
マニュアルマスタリングモードで仕上げる.....	65		
マスタリング用イコライザーを使う.....	66		
マスタリング用コンプレッサーを使う.....	66		
ノーマライズを使う.....	67		
ステレオマスタートラックをコピーする.....	67		
マスタリングモードを終了する.....	67		
第10章 さまざまな機能.....	68		
メトロノーム機能.....	68		
チューナー機能.....	68		
クロマチックチューナーモード.....	68		
オシレーターモード.....	69		
オートパワーセーブ機能.....	69		
プリファレンス設定を初期設定に戻す.....	70		
情報を見る.....	70		
第11章 SDカードの管理.....	71		
パーティションの概要.....	71		
SDカードをフォーマットする.....	71		
MTRパーティションを再フォーマットする.....	72		

第1章 はじめに

このたびは、TASCAM Digital Multitrack Recorder DP-008EXをお買い上げいただきまして、誠にありがとうございます。

ご使用になる前に、この取扱説明書をよくお読みになり、正しい取り扱い方法をご理解いただいたうえで、末永くご愛用くださいようお願い申し上げます。お読みになったあとは、いつでも見られるところに保管してください。また取扱説明書は、TASCAMのウェブサイト (<http://tascam.jp/>) からダウンロードすることができます。

本機の概要

本機は、SDカードを使って、同時最大2トラック、トータル最大8トラックのマルチトラック録音を行うことができます。さらに内蔵のミキサー機能、マスタリング機能（オートマスタリングとマニュアルマスタリング）およびインプットダイナミクス機能を使ってマルチトラックをステレオトラックにミックスダウンして、ステレオマスタートラックを作成することができます。

こうして作成されたステレオマスタートラックをUSB接続したパソコンに転送することができます。さらに本機とパソコン間でデータの転送が可能で、個々のトラックデータやステレオマスタートラックをパソコンにコピーしたり、ソングファイルをパソコンにバックアップすることができます。

- 2トラック同時録音 / 8トラック同時再生のポータブル8トラックマルチトラックレコーダー
- CDと同等の音質で録音が可能（16bit, 44.1kHz）
- 周囲の音を捉えやすい無指向性のステレオコンデンサーマイク内蔵（入力ゲインはLow / Highの2段階で設定可能）
- ギター／ベースを直接接続可能な2つのマイク／ライン入力（INPUT A / B）
- トラックごとに独立したLEVELつまみ / PANつまみ / REVERBつまみで直感的操作可能
- ホイールにより指定した位置に素早く移動可能（ダイレクトロケート機能）
- 自由に設定できるINポイント / OUTポイントを利用したリピート再生や編集機能
- 8トラックとは別のステレオマスタートラック装備
- 8トラック以上の録音を可能にするバウンス機能
- 必要な部分のみ録音し直すパンチイン／アウト機能
- 録音後のトラック複製／削除、部分消去／削除や無音部分挿入などが可能なトラック編集機能
- 録音や編集操作を取り消すアンドゥと、アンドゥを無効にするリドゥ
- 見ながら調節できるクロマチックチューナー（メーター）内蔵
- メトロノーム内蔵
- パソコンとUSB2.0で接続してファイル転送
- ソングのバックアップ／リストア（復元）
- ステレオトラックのステレオWAVファイルインポート／エクスポート

- ステレオマスターをステレオWAVファイルへエクスポート
- 単3形電池4本または別売の専用ACアダプター（TASCAM PS-P520）で動作
- SDメモリーカード付属

本製品の構成

本製品の構成は、以下の通りです。

なお開梱は、本体に損傷を与えないよう慎重に行ってください。梱包箱と梱包材は、後日輸送するときのために保管しておいてください。

付属品が不足している場合や輸送中の損傷が見られる場合、タスカムカスタマーサポート（裏表紙に記載）までご連絡ください。

● 本体	x1
● SDメモリーカード（本体に装着済み）	x1
● 単3形アルカリ乾電池	x4
● USBケーブル（80cm）	x1
● 保証書	x1
● 取扱説明書（本書）	x1

本書の表記

本書では、以下のような表記を使います。

- 本機および外部機器のボタン／端子などを「MENUボタン」のように太字で表記します。
- 本機の▶ ボタンを「再生 (▶) ボタン」、■ ボタンを「停止 (■) ボタン」、● ボタンを「録音 (●) ボタン」のように表記します。
- ディスプレーに表示される文字を“MENU”のように“_”で括って表記します。
- ディスプレーの下に並ぶ4つのボタンをファンクションボタンと呼び、左から順にF1、F2、F3、F4ボタンと表記します。また、各画面表示の下部に表示される機能を、ボタン名の後ろにカッコ付きで表記する場合があります。
例：F2 “[EXEC]” ボタン、F4 “[▶]” ボタン
- 「SD/SDHCメモリーカード」のことを「SDカード」と表記します。
- パソコンのディスプレイ上に表示される文字を《DP-008EX》のように《 》で括って表記します。
- 必要に応じて追加情報などを、「ヒント」、「メモ」、「注意」として記載します。

ヒント

本機をこのように使うことができる、といったヒントを記載します。

メモ

補足説明、特殊なケースの説明などをします。

注意

指示を守らないと、人がけがをしたり、機器が壊れたり、データが失われたりする可能性がある場合に記載します。

商標および著作権に関して

- TASCAMおよびタスカムは、ティアック株式会社の登録商標です。
- Microsoft、Windows、Windows XP、Windows Vista、および Windows 7 は、米国 Microsoft Corporation の、米国、日本およびその他の国における登録商標または商標です。
- Apple、Macintosh、iMac、Mac OS および Mac OS X は、Apple Inc. の商標です。
- その他、記載されている会社名、製品名、ロゴマークは各社の商標または登録商標です。

ここに記載されております製品に関する情報、諸データは、あくまで一例を示すものであり、これらに關し、第三者の知的財産権、およびその他の権利に対して、権利侵害がないことの保証を示すものではありません。従いまして、上記第三者の知的財産権の侵害の責任、またはこれらの製品の使用により発生する責任につきましては、弊社はその責を負いかねますのでご了承ください。

第三者の著作物は、個人として楽しむなどの場合は、著作権法上権利者に無断で使用できません。装置の適正使用をお願いします。弊社では、お客様による権利侵害行為につき一切の責任を負担致しません。

SDカードについて

本機では、SDカードを使って録音や再生を行います。使用できるSDカードは、512MB以上のSD / SDHC規格に対応したカードです。TASCAMのウェブサイト (<http://tascam.jp/>) には、当社で動作確認済みのSDカードのリストが掲載されていますので、ご参照ください。もしくは、タスカムカスタマーサポート(裏表紙に記載)までお問い合わせください。

取り扱い上の注意

SDカードは、精密にできています。SDカードやSDカードスロットの破損を防ぐため、取り扱いにあたって以下の点をご注意ください。

- 極端に温度の高い、あるいは低い場所に放置しないと。
- 極端に湿度の高い場所に放置しないこと。
- 濡らさないこと。
- 上に物を乗せたり、ねじ曲げたりしないこと。
- 衝撃を与えないこと。

設置上の注意

- 本機の動作保証温度は、摂氏5度～35度です。
- 次のような場所に設置しないでください。音質低下の原因、または故障の原因となります。
 - 振動の多い場所
 - 窓際などの直射日光が当たる場所
 - 暖房器具のそばなど極端に温度が高い場所
 - 極端に温度が低い場所
 - 湿気の多い場所や風通しが悪い場所
 - ほこりの多い場所
 - 直接雨などの水が当たる場所
- 本機は、水平に設置してください。
- パワーアンプなど熱を発生する機器の上に本機を置かないでください。

結露について

本機を寒い場所から暖かい場所へ移動したときや、寒い部屋を暖めた直後など、気温が急激に変化すると結露を生じることがあります。結露したときは、約1～2時間放置した後、電源を入れてお使いください。

製品のお手入れ

製品の汚れは、柔らかい乾いた布で拭いてください。化学ぞうきん、ベンジン、シンナー、アルコールなどで拭かないでください。表面を傷めたり色落ちさせる原因となります。

ユーザー登録について

TASCAMのウェブサイト (<http://tascam.jp/>) にて、オンラインでのユーザー登録をお願いいたします。

第1章 はじめに

アフターサービス

- この製品には、保証書を別途添付しております。保証書は、所定事項を記入してお渡ししておりますので、大切に保管してください。万が一販売店印の捺印やご購入日の記載が無い場合は、無償修理保証の対象外になりますので、ご購入時のレシート等ご購入店・ご購入日が確認出来るものを一緒に保管してください。
- 保証期間は、お買い上げ日より1年です。保証期間中は、記載内容によりティアック修理センター（裏表紙に記載）が修理いたします。その他の詳細については、保証書をご参照ください。
- 保証期間経過後、または保証書を提示されない場合の修理などについては、お買い上げの販売店またはティアック修理センター（裏表紙に記載）にご相談ください。修理によって機能を維持できる場合は、お客様のご要望により有償修理いたします。
- 万一、故障が発生した場合は使用を中止し、必ず電源プラグをコンセントから抜いて、お買い上げの販売店またはティアック修理センターまでご連絡ください。修理を依頼される場合は、次の内容をお知らせください。なお、本機の故障、もしくは不具合により発生した付随的損害（録音内容などの補償）の責については、ご容赦ください。
 - 型名、型番（DP-008EX）
 - 製造番号（Serial No.）
 - 故障の症状（できるだけ詳しく）
 - お買い上げ年月日
 - お買い上げ販売店名
- お問い合わせ先については、裏表紙をご参照ください。
- 当社は、この製品の補修用性能部分（製品の機能を維持するために必要な部品）を製造打ち切り後8年間保有しています。
- 本機を廃棄する場合に必要な収集費などの費用は、お客様のご負担になります。

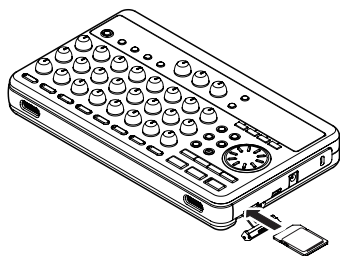
第2章 クイックスタートガイド

再生とミキシング

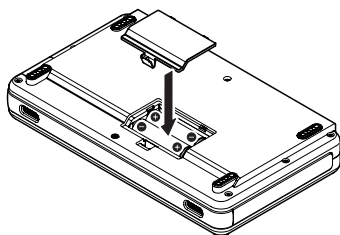
付属のSDカードに収録されているデモソングを再生してみましょ。なお、本機をお買い上げ時、デモソングが録音されているSDカードがあらかじめ挿入されていますが、以下に述べる手順では、SDカードを挿入する方法から説明を行います。

準備する

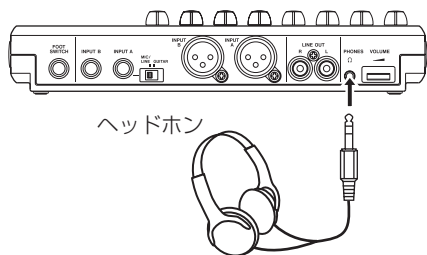
1. 右サイドパネルのSDカードスロットカバーを開け、SDカードスロットに付属のSDカードをセットします。間違った向きに挿入して無理に力を加えると、SDカードスロットやSDカードを破損する可能性がありますのでご注意ください。



2. SDカードを挿入した後、SDカードスロットカバーを閉じます。
3. ボトムパネルの電池ケース内の⊕と⊖の表示に合わせ、単3形電池を4本セットします。本機は、アルカリ乾電池のほかニッケル水素電池も使用することができます。

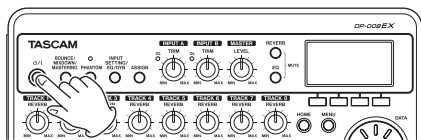


4. 電池をセットした後、電池ケースの蓋を閉じます。
5. リアパネルのPHONES端子にヘッドホンを接続します。



ヘッドホン

6. トップパネルの⏻/I ボタンを押し続け、ディスプレイに“TASCAM”が表示されたら離します。本機が起動すると、ディスプレイに以下の画面（ホーム画面）が現れます。



[起動画面]



[ホーム画面]

注意

- 本機の電源がオンのときにSDカードを抜き差ししないでください。SDカードを抜き差しするときは、必ず電源をオフ（スタンバイ状態）にしてからSDカードを抜き差ししてください。
- 電源がオンのときにSDカードを抜き差しすると、前回のシャットダウン処理もしくはソングセーブ以降の記録データや設定が全て失われます。なお、失われたデータや設定は復活することができません。
- 電源がオンのときに電池を外す、または電源コードを抜くなどして電源を切らないでください。
- 付属のアルカリ乾電池は動作確認用です。そのため使用可能時間が短い場合があります。
- 本機の電源のオン/オフ（スタンバイ状態）操作は、本機に接続している外部モニターシステム（パワードモニタースピーカーまたはアンプとスピーカーシステム）のボリュウムを絞った状態で行ってください。
- 電源オン/オフ（スタンバイ状態）操作時にヘッドホン装着しないでください。ノイズによっては、聴覚を損傷する恐れがあります。

ヒント

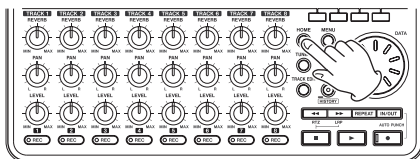
- 別売の専用ACアダプター（TASCAM PS-P520）を使って電源を供給することもできます。（→ 33ページ「ACアダプターで使用する（別売）」）
- リアパネルのLINE OUT端子に外部モニターシステム（パワードモニタースピーカーまたはアンプとスピーカーシステム）を接続することにより、スピーカーを使ってモニターすることもできます。

第2章 クイックスタートガイド

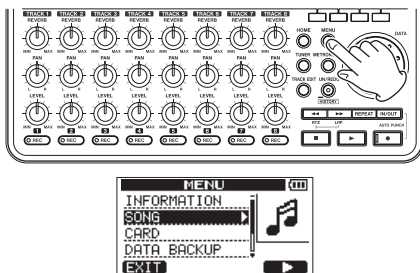
デモソングを聴く

本機に付属のSDカードには、あらかじめデモソングが録音されています。このデモソングを使って、再生、ミキシングの基本を体験してみましょう。

1. HOMEボタンを押して、ホーム画面を表示します。

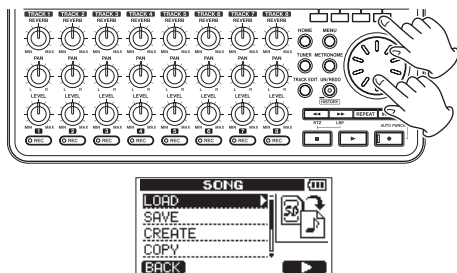


2. レコーダーが停止中にMENUボタンを押して、“MENU”画面を表示します。



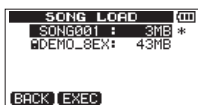
3. DATAホイールを使って“SONG”項目を選択（反転表示）し、F4 “[▶]” ボタンを押します。

“SONG”メニュー画面が表示されます。

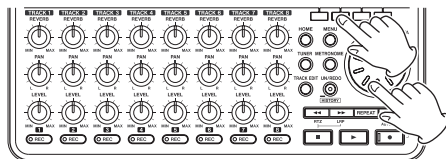


4. DATAホイールを使って“LOAD”項目を選択（反転表示）し、F4 “[▶]” ボタンを押します。

“SONG LOAD”画面に進み、ソングリストが表示されます。



5. DATAホイールを使って“DEMO_8EX”を選択（反転表示）し、F2 “[EXEC]” ボタンを押します。



デモソングがロードされ、“SONG”メニュー画面に戻ります。

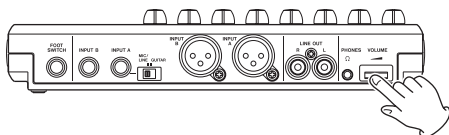
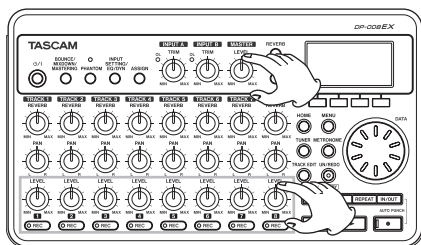
6. HOMEボタンを押して、ホーム画面に戻します。

7. 再生 (▶) ボタンを押して、TRACK 1- 8のLEVELつまみ、MASTER LEVELつまみ、リアパネルのVOLUMEダイヤルを上げていくと、デモソングが聴こえてきます。

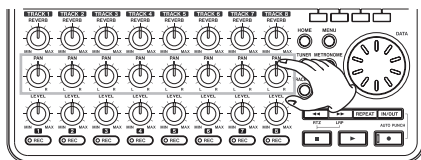
MASTER LEVELつまみは、TRACK 1- 8の音量をまとめて調節します。MASTER LEVELつまみは、2～3時の位置が標準位置です。

TRACK 1- 8のLEVELつまみを使って、トラック間のバランスを調節します。

最終的なモニターの音量は、リアパネルのVOLUMEダイヤルを使って調節します。



8. TRACK 1- 8のPANつまみを使って、各トラック信号のステレオ定位を設定することができます。



ヒント

- 停止 (■) ボタンを押しながら ◀ [RTZ] ボタンを押すと、ソングの先頭 ("00h00m00s00f") に戻ります (RTZ機能=Return To Zero)。
- メニュー操作で、ボタン操作を間違えて別の画面が表示された場合は、HOMEボタンを押すことによりホーム画面に戻ります。

録音からマスタリング

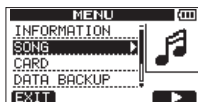
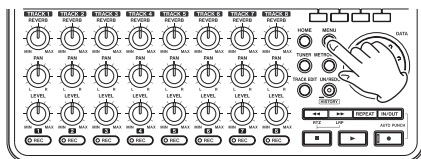
マルチトラック録音を体験してみましょう。以下の例では、ギターを使ってリズムギターパートをTRACK 1、リードギターパートをTRACK 2に録音した後、内蔵マイクを使って歌をTRACK 3に録音し、ステレオにミックスダウンを行うまでの手順を説明します。なお、前項の「再生とミキシング」にしたがって、本機にはすでにヘッドホンが接続され、本機が起動し、SDカードが挿入されていることを前提にします。

ヒント

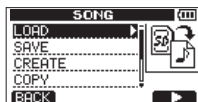
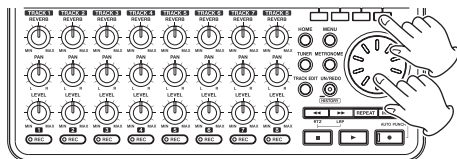
以下の例では内蔵マイクを使って歌を録音しますが、リアパネルのINPUT A / B端子に外部マイクを接続して録音することもできます。

新しいソングをつくる

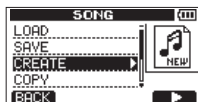
1. レコーダーが停止中にMENUボタンを押して、「MENU」画面を表示します。



2. DATAホイールを使って「SONG」メニュー項目を選択 (反転表示) し、F4 [▶] ボタンを押します。「SONG」メニュー画面が表示されます。



3. DATAホイールを使って「CREATE」項目を選択 (反転表示) し、F4 [▶] ボタンを押します。

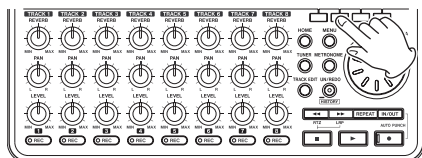


「SONG CREATE」画面が表示されます。



作成されるソングには、あらかじめ「SONG***」 (**は番号) というソングの名前 (タイトル) が付けられます。

4. 必要に応じてソングの名前 (タイトル) を付けます。
(→ 38ページ 「名前編集」)
5. F2 [EXEC] ボタンを押します。
現在ロードされているソングが保存され、新しいソングが作成されます。

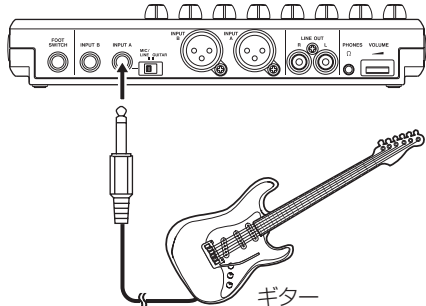


6. HOMEボタンを押して、ホーム画面に戻ります。

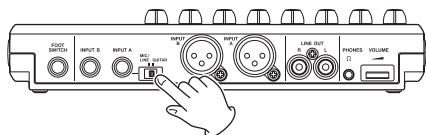
第2章 クイックスタートガイド

入力ソースを接続、設定する

1. リアパネルのINPUT A端子にギターを接続します。



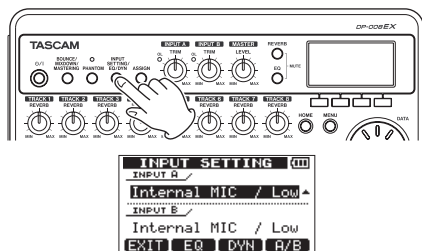
2. リアパネルのMIC/LINE-GUITAR切り換えスイッチを「GUITAR」に設定します。



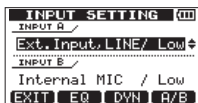
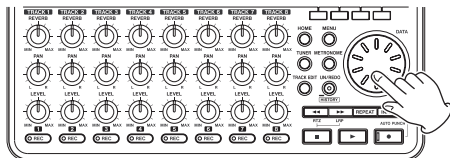
ヒント

ブリアン管内蔵のエアコギターやアクティブタイプのエレキギターを接続する場合や、エレキギターと本機の間にはエフェクターなどを接続する場合は、MIC/LINE-GUITAR切り換えスイッチを「MIC/LINE」に設定します。

3. INPUT SETTING/EQ/DYNボタンを押して、「INPUT SETTING」画面を表示します。
この画面で「INPUT A」および「INPUT B」の入力ソースを選択します。
最初の状態では、「INPUT A」の現在の入力ソースが選択（反転表示）されています。



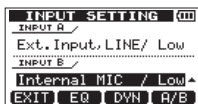
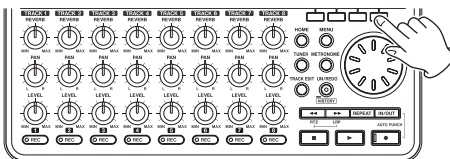
4. 外部ライン入力を使ってギターをTRACK 1とTRACK 2に録音するために、DATAホイールを使って「INPUT A」の入力ソースを5つの選択肢の中から、「Ext. Input, LINE/ Low」、「Ext. Input / Mid」または「Ext. Input / High」の中から設定します。（→ 42ページ「入力ソースを選択する」）



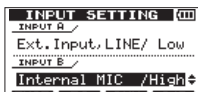
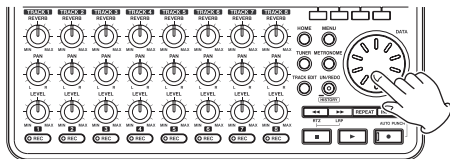
メモ

“Ext. Input, LINE/ Low”、“Ext. Input / Mid”、“Ext. Input / High”では、入力レベルのゲインが異なります。入力の大きさに応じて選択を行います。どれを選択したらよいかわからない場合は、“Ext. Input, LINE/ Low”を選択してください。そして入力レベル調節時に十分なレベルが得られない場合は、再び“INPUT SETTING”画面に戻って“Ext. Input / Mid”に切り換えてください。それでも十分な入力レベルが得られないときは、“Ext. Input / High”に切り換えてください。

5. F4 [A/B] ボタンを押して、「INPUT B」の現在の入力を選択（反転表示）します。



6. 内蔵マイクを使って歌をTRACK 3に録音するために、DATAホイールを使って“INPUT B”の入カソースを5つの選択肢の中から、“Internal MIC / Low”または“Internal MIC / High”から設定します。(→ 42ページ「入カソースを選択する」)
 これで、フロントパネルの右側の内蔵マイク (MIC B) が“INPUT B”の入カソースになります。



メモ

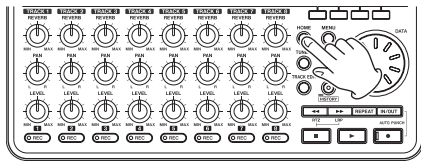
“Internal MIC / Low”と“Internal MIC / High”では、内蔵マイクの入カゲインが異なります。入カの大きさに応じて選択を行います。

どれを選択したらよいかわからない場合は、“Internal MIC / Low”を選択してください。そして入カレベル調節時に十分なレベルが得られない場合は、再び“INPUT SETTING”画面に戻って“Internal MIC / High”に切り換えてください。

7. 設定が終了したら、HOMEボタンを押してホーム画面に戻します。

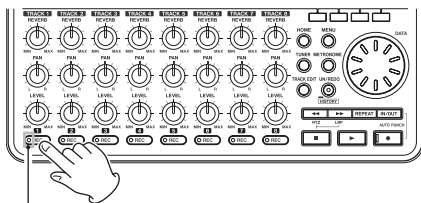
入カレベル調節とモニター

1. HOMEボタンを押して、ホーム画面に戻します。



2. TRACK 1のRECボタンを押します。

RECインジケーターが点滅し、録音待機状態になります。

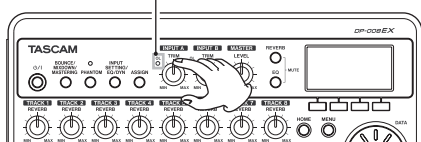


TRACK 1 REC インジケーター

3. INPUT AのTRIMつまみを使って、ギターの入カレベルを調節します。

いちばん大きい音のときにINPUT AのOLインジケーターが点灯しないようにTRIMつまみを設定します。

OL インジケーター



ギターを弾くと、ディスプレイの“**A**” (INPUT A) と“**1**” (TRACK 1) のレベルメーターに入カレベルが表示されます。

TRACK 1のLEVELつまみとMASTER LEVELつまみ、リアパネルのVOLUMEダイヤルを上げると、ヘッドホンからギターの声が聞こえ、ディスプレイの“**L**” (Lチャンネル) および“**R**” (Rチャンネル) のレベルメーターが振れます。

ギターをTRACK 1の録音ソースにする

レコーダーが停止中にASSIGNボタンを押して表示される“INPUT ASSIGN”画面の初期設定は、下記のように録音ソースがアサインされています。

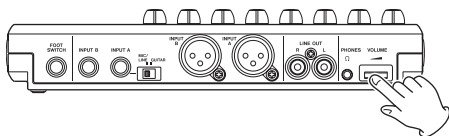
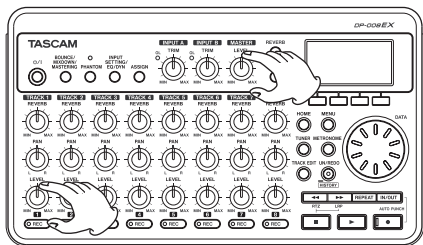


録音トラック	録音ソース	初期設定
TRACK 1, 3, 5, 7	INPUT A	“A”
TRACK 2, 4, 6, 8	INPUT B	“B”

前項「入カソースを接続、設定する」の“INPUT SETTING”画面で、INPUT Aの入カソースをギター、INPUT Bの入カソースを内蔵マイク (MIC B) に設定しましたので、この状態でギターをTRACK 1、3、5、7に、内蔵マイク (MIC B) をTRACK 2、4、6、8に録音することができます。

したがって、この手順例では入カソースのアサイン設定を変えずに、ギターをTRACK 1に録音することができます。

第2章 クイックスタートガイド

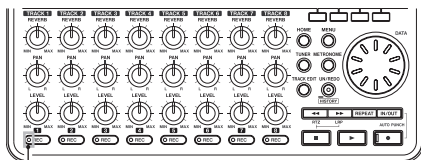


メモ

- TRIMつまみを上げていてもOLインジケータが点灯する場合は、ギターからの入力信号自体が大きすぎます。
このような場合、入力ソースの選択が“Ext. Input / High” のときは“Ext. Input / Mid” あるいは“Ext. Input, LINE/ Low” に、入力ソースの選択が“Ext. Input / Mid” のときは“Ext. Input, LINE/ Low” に切り換えてください。
“Ext. Input, LINE/ Low” に設定してもまだOLインジケータが点灯する場合は、ギターの音源の音量を下げてください。
- TRACK 1のPANつまみを使ってモニター音の定位を設定する事ができます。
- TRACK 1のRECインジケータが消灯しているときは、入力音が聴こえません。

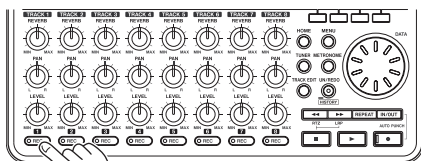
TRACK 1にギターを録音する

1. 録音 (●) ボタンを押しながら再生 (▶) ボタンを押して録音を開始し、リズムギターを演奏します。
録音 (●) インジケータが点灯し、TRACK 1のRECインジケータが点滅から点灯に変わります。



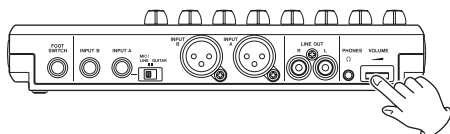
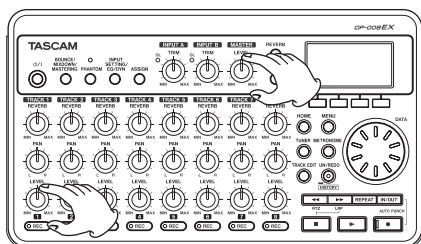
TRACK 1 REC インジケータ

2. 演奏が終了したら停止 (■) ボタンを押して、録音を停止します。
3. TRACK 1のRECボタンを押して、RECインジケータを消灯します。



再生してみる

1. ソングの先頭 (“00h00m00s00f”) に戻すには、停止 (■) ボタンを押しながら ◀◀ [RTZ] ボタンを押します (RTZ機能=Return To Zero)。
2. 再生 (▶) ボタンを押して、録音したTRACK 1を再生します。
3. TRACK 1のLEVELつまみとMASTER LEVELつまみを使って、モニターのレベルを調節します。
最終的なモニターの音量は、リアパネルのVOLUMEダイヤルを使って調節します。



ヒント

TRACK 1のPANつまみを使って、トラック信号のステレオ定位を設定することができます。

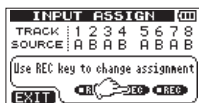
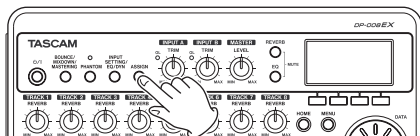
4. 確認が終了したら**停止 (■)** ボタンを押して、再生を停止します。

TRACK 2にリードギターを録音する

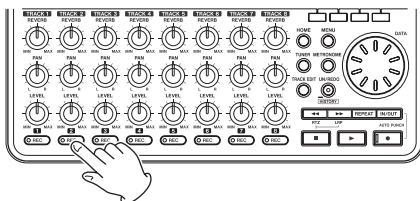
TRACK 1のリズムギターを聴きながら、TRACK 2にリードギターを録音してみましょう。

以下の手順でTRACK 2の録音ソースを変更します。

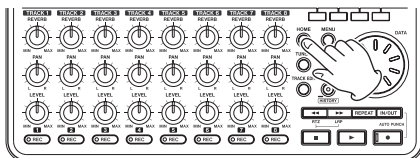
1. レコーダーが停止中に**ASSIGN**ボタンを押して、“INPUT ASSIGN”画面を表示します。



2. TRACK 2のRECボタンを押して、“TRACK 2”の“SOURCE”項目を“A”に設定します。



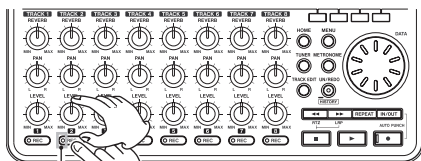
3. HOMEボタンを押して、ホーム画面に戻ります。



4. TRACK 2のRECボタンを押します。

RECインジケーターが点滅し、録音待状態になります。ギターを弾くと、ディスプレイの“**A**” (INPUT A) と“**2**” (TRACK 2) のレベルメーターに入力レベルが表示されます。

TRACK 2のLEVELつまみを上げるとヘッドホンからギターの音が聞こえ、ディスプレイの“**L**” (Lチャンネル) および“**R**” (Rチャンネル) のレベルメーターが振れます。



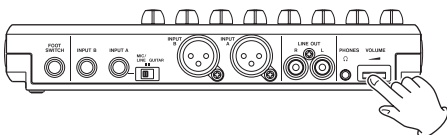
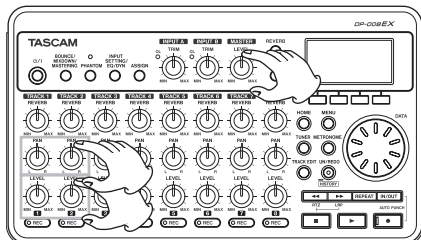
TRACK 2 REC インジケーター



5. ソングを先頭 (“00h00m00s00f”) に戻した後、再生 (▶) ボタンを押して録音したTRACK 1を再生し、録音されているリズムギターに合わせてリードギターを演奏してみます。

ヘッドホンからTRACK 1の再生音および入力しているギターの音が聞こえます。

6. 必要に応じて、TRACK 1およびTRACK 2のLEVELつまみとPANつまみ、MASTER LEVELつまみ、リアパネルのVOLUMEダイヤルを使って、モニターのレベルやバランスを調節します。



第2章 クイックスタートガイド

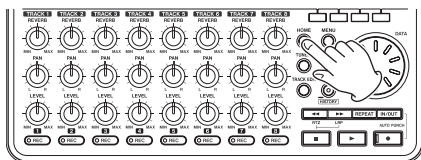
7. 確認が終了したら**停止 (■)** ボタンを押して、再生を停止します。
8. ソングを先頭 (“00h00m00s00f”) に戻した後、**録音 (●)** ボタンを押しながら**再生 (▶)** ボタンを押して録音を開始し、リードギターを演奏します。
録音 (●) インジケーターが点灯し、TRACK 2のRECインジケーターが点滅から点灯に変わります。
9. 演奏が終了したら**停止 (■)** ボタンを押して、録音を停止します。
10. TRACK 2のRECボタンを押して、RECインジケーターを消灯します。

メモ

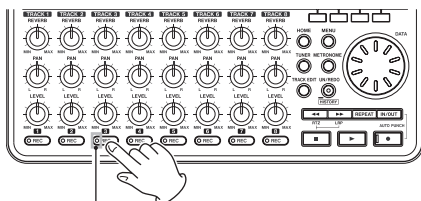
TRIMつまみを下げたままでもOLインジケーターが点灯する場合は、ギターからの入力信号自体が大きすぎます。

このような場合、入力ソースの選択が“Ext. Input / High” のときは“Ext. Input / Mid”あるいは“Ext. Input, LINE/ Low”に、入力ソースの選択が“Ext. Input / Mid” のときは“Ext. Input, LINE/ Low”に切り換えてください。“Ext. Input, LINE/ Low”に設定してもまだOLインジケーターが点灯する場合は、ギターの音源の音量を下げてください。

3. HOMEボタンを押して、ホーム画面に戻します。



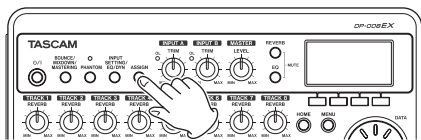
4. TRACK 3のRECボタンを押します。
RECインジケーターが点滅し、録音待機状態になります。



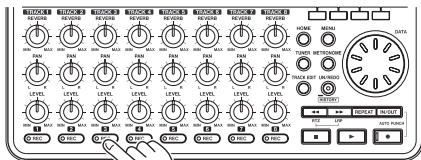
TRACK 3 REC インジケーター

TRACK 3にボーカルを録音する

1. ASSIGNボタンを押して、“INPUT ASSIGN”画面を表示します。

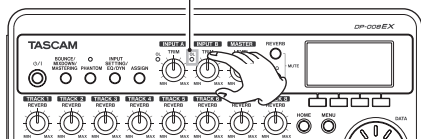


2. TRACK 3のRECボタンを押して、“TRACK 3”の“SOURCE”項目を“B”に設定します。



5. INPUT BのTRIMつまみを使って、マイクの入力レベルを適正に調節します。
いちばん大きい音のときにINPUT BのOLインジケーターが点灯しないようにTRIMつまみを設定します。

OLインジケーター

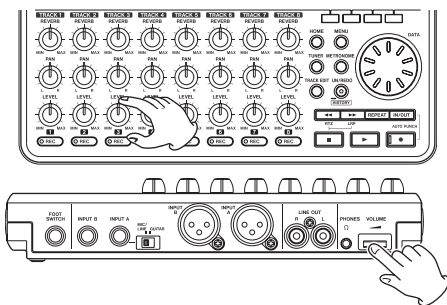


内蔵マイクのMIC Bに音を入れると、ディスプレイの“B” (INPUT B) と“3” (TRACK 3)、および“L” (Lチャンネル) と“R” (Rチャンネル) のレベルメーターに入力レベルが表示されます。

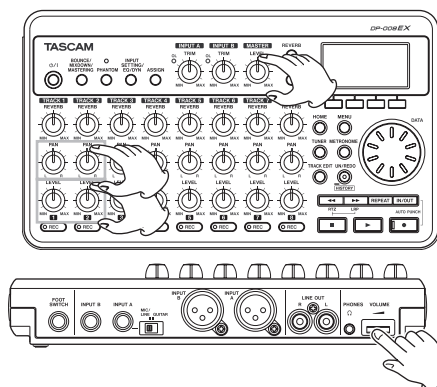


第2章 クイックスタートガイド

MASTER LEVELつまみ、リアパネルのVOLUMEダイヤルが上がっている状態で、TRACK 3のLEVELつまみを上げると、ヘッドホンからマイクの音が聴こえます。



7. 必要に応じて、TRACK 1およびTRACK 2のLEVELつまみとPANつまみ、MASTER LEVELつまみ、リアパネルのVOLUMEダイヤルを使って、モニターのレベルやバランスを調節します。



メモ

- TRIMつまみを下げてもOLインジケータが点灯する場合は、マイク信号自体が大きすぎます。このような場合、入力の選択が“Internal MIC / High”のときは“Internal MIC / Low”に切り換えてください。“Internal MIC / Low”に設定してもまだOLインジケータが点灯する場合は、音源をマイクから遠ざけるか、あるいは音源の音量を下げてください。
- 入力ソースが内蔵マイクの場合に、内蔵マイクを録音ソースに設定しているTRACKのRECインジケータが消灯しているときは入力音が聴こえません。

注意

マイクを使う場合は、必ずヘッドホンを使ってモニターしてください。スピーカーを使ってモニターを行うとハウリングを起こす可能性があります。

6. ソングを先頭(“00h00m00s00f”)に戻した後、再生(▶)ボタンを押して録音したTRACK 1とTRACK 2を再生し、録音されているリズムギターとリードギターに合わせて、歌ってみます。
ヘッドホンからTRACK 1とTRACK 2のギター再生音および歌が聴こえます。

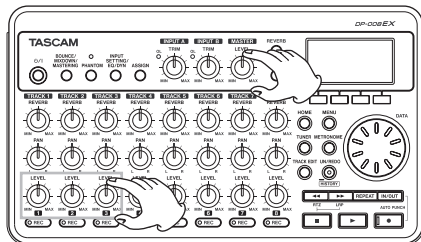
8. 確認が終了したら停止(■)ボタンを押して、再生を停止します。
9. ソングを先頭(“00h00m00s00f”)に戻した後、録音(●)ボタンを押しながら再生(▶)ボタンを押して録音を開始し、歌を歌います。
録音(●)インジケータが赤く点灯し、TRACK 3のRECインジケータが点滅から点灯に変わります。
10. 演奏が終了したら停止(■)ボタンを押して、録音を停止します。
11. TRACK 3のRECボタンを押して、RECインジケータを消灯します。

第2章 クイックスタートガイド

ステレオマスタートラックを作成する

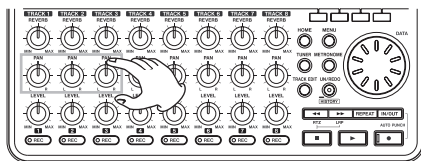
録音が終了したら、ミックスダウンを行いステレオマスタートラックを作成します。

1. TRACK 1- 3のLEVELつまみを使って、レベルとバランスを調節します。全体のレベルは、MASTER LEVELつまみを使って調節します。

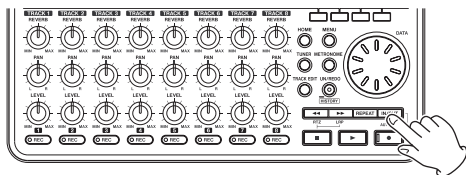


2. TRACK 1- 3のPANつまみを使って、ステレオの定位を設定します。

ディスプレイの「L」(Lチャンネル)と「R」(Rチャンネル)のレベルメーターを監視しながら調節します。



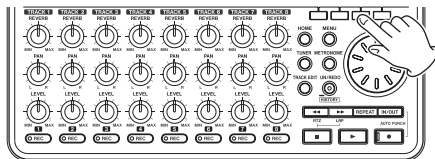
3. IN/OUTボタンを押して、「I/O SETTING」画面を表示します。



4. INポイントを設定します。
INポイントからOUTポイントまでの範囲がステレオマスタートラックになります。

再生 (▶) ボタンを押してソングを再生し、ステレオマスタートラックを開始したい位置でF3「[IN]」ボタンを押します。

ポップアップメッセージ「SET IN!」が表示されます。

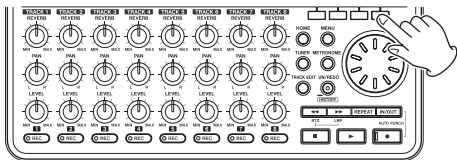


- F3「[IN]」ボタンを押した位置がINポイントとして設定され、ミックスダウンの始点になります。

5. OUTポイントを設定します。

ステレオマスタートラックの終了したい位置でF4「[OUT]」ボタンを押します。

ポップアップメッセージ「SET OUT!」が表示されます。



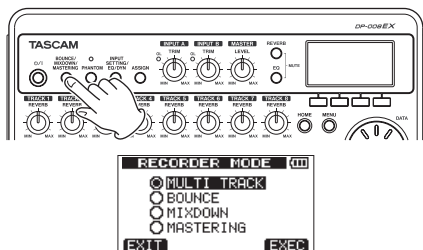
- F4「[OUT]」ボタンを押した位置がOUTポイントとして設定され、ミックスダウンの終点になります。

ヒント

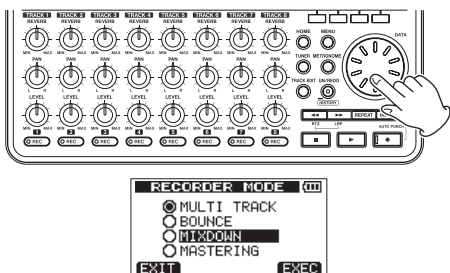
停止中にF3「[IN]」ボタンまたはF4「[OUT]」ボタンを押しても、INポイントまたはOUTポイントを設定することができます。

6. INポイントとOUTポイントの設定が終了したら、停止 (■) ボタンを押してソングを停止します。

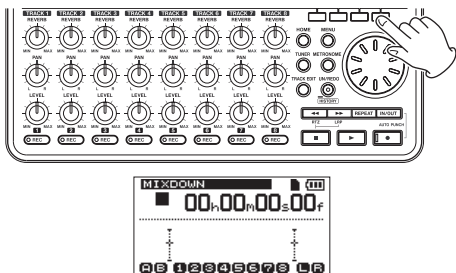
7. レコーダーが停止中に**BOUNCE/MIXDOWN/MASTERING**ボタンを押して、“**RECORDER MODE**”画面を表示します。



8. DATAホイールを使って、“**MIXDOWN**”を選択（反転表示）します。



9. F4 “[EXEC]” ボタンを押します。
ポップアップメッセージ“**Mixdown!**”を表示した後、レコーダーモードが“**MIXDOWN**”モードに切り換わり、ホーム画面に戻ります。



メモ

レコーダーモードが“**MIXDOWN**”モードのときは、ホーム画面左上に“**MIXDOWN**”が反転表示されます。

10. 録音 (●) ボタンを押しながら再生 (▶) ボタンを押します。
INポイントからステレオマスタートラックの録音が始まります。
OUTポイントまで来ると、自動的に録音を終了します。

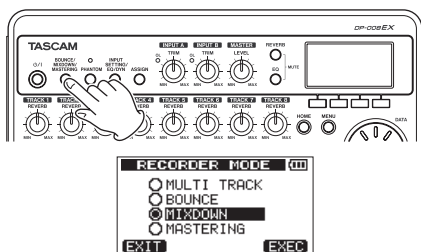
メモ

- INポイントとOUTポイントの間を、4秒以上離してください。4秒未満の場合は、ポップアップメッセージ“**Trk Too Short**”（トラックが短すぎです）が表示され、レコーダーモードを“**MIXDOWN**”モードに切り換えることはできません
- 録音中に**LEVEL**つまみを使って、各**TRACK**のレベルや全体のレベルを変えることができます。

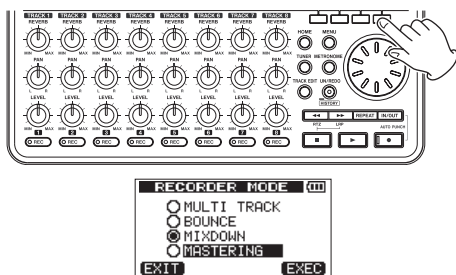
マスタリングする

作成したステレオマスタートラックを調節し、より好みの音に上げます。この工程をマスタリングと呼びます。本機に搭載されているオートマスタリング機能を使ってマスタリングを行います。

1. レコーダーが停止中に**BOUNCE/MIXDOWN/MASTERING**ボタンを押して、“**RECORDER MODE**”画面を表示します。

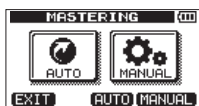
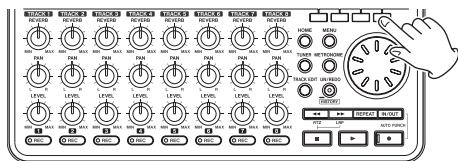


2. DATAホイールを使って、“**MASTERING**”を選択（反転表示）します。



第2章 クイックスタートガイド

3. F4 “[EXEC]” ボタンを押します。
“MASTERING” モード選択画面を表示します。



メモ

ステレオマスタートラックが無い場合は、ポップメッセージ “No Master Trk” が表示され、“MASTERING” モードに切り換わりません。

4. F3 “[AUTO]” ボタンを押します。
ポップアップメッセージ “Mastering!” を表示した後、本機のレコーダーモードが “MASTERING” モードに切り換わり、“AUTO MASTERING” 画面を表示します。



5. F1 “[TYPE]” ボタンを押して、以下のオートマスタリングのエフェクトタイプを設定します。

NATURAL SOUND :

ソフトに音圧を上げる効果が得られます。



MAXIMUM SOUND :

最大限に音圧を上げる効果が得られます。



6. オートマスタリングのエフェクトタイプを設定後、F2 “[RHSL]” ボタンを押して再生音へのエフェクト効果を確認します。

確認後、F2 “[STOP]” ボタンを押して停止します。



7. F3 “[EXEC]” ボタンを押して、オートマスタリングを開始します。



メモ

オートマスタリングするステレオマスタートラックのオフラインピーク検出が実行されていない場合には、ポップアップメッセージ “Peak Detect” を表示し、オフラインピーク検出を実行します。



オフラインピーク検出を終了すると以下のポップアップメッセージが表示されますので、F3 “[YES]” ボタンを押してオートマスタリングを開始します。



F4 “[NO]” ボタンを押すと、オートマスタリングを取り消し、“AUTO MASTERING” 画面に戻ります。

8. オートマスタリングを終了すると、エフェクトタイプが “OFF” の “AUTO MASTERING” 画面に戻ります。
9. マスタリングが終了したら、BOUNCE/MIXDOWN/MASTERINGボタンを押して、“RECORDER MODE” 画面を表示します。
10. DATAホイールを使って “MULTI TRACK” を選択 (反転表示) し、F4 “[EXEC]” ボタンを押してレコーダーモードを “MULTI TRACK” モードに戻します。

ステレオマスタートラックをパソコンに転送する

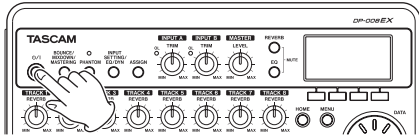
62ページ「ステレオマスタートラックを作成する」にて作成したステレオマスタートラックを、付属のUSBケーブルを使って接続したパソコンに転送し、CDを作成したりすることができます。

ステレオマスタートラックをパソコンに転送する方法については、80ページ「ステレオマスタートラックをエクスポートする」を参照してください。

終了する

作業が終了したら、本機を終了します。

1. HOMEボタンを押して、ホーム画面を表示します。
2. **⏪/I** ボタンを押し続け、ディスプレイに“POCKETSTUDIO”が表示されたら離します。



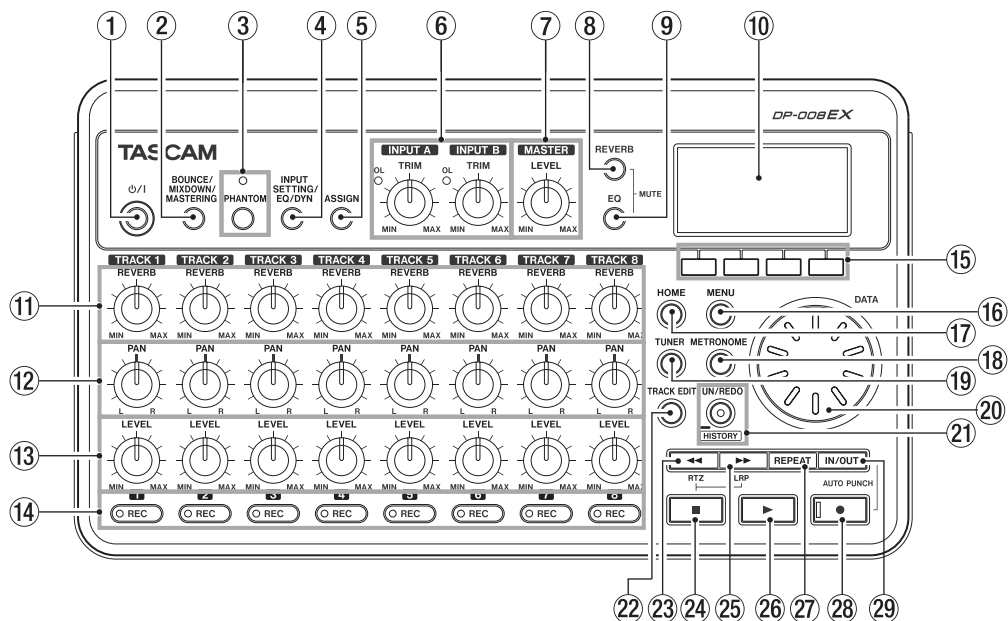
本機が自動的にシャットダウン動作（今まで操作した各種情報の記録）を行った後、電源がオフになります。終了するときは、必ず上記の手順で正しく終了してください。

注意

電池を外したり電源コードを抜くなどをして電源を切ると、前回のシャットダウン処理もしくはソングセーブ以降の記録データや設定が全て失われます。なお、失われたデータや設定は復活することができません。

第3章 各部の名称と働き

トップパネル



① ϕ /I ボタン

電源のオン/オフを行うときに、このボタンを長押しします。(→ 33ページ「起動と終了」)

② BOUNCE/MIXDOWN/MASTERING ボタン

このボタンを押すと「RECORDER MODE」画面を表示し、レコーダーモードの設定を行います。(→ 34ページ「レコーダーモード」)

③ PHANTOM ボタン / インジケーター

このボタンを押すと「PHANTOM」画面が表示され、この画面でファントム電源のオン/オフを切り換えます。ファントム電源がオンのときにPHANTOMインジケーターが点灯します。(→ 42ページ「ファントム電源について」)

注意

- ファントム電源のオンまたはオフは、機器の出力音量をMASTER LEVELつまみを使って下げた状態で行ってください。マイクによっては大きなノイズを発生し、他の機器または聴覚を損傷する恐れがあります。
- ファントム電源をオンにした状態でマイクの抜き差しをしないでください。
- ファントム電源を必要とするコンデンサーマイクを使用する場合のみ、スイッチをオンにしてください。
- アンバランスタイプのダイナミックマイクロホンにファントム電源を供給しないでください。

- リボンマイクロホンの中には、ファントム電源を供給すると故障の原因になるものがあります。疑わしい場合は、リボンマイクロホンにファントム電源を供給しないでください。

④ INPUT SETTING/EQ/DYN ボタン

このボタンを押すと「INPUT SETTING」画面が表示し、入力ソースの選択を行います。(→ 42ページ「入力ソースを選択する」)

「INPUT SETTING」画面表示中にF2「[EQ]」ボタンを押すと「INPUT EQ」画面を表示し、入力イコライザーを設定します。(→ 44ページ「入力のイコライザーを使う」)

「INPUT SETTING」画面表示中にF3「[DYN]」ボタンを押すと「INPUT DYNAMICS」画面を表示し、入力のダイナミクスエフェクトを設定します。(→ 44ページ「インプットダイナミクスの設定」)

⑤ ASSIGN ボタン

各TRACKの入力 (INPUT A / B) を設定 (アサイン) します。このボタンを押すと、ディスプレイに「INPUT ASSIGN」画面が表示されます。アサインされた入力の入力信号が録音ソースになります。(→ 43ページ「入力をアサインする」)

⑥ INPUT A, B TRIMつまみ / OLインジケーター

TRIMつまみを使って、INPUT A / Bそれぞれの入力レベルを調節します。(→ 47ページ「レコーディング

(最初の録音)』

入力ソースの入力信号が大きすぎると**OL**インジケータが点灯します。また、**TRIM**つまみを上げすぎると(2~3時位置以上に設定すると)、入力ソースの入力信号の大きさが適正であっても**OL**インジケータが点灯する場合があります。

⑦ MASTER LEVELつまみ

PHONES端子または**LINE OUT**端子から出力されるステレオ信号のレベルを調節します。トラックバウンス時、ミックスダウン時またはマスタリング時の録音レベルを調節します。

⑧ REVERBボタン

このボタンを押すと、リバーブを設定する“**REVERB SETTING**”画面を表示します。(→60ページ「リバーブ」)
このボタンと**EQ**ボタンを同時に押すと、“**TRACK MUTE**”画面を表示します。(→61ページ「トラックのミュート」)

⑨ EQボタン

トラックのイコライザーを設定する“**EQ SETTING**”画面を表示します。(→60ページ「トラックのイコライザー」)
このボタンと**REVERB**ボタンを同時に押すと、“**TRACK MUTE**”画面を表示します。(→61ページ「トラックのミュート」)

⑩ ディスプレー

各種情報を表示します。

⑪ REVERBつまみ (TRACK 1~TRACK 8)

各**TRACK**の再生音や**TRACK**にアサインされた入力信号のリバーブエフェクトに送るレベル(音量)を調節します。

⑫ PANつまみ (TRACK 1~TRACK 8)

各**TRACK**の再生信号や**TRACK**にアサインされた入力信号のステレオ定位を調節します。(→60ページ「定位(PAN)」)

⑬ LEVELつまみ (TRACK 1~TRACK 8)

各**TRACK**の再生信号や**TRACK**にアサインされた入力信号のモニターレベルを調節します。(→60ページ「レベルとバランス」)

⑭ RECボタン/インジケータ

(TRACK 1~TRACK 8)

各**TRACK**のレコードファンクションをオン/オフします。

入力音をヘッドホンや外部モニターシステム(パワードモニタースピーカーまたはアンプとスピーカーシステム)でモニターする場合は、該当する**TRACK**の**REC**ボタンを押します。

RECボタンをオンにすると、レコーダーが停止しているときは**REC**インジケータが点滅し、録音しているときは点灯します。

“**INPUT ASSIGN**”画面でこのボタンを押すと、アサイ

ンを切り換えます。

“**TRACK MUTE**”画面でこのボタンを押すと、トラックのミュートのオン/オフを切り換えます。

⑮ ファンクションボタン

ディスプレイに表示している画面によって、機能が変わるボタンです。
ディスプレイ表示画面の下部に表示されている機能が各ファンクションボタンに割り当てられます。

メモ

- 本取扱説明書では便宜上、4つのファンクションボタンを左から順に**F1**、**F2**、**F3**、**F4**ボタンという名前でご表記します。
- ファンクションボタンは、ホーム画面で以下の機能に割り当てられています。
 - 停止(■)ボタン+F1: INポイントに移動
 - 停止(■)ボタン+F2: OUTポイントに移動
 - F3: INポイントの取り込み
 - F4: OUTポイントの取り込み

⑯ MENUボタン

このボタンを押すと、“**MENU**”画面を表示します。(→30ページ「メニューの構成」)

⑰ HOMEボタン

ホーム画面を表示します。(→29ページ「ホーム画面」)
停止中でホーム画面表示中は、タイムカウンター表示のカーソル(下線)移動を行います。(→51ページ「ダイレクトロケット機能」)

⑱ METRONOMEボタン

このボタンを押すと、“**METRONOME**”画面を表示します。(→68ページ「メトロノーム機能」)

⑲ TUNERボタン

このボタンを押すと、“**TUNER**”画面を表示します。(→68ページ「チューナー機能」)

⑳ DATAホイール

各種設定画面において、項目の選択や値の変更に使用します。
停止中でホーム画面表示中、カウンター値を変えることによりレコーダーの位置を移動することができます。(→51ページ「ダイレクトロケット機能」)

㉑ UN/REDO [HISTORY] ボタン/インジケータ

このボタンを押すと、直前の操作の取り消し(シングルアンドゥ)、およびシングルアンドゥの取り消し(リドゥ)を行います。(→48ページ「実行した操作を取り消す(アンドゥ)」)

このボタンを長押しすると、“**HISTORY**”画面が表示します。この画面を使って、複数の操作を取り消すマルチアンドゥを実行することができます。

シングルアンドゥまたはマルチアンドゥを実行して取り消した操作があるとき、**UN/REDO [HISTORY]**インジケータが点灯します。

第3章 各部の名称と働き

②② TRACK EDITボタン

レコーダーが停止中にこのボタンを押すと、“TRACK EDIT”画面を表示します。(→55ページ「トラック編集の基本操作」)

②③ ◀ [RTZ] ボタン

停止中や再生中にこのボタンを押すと、早戻しを行います。押すたびにスピードが10倍→50倍→100倍→1,000倍と変化します。

停止 (■) ボタンを押しながらこのボタンを押すと、RTZ機能 (Return To Zero) によりソングの先頭 (“00h00m00s00f”) に移動します。(→51ページ「ソングの先頭に戻す (RTZ機能) /最後に録音を始めた位置に戻す (LRP機能)」)

②④ 停止 (■) ボタン

再生、録音、早戻し / 早送りを停止します。また、◀ [RTZ] ボタンや▶ [LRP] ボタンとの同時押しによって、ソングの先頭 (“00h00m00s00f”) または最後に録音を始めた位置 (LRP) に移動することができます。(→51ページ「ソングの先頭に戻す (RTZ機能) /最後に録音を始めた位置に戻す (LRP機能)」)

②⑤ ▶▶ [LRP] ボタン

停止中や再生中にこのボタンを押すと、早送りを行います。押すたびにスピードが10倍→50倍→100倍→1,000倍と変化します。

停止 (■) ボタンを押しながらこのボタンを押すと、LRP機能 (Last Recording Position) により最後に録音を始めた位置 (LRP) に移動します。(→51ページ「ソングの先頭に戻す (RTZ機能) /最後に録音を始めた位置に戻す (LRP機能)」)

②⑥ 再生 (▶) ボタン

再生を始めるとき、このボタンを押します。また、録音を始めるとき、録音 (●) ボタンを押しながらこのボタンを押します。

録音中にこのボタンを押すと、録音を終了して再生になります (パンチアウト)。

②⑦ REPEATボタン

リピート再生モードのオン / オフを行います。(→51ページ「リピート再生」)

②⑧ 録音 (●) ボタン / インジケータ

録音を始めるとき、このボタンを押しながら再生 (▶) ボタンを押します。

録音中、インジケータが点灯します。

いずれかのTRACKのRECインジケータが点滅しているとき、再生中にこのボタンを押すと録音が始まります (パンチイン)。(→53ページ「パンチイン / アウト」)

このボタンを押しながらIN/OUTボタンを押すと、オートパンチイン / アウトモードに切り換わります。(→54ページ「オートパンチイン / アウト機能」)

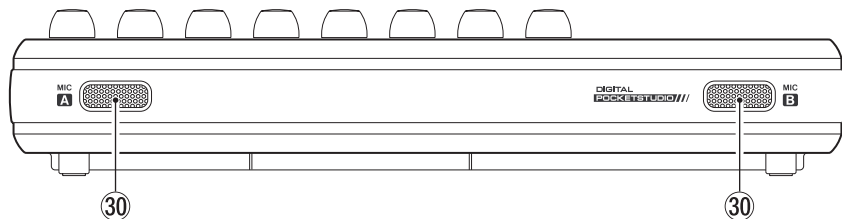
②⑨ IN/OUTボタン

このボタンを押すと “I/O SETTING” 画面を表示し、リピート再生やトラック編集の始点 (INポイント) と終点 (OUTポイント) を登録します。(→51ページ「INポイント / OUTポイントを設定する」)

なお、INポイント / OUTポイントはステレオマスタートラック作成時の始点 / 終点としても使われます。

録音 (●) ボタンを押しながらこのボタンを押すと、オートパンチイン / アウトモードに切り換わります。(→54ページ「オートパンチイン / アウト機能」)

フロントパネル

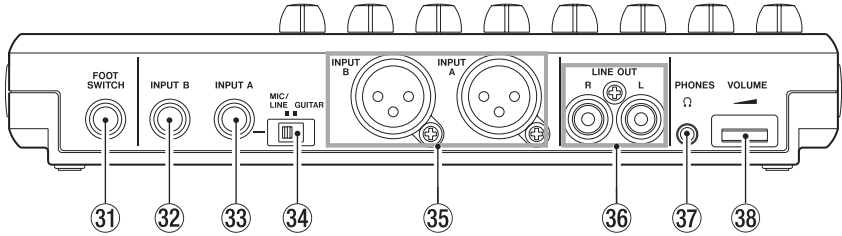


③⑩ MIC A / MIC B

内蔵の無指向性マイクです。

INPUT A / Bの入力として、内蔵マイク (“Internal MIC / Low”、“Internal MIC / High”) を選択したときの入力ソースになります。

リアパネル



③1 FOOT SWITCH端子

フットスイッチによるパンチン/アウト（録音のスタート/ストップ）が可能です。

③2 INPUT B端子 (TS標準ジャック、アンバランス)

“INPUT SETTING”画面で、“INPUT B”の入力として外部入力（“Ext. Input, LINE/ Low”、“Ext. Input Mid”、“Ext. Input High”）を選択したときの入力ソースになります。

ライン信号（アンバランス）またはマイク信号（アンバランス）を入力することができます。

③3 INPUT A端子 (TS標準ジャック、アンバランス)

“INPUT SETTING”画面で、“INPUT A”の入力として外部入力（“Ext. Input, LINE/ Low”、“Ext. Input Mid”、“Ext. Input High”）を選択したときの入力ソースになります。

ギター/ライン信号（アンバランス）またはマイク信号（アンバランス）を入力することができます。

入力ソースに応じて、MIC/LINE - GUITARスイッチを設定します。

③4 MIC/LINE - GUITARスイッチ

リアパネルのINPUT A端子に入力する信号ソースに合わせて設定します。マイクやライン信号を入力するときは「MIC/LINE」、ギターやベースを直接入力するときは「GUITAR」に設定します。

ヒント

プリアンプ内蔵のエレコギターやアクティブタイプのエレキギターを接続する場合や、エレキギターと本機の間にはエフェクターなどを接続する場合は、MIC/LINE-GUITAR切り換えスイッチを「MIC/LINE」に設定します。

③5 INPUT A / B端子 (XLR端子、バランス)

XLRバランスタイプのマイク/ライン入力端子です。ファントム電源を必要とするコンデンサーマイクも接続可能です。（1：GND、2：HOT、3：COLD）

メモ

XLR端子とTS標準ジャック両方に、機器を接続した場合は、TS標準ジャックが優先されます。

③6 LINE OUT端子 (RCA端子、アンバランス)

外部モニターシステム（パワーモニターシステムまたはアンプとスピーカーシステム）を接続します。

③7 PHONES端子 (ステレオミニジャック)

ステレオヘッドホンに接続するステレオミニジャックです。

リアパネルのVOLUMEダイヤルで音量を調節します。

注意

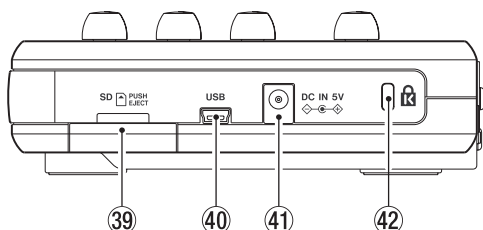
ヘッドホンに接続する前には、リアパネルのVOLUMEダイヤルの音量を最小にしてください。突然大きな音が出て、聴力障害などの原因となることがあります。

③8 VOLUMEダイヤル

PHONES端子から出力される音量を調節します。

第3章 各部の名称と働き

右サイドパネル



③9 SDカードスロット

SDカードを挿入するカードスロットです。

④0 USB端子

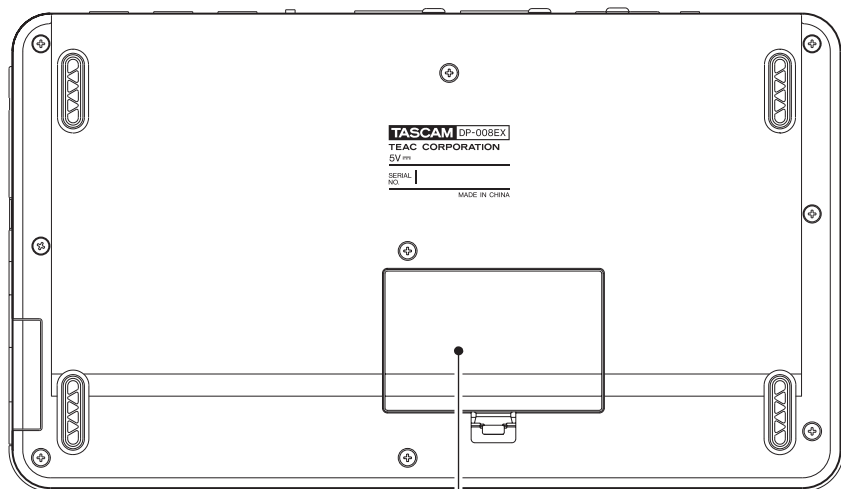
付属のUSBケーブルを使ってパソコンと接続します。パソコンとのファイル共有や、インポート、エクスポート、ソングファイルのバックアップ/リストア（復元）が可能です。（→ 74ページ「パソコンと接続する」）

④1 DC IN 5V端子

別売の専用ACアダプター（TASCAM PS-P520）を接続します。

④2 ケンジントロック装着穴

ボトムパネル

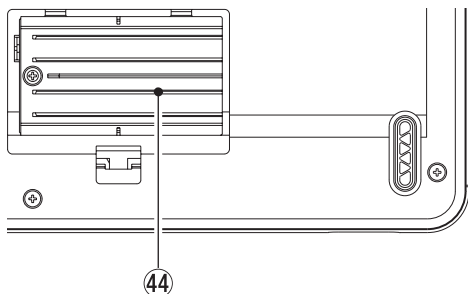


④3

④3 電池ケース蓋

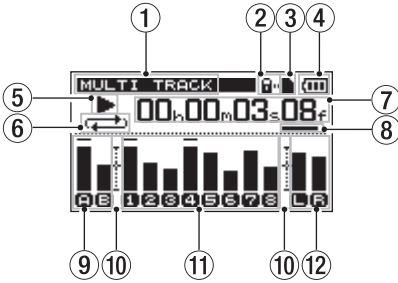
④4 電池ケース

本機の電源になる電池（単3形電池、4本）を収納するケースです。



④4

ホーム画面




① レコーダーモード



現在のレコーダーモードを表示します。

ディスプレイ表示	レコーダーモード
MULTI TRACK	マルチトラックモード
BOUNCE	バウンスモード
MIXDOWN	ミックスダウンモード
MASTERING	マスタリングモード






② SDカードのライトプロテクト表示

SDカードのライトプロテクトスイッチが「LOCK」されているときに、「」アイコンを表示します。

③ SDカードの有無表示






SDカードが挿入されているときに「」アイコンを表示します（挿入されていないときは「」アイコンを表示）。

④ 電源状態表示



電池供給時は、電池アイコンを表示します。電池残量に応じて、目盛りが表示されます（「」、「」、「」）。目盛り表示がなくなると「」が点滅表示し、電池切れのためにまもなく電源がオフになります。別売の専用ACアダプター（TASCAM PS-P520）使用時は、「」を表示します。

⑤ レコーダーのトランスポート状態表示

レコーダーの動作状況によって、以下のアイコンを表示します。

表示	内容
	停止中
	再生中
	録音中
	早戻し中
	早送り中

⑥ リピート再生／オートパンチイン／アウトモード表示

リピート再生モード中は、「」を表示します。オートパンチイン／アウトモード中は、「」を表示します。



⑦ レコーダーのタイムカウンター表示





ソングの先頭（「00h00m00s00f」）からの経過時間を表示します。

⑧ 時間編集対象桁を示すカーソル表示

停止中にHOMEボタンを押すと、タイムカウンター表示のカーソル（下線）移動を行います。DATAホイールを回すと、カーソル（下線）位置の時間桁の値が変わります。

⑨ INPUT A / Bのレベルメーター表示および入力のイコライザーのオン／オフ状態表示

INPUT A（「」）、INPUT B（「」）の入力ソースの信号レベルを表示します。入力のイコライザーのオン／オフによってアイコン表示が以下のように変わります。



入力のイコライザー	レベルメーター表示
オフ	「  」、「  」
オン	「  」、「  」

⑩ レベルメーターガイド表示





入力／出力レベル調節の目安となるレベルメーターガイドです。目盛りの-12dBの位置に表示しています。

⑪ TRACK 1- 8のレベルメーター表示、トラックのミュートおよびトラックのイコライザーのオン／オフ状態表示

録音時は入力（録音）信号、再生時は再生信号のレベルを表示します。トラックがミュートされているTRACKは、トラック番号が反転表示します。

トラックのミュート	レベルメーター表示
オフ	「  」、「  」
オン	「1」、「2」

トラックイコライザーのオン／オフによってアイコン表示が以下のように変わります。

トラックのイコライザー	レベルメーター表示
オフ	「  」、「  」
オン	「  」、「  」

⑫ ステレオ出力（L / R）のレベルメーター表示

LINE OUT端子およびPHONES端子からの出力信号レベルを表示します。

第3章 各部の名称と働き

メニューの構成

MENUボタンを押すと、“MENU”画面が表示されます。

メニュー項目は、以下の通りです。

メニュー項目	機能	参照ページ
INFORMATION	ファイル情報、SDカード情報、システム情報を表示します。	→ 70ページ
SONG	ソングのロード、セーブや新規作成などを行います。	→ 37ページ
CARD	SDカードのフォーマットなどを行います。	→ 71ページ
DATA BACKUP	ソングのバックアップとリストア（復元）を行います。	→ 76ページ
IMPORT/EXPORT	トラックのインポートとエクスポート、ステレオマスタートラックのエクスポートを行います。	→ 77ページ
PREFERENCE	リピート再生の間隔、コントラスト、バックライト、オートパワーセーブ、フットスイッチの設定、バックアップメモリーの初期化（イニシャライズ）など設定を行います。	→ 36ページ → 52ページ → 53ページ → 69ページ → 70ページ

専用ボタンからダイレクトに使用、設定ができる画面が表示されます。項目は、以下の通りです。

ボタン	機能	参照ページ
BOUNCE/MIXDOWN/ MASTERING	トラックバウンスを行ったり、ステレオマスタートラックを作成したり、調節したりします。	→ 50ページ → 62ページ
PHANTOM	ファントム電源をオン/オフします。	→ 42ページ
INPUT SETTING/ EQ/DYN	入力ソースを選択し、入力のイコライザーおよびダイナミクスエフェクトを設定します。	→ 42ページ → 44ページ
ASSIGN	トラックの録音ソースをINPUT A / Bのどちらかに割り当てます。	→ 43ページ
REVERB	リバースを設定します。	→ 60ページ
EQ	トラックのイコライザーを設定します。	→ 60ページ
TUNER	楽器をチューニングするときに使います。	→ 68ページ
METRONOME	メトロノームの設定を行います。	→ 68ページ
TRACK EDIT	トラックの編集を行います。	→ 55ページ
UN/REDO [HISTORY]	シングルアンドゥ/リドゥを行います。	→ 48ページ
UN/REDO [HISTORY] の長押し	アンドゥ/リドゥの履歴を表示、選択実行します。	→ 48ページ
REPEAT	設定されたINポイントとOUTポイントの間をリピート再生します。	→ 51ページ
IN/OUT	INポイント / OUTポイントを設定します。	→ 51ページ
録音 (●) + IN/OUT	オートパンチイン/アウトモードに切り換えます。	→ 54ページ

画面の操作

MENUボタンまたは専用ボタンを使って画面を表示したあと、以下の要領で操作を行います。ここで示すのは基本的な操作方法であり、ディスプレイに表示されている画面により、ファンクションボタンの割り当てが異なることがあります。

メモ

再生中や録音中は、SDカードにアクセスが発生する可能性のある画面を呼び出すことができません。このような画面を呼び出そうとした場合には、ポップアップメッセージ“Not Stopped”（レコーダーが停止していません）が表示されます。

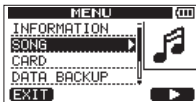
ファンクションボタンについて

画面内の下部にその下にあるファンクションボタンが、何に割り当てられているかを表示します。本取扱説明書では便宜上、ファンクションボタンを左から順にF1、F2、F3、F4ボタンと表記します。



F1ボタンの上には“[BACK]”と表示されていますので、この画面ではF1ボタンに“[BACK]”が割り当てられています。このとき、F1 “[BACK]” ボタンのように表現しています。F2ボタンには “[EXEC]” が、F3ボタンには “[INS]”、F4ボタンには “[DEL]” 割り当てられています。

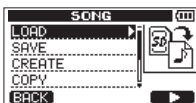
- 項目を選択するには、DATAホイールを使って希望する任意の項目を選択（反転表示）します。



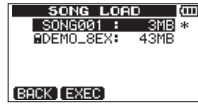
“MENU”画面の例です。

この画面では、“SONG”メニュー項目にカーソル（反転表示部）されています。

- 現在表示されているメニューリストの上または（および）下にも項目がある場合、画面右側のスクロールバーに“▲”と“▼”が表示されます（上記の“MENU”画面では“▼”が表示され、“DATA BACKUP”項目の下にも項目があることを示しています）。
- サブ画面がある項目（“MENU”画面など）では、右側に“[▶]”が表示され、F4 “[▶]” ボタンを使って確定します。
- サブ画面では、F1 “[BACK]” ボタンを押すと、前の画面に戻ることができます。



- 実行するときには、ファンクションボタンに “[EXEC]” が割り当てられていますので、それを押します。



“SONG LOAD”画面の例です。

F2 “[EXEC]” ボタンを押すと、カーソル（反転表示部）のあるソングのロードを行います。

- 設定値にカーソル（反転表示部）がある場合には、DATAホイールは値の変更に使います。カーソル（反転表示部）の移動には、“[▲]” および “[▼]” の割り当てられているファンクションボタンを使います。



“CLONE TRACK”画面の例です。

DATAホイールで“SOURCE TRK”（コピー元のトラック）の値を変更します。

F3 “[▲]” ボタンまたはF4 “[▼]” ボタンを使って、カーソル（反転表示部）を上または下に移動します。

F2 “[EXEC]” ボタンを押すと、表示の内容でコピー＆ペーストを実行します。

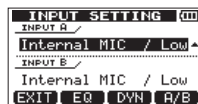
- 左右に動かす必要がある場合には、◀ [RTZ] ボタンまたは ▶ [LRP] ボタンを使います。このとき画面内に、カーソルが“◀◀” および “▶▶” に割り当てられることを示す絵が表示されます。



- 次の操作に進む場合は、F4 “[NEXT]” ボタンを押します。



- 専用ボタンからアクセスした画面を抜ける時には、F1 “[EXIT]” ボタンを押します。



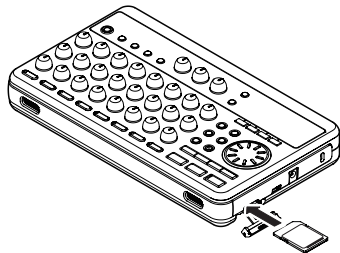
- ホーム画面に戻るには、HOMEボタンを押します。

第4章 準備

SDカードを挿入する／取り出す

SDカードを挿入する

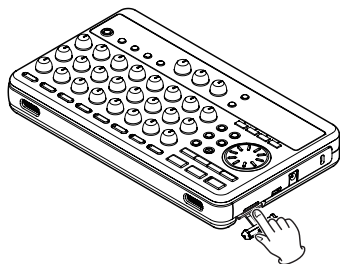
1. 右サイドパネルにあるSDカードスロットカバーを開けます。
2. SDカードスロット部にSDカードを図の方向にカチッと音がするまで差し込みます。



3. SDカードをセットしたら、SDカードスロットカバーを閉めます。

SDカードを取り出す

挿入されているSDカードを奥に押すと、手前に出てきます。

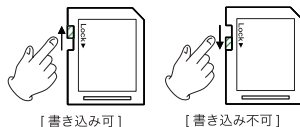


注意

- SDカードを抜き差しする前に、必ず電源をオフ（スタンバイ状態）にしてください。電源がオンのときにSDカードを抜き差しすると、データが失われる可能性があります。なお、失われたデータや設定は、復活することができません。
- 使用できるSDカードは、512MB以上のSD / SDHC規格に対応したカードです。
- TASCAMのウェブサイト (<http://tascam.jp/>) には、当社で動作確認済みのSDカードのリストが掲載されています。

SDカードのライトプロテクトスイッチについて

SDカードには、ライトプロテクト（書き込み防止）スイッチがついています。



ライトプロテクトスイッチを「LOCK」の方向へスライドするとファイルの記録や編集ができなくなります。録音や削除などを行う場合は、書き込み禁止を解除してください。

電源の準備

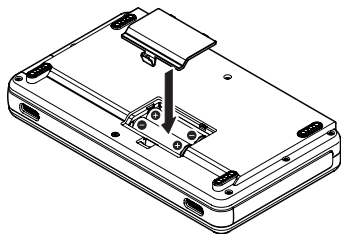
本機は、単3形電池4本または別売の専用ACアダプター（TASCAM PS-P520）を使って本機に電源を供給します。

本機は、単3形アルカリ乾電池および単3形ニッケル水素電池も使用することができます。

電池で使用する

本機のボトムパネルに電池ケースがあります。

電池ケースに単3形電池4本を電池ケース内の⊕と⊖の表示に合わせてセットします。

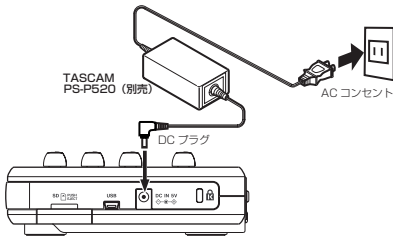


注意

- 単3形マンガン乾電池は、使用できません。
- 本機で単3形ニッケル水素電池を充電することはできません。市販の充電器をご使用ください。
- 付属のアルカリ乾電池は、動作確認用です。そのため使用可能時間が短い場合があります。
- しばらくご使用にならない場合は、電池を取り外してください。少しずつ消費されたり、残量減少や液漏れの原因になります。

ACアダプターで使用する（別売）

図のように、別売の専用ACアダプター（TASCAM PS-P520）をDC IN 5V端子に接続します。



注意

- ACアダプターで使用する場合は、必ず別売の専用ACアダプター（TASCAM PS-P520）をご使用ください。それ以外のもを使用すると故障、火災、感電の原因となります。
- 本機への電源供給は、電池またはACアダプターからとなります。USB経由で電源供給を行うことはできません。

メモ

電池とACアダプターの両方をセットした場合は、ACアダプターから電源が供給されます。

起動と終了

起動する

トップパネルの **⏻/⏪** ボタンを押し続け、“TASCAM”が表示されたら離します。本機が起動すると、ディスプレイに以下の画面（ホーム画面）が現れます。



[起動画面]



[ホーム画面]

本体起動時のレコーダーモードは、前回終了時のレコーダーモードにかかわらず、常に“MULTI TRACK”モードで立ち上がります。

注意

- 本機の電源のオン/オフ（スタンバイ状態）操作は、本機に接続している外部モニターシステム（パワードモニタースピーカーまたはアンプとスピーカーシステム）のボリュームを絞った状態で行ってください。
- 電源オン/オフ（スタンバイ状態）操作時にヘッドホンを装着しないでください。ノイズによっては、聴覚を損傷する恐れがあります。

終了する

本機を終了するには、あらかじめ以下の準備を行います。

- レコーダーを停止します（再生中、録音中、早送り中などは本機を終了できません）。
- ディスプレーをホーム画面に戻します。
- パソコンとUSB接続している場合、パソコンから本機を正しい手順で取り外してからUSBケーブルを外します。

準備ができれば、以下の画面が表示されるまで **⏻/⏪** ボタンを押し続けます。



シャットダウン処理（今まで操作した各種情報の記録）が実行された後に、電源がオフ（スタンバイ状態）になります。

注意

- 電源がオンのときに電池を外したり電源コードを抜くなどして電源を切らないでください。前回のシャットダウン処理もしくはソングセーブ以降の記録データや設定が全て失われます。なお、失われたデータや設定は復活することができません。
- 電源をオフ（スタンバイ状態）にすると、現在ロードされているソングの操作履歴が全て消去されます。再度電源をオンにしたときは前回の電源オフ（スタンバイ状態）時の状態でソングが立ち上がり、過去の操作のアンドゥやリドゥはできません。

SDカードを使えるようにする

新しいSDカードを使用するには、初期フォーマットが必要です。本機は、SDカードをFATパーティションとMTRパーティションに分割します。SDカードの容量が大きい場合には、複数のMTRパーティションに分割することもできます。

パーティションに関する詳しい説明は「第11章 SDカードの管理」(71ページ)をご覧ください。

メモ

付属のSDカードは、フォーマット済みですので初期フォーマットする必要がありません。フォーマットを行うと、あらかじめ記録されているデモソングが消去されてしまいます。

1. 新しいSDカードを本機に最初に挿入すると、フォーマットを促す以下のポップアップメッセージが表示されます。



メモ

本機以外の機器でフォーマットを行ったSDカードを挿入した場合も、フォーマットを促す上記のポップアップメッセージが表示されます。

注意

フォーマットを実行すると他の機器で記録されたデータも全て消去されて復元できなくなりますのでご注意ください。

2. F3 “[YES]” ボタンを押します。

SDカードの容量に応じて、標準的なパーティション設定でフォーマットが行われます。

フォーマットが正常に終了すると、ホーム画面が表示されます。

メモ

- フォーマットを実行しない場合は、F4 “[NO]” ボタンを押します。
- SDカードの容量によっては、あとからパーティション設定を変更できる場合があります。その場合、“CARD”メニュー画面の“FORMAT”項目でパーティションサイズを設定してからフォーマットを行います。(→ 71ページ「第11章 SDカードの管理」)

レコーダーモード

本機には、4つのレコーダーモードがあります。

MULTI TRACK

本機がマルチトラックレコーダーとして動作します。

BOUNCE

トラックバウンスを行います。(→ 50ページ「トラックバウンス」)

MIXDOWN

各トラックをミックスしたステレオマスタートラックを作成します。(→ 60ページ「ミックスダウン」)、(→ 62ページ「ステレオマスタートラックを作成する」)

MASTERING

作成したステレオマスタートラックを再生する、またはエフェクトをかけてステレオマスタートラックの調節(マスタリング)を行います。(→ 63ページ「ステレオマスタートラックを確認する」)、(→ 64ページ「ステレオマスタートラックを仕上げる(マスタリング)」)

本体起動時のレコーダーモードは、前回終了時のレコーダーモードにかかわらず、常に“MULTI TRACK”モードで立ち上がります。

レコーダーモードが“MULTI TRACK”モード以外のモードのときは、画面を使った操作を受け付けられない場合が多くあります。

本取扱説明書の説明では、特に断りのない限り、レコーダーモードが“MULTI TRACK”モードであることを前提としています。

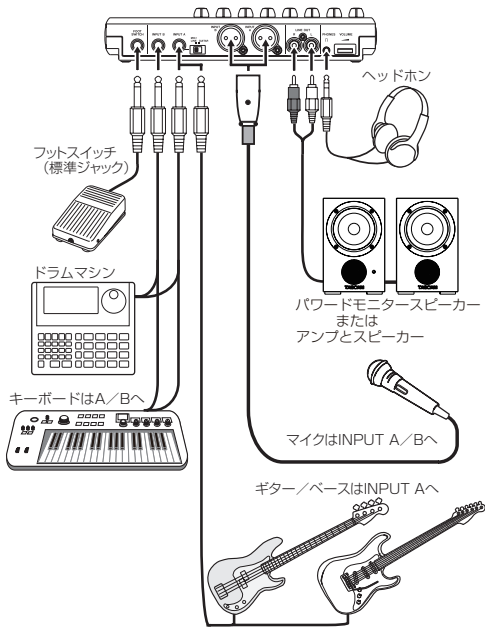
外部機器との接続

本機の接続例を示します。

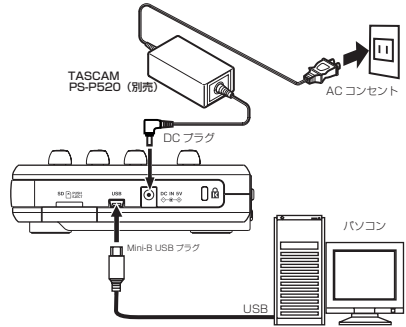
接続前の注意

- 本機および接続する機器の電源を全てオフまたはスタンバイ状態にします。
- 各機器の電源は、同一のラインから供給するように設置します。テーブルタップなどを使う場合は、電源電圧の変動が少なくなるように、電流容量が大きい太いケーブルをご使用ください。

リアパネル



右サイドパネル



メモ

- 本機をパソコンとUSB接続しているときは、レコーダーとしての機能を使うことができません。
- 本機のレコーダーモードが“MULTI TRACK”モードのときのみ、パソコンとのUSB接続が可能です。

メモ

音を出す前は、**VOLUME**ダイヤル、および外部モニターシステム（パワーモニタースピーカーまたはアンプとスピーカーシステム）の音量を最小にしてください。突然大きな音が出て、聴力障害などの原因となることがあります。

コントラストを調節する

ディスプレイのコントラストを調節することができます。以下の手順でコントラストの調節を行います。

1. レコーダーが停止中にMENUボタンを押して、“MENU”画面を表示します。
2. DATAホイールを使って、“PREFERENCE”項目を選択（反転表示）し、F4 “[▶]” ボタンを押します。“PREFERENCE”画面が表示されます。



3. F3 “[▲]” ボタンとF4 “[▼]” ボタンを使って “Contrast” 項目の設定値を選択（反転表示）し、DATAホイールを使ってディスプレイのコントラストを調節します。



設定値：“1”～“10”（初期値：“5”）

数値が小さいほど表示が薄く、大きいほど濃くなります。

ディスプレイは、見る角度によって見えかたが変わります。

コントラストを調節することで見えやすくなる場合がありますので、本機を使用する場所で実際の表示を見ながら調節してください。

4. 設定が終了したら、HOMEボタンを押してホーム画面に戻します。

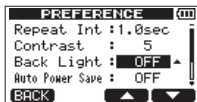
バックライトを設定する

バックライトの点灯時間を設定することができます。

1. レコーダーが停止中にMENUボタンを押して、“MENU”画面を表示します。
2. DATAホイールを使って “PREFERENCE” 項目を選択（反転表示）し、F4 “[▶]” ボタンを押します。“PREFERENCE”画面が表示されます。



3. F3 “[▲]” ボタンとF4 “[▼]” ボタンを使って “Back Light” 項目の設定値を選択（反転表示）し、DATAホイールを使ってバックライトの点灯時間を設定します。



設定値：“OFF”（初期値）、“5sec”、“10sec”、“15sec”、“30sec”

“OFF”（初期値）に設定時は、バックライトが点灯し続けます。

4. 設定が終了したら、HOMEボタンを押してホーム画面に戻します。

第5章 ソングの管理

本機は、ソングと呼ばれる単位でデータを管理します。通常、曲ごとにソングを割り当てます。まず初めに希望する任意のソングをロードします（既存のソングをロードするか、あるいは新たなソングを作成）。ソングには、録音したマルチトラック（TRACK 1~8）とステレオマスタートラックが保存されます。本章では、SDカード内の2つのパーティションの説明に始まり、ソングのロード方法や新しいソングの作成手順といった基本操作から、各種のソング管理機能までを説明します。

パーティションとソング

ソングのデータの記録先は、SDカードです。本機でフォーマットされたSDカードは、2つのパーティションに仕切られています。

2つのパーティションは、ソングのデータを記録するための「MTRパーティション」と、パソコンからの読み込みが可能な「FATパーティション」があります。また、容量の大きいSDカードの場合、複数のMTRパーティションが作成される場合があります。

本機で録音、再生、編集などレコーダー操作を行うには、作業対象のMTRパーティション（アクティブパーティション）を選択し、その中のソングをロードするか、あるいは新たにソングを作成します。

アクティブパーティションを変更する

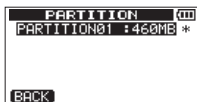
現在のアクティブパーティション以外のMTRパーティション内のファイルを使って作業を行ったり、新規のファイルを別のMTRパーティション内に作成するには、アクティブパーティションを変更する必要があります。以下の操作は、複数のMTRパーティションが存在するSDカードが挿入されていることを前提にしています。

1. レコーダーが停止中にMENUボタンを押して、“MENU”画面を表示します。
2. DATAホイールを使って“CARD”メニュー項目を選択（反転表示）し、F4 “[▶]” ボタンを押します。“CARD”メニュー画面が表示されます。
3. DATAホイールを使って“PARTITION”項目を選択（反転表示）し、F4 “[▶]” ボタンを押します。

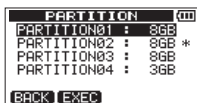


“PARTITION”画面に進み、MTRパーティションがリスト表示されます。

アクティブパーティション名の末尾には“*”アイコンが表示されます。また、表示されている容量は各MTRパーティションのサイズです（空き容量ではありません）。



[パーティションが1つだけの場合]



[パーティションが複数の場合]

4. DATAホイールを使って希望する任意のパーティションを選択し、F2 “[EXEC]” ボタンを押します。確認のポップアップメッセージ“Are you sure?”が表示されます。



5. F3 “[YES]” ボタンを押します。現在作業中のソングが保存された後、アクティブパーティションが変更されます。そして、変更後のパーティションで前回最後に作業を行ったソングがロードされます。

第5章 ソングの管理

名前の編集

以下の場合に名前（タイトル）の編集が可能な画面が表示されます。

ソングの保存、作成、名前編集

“SONG SAVE” 画面、“SONG CREATE” 画面、“NAME EDIT” 画面

ソングをバックアップするとき

“SONG BACKUP” 画面

WAVファイルをエクスポートするとき

“EXPORT TRACK” 画面、“EXPORT MASTER” 画面



[NAME EDIT画面]

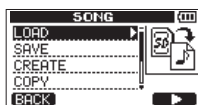
以下の要領で名前（タイトル）の編集を行います。

- ◀◀ [RTZ] ボタンと ▶▶ [LRP] ボタンを使ってカーソル（下線）位置を移動します。カーソル位置が編集位置になります。
- DATAホイールを使ってカーソル（下線）位置の文字を変更します。
“SONG SAVE”、“SONG CREATE” および “NAME EDIT” の各画面では、一般的な記号、数字、英大文字、英小文字を入力することができます。
- “SONG BACKUP”、“EXPORT TRACK” および “EXPORT MASTER” の各画面では、英小文字を入力することができません。
- “SONG SAVE”、“SONG CREATE” および “NAME EDIT” の各画面を表示中にF3 “[INS]” ボタンを押すと、カーソル位置に空白を挿入されます。
“SONG BACKUP”、“EXPORT TRACK” および “EXPORT MASTER” の各画面を表示中にF3 “[INS]” ボタンを押すと、カーソル位置に “A” が挿入されます。
- カーソル位置の文字を削除するには、F4 “[DEL]” ボタンを押します。
- 入力または編集が終了したらF2 “[EXEC]” ボタンを押して、新しい名前（タイトル）を保存します。

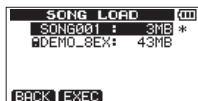
ソングをロードする

以下の手順で、アクティブパーティション上の希望する任意のソングをロードします。

1. レコーダーが停止中にMENUボタンを押して、“MENU” 画面を表示します。
2. DATAホイールを使って “SONG” メニュー項目を選択（反転表示）し、F4 “[▶]” ボタンを押します。
“SONG” メニュー画面が表示されます。
3. DATAホイールを使って “LOAD” 項目を選択（反転表示）し、F4 “[▶]” ボタンを押します。



“SONG LOAD” 画面に進み、MTRパーティション内のソングがリスト表示されます。



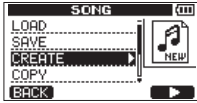
現在ロード中のソング容量末尾には “*” アイコンが表示されます。また、プロテクトされているソング名の先頭には、“P” アイコンが表示されます。

4. DATAホイールを使って希望する任意のソングを選択（反転表示）し、F2 “[EXEC]” ボタンを押します。
現在ロード中のソングが保存され、選択したソングがロードされます。
5. HOMEボタンを押して、ホーム画面に戻ります。

新しいソングを作成する

以下の手順で、アクティブパーティション上に新規のソングを作成します。

1. レコーダーが停止中にMENUボタンを押して、“MENU”画面を表示します。
2. DATAホイールを使って“SONG”メニュー項目を選択（反転表示）し、F4 “[▶]” ボタンを押します。“SONG”メニュー画面が表示されます。
3. DATAホイールを使って“CREATE”項目を選択（反転表示）し、F4 “[▶]” ボタンを押します。



“SONG CREATE”画面が表示されます。



作成されるソングには、あらかじめ“SONG****”というソング名(タイトル)が付けられています(***は番号、上の画面例では“SONG005”)。

4. 必要に応じてソングの名前(タイトル)を編集します。(→ 38ページ「名前の編集」)

ヒント

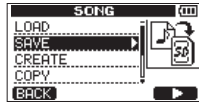
後からでも、“SONG”メニュー画面の“NAME EDIT”項目を使ってソングの名前(タイトル)を編集することができます。また、ソングを保存するときにもソング名を編集することができます。

5. F2 “[EXEC]” ボタンを押します。
現在ロードされているソングが保存され、新しいソングが作成されます。
6. HOMEボタンを押して、ホーム画面に戻ります。

ソングを保存する

本機をシャットダウン処理(今まで操作した各種情報の記録)するときや別のソングを呼び出すときに、ソングが自動的に保存されますが、以下の手順でいつでもソングを保存することができます。

1. レコーダーが停止中にMENUボタンを押して、“MENU”画面を表示します。
2. DATAホイールを使って“SONG”メニュー項目を選択（反転表示）し、F4 “[▶]” ボタンを押します。“SONG”メニュー画面が表示されます。
3. DATAホイールを使って“SAVE”項目を選択（反転表示）し、F4 “[▶]” ボタンを押します。



“SONG SAVE”画面が表示されます。



4. 必要に応じてソングの名前(タイトル)を編集します。(→ 38ページ「名前の編集」)
そのまま保存するときは、F2 “[EXEC]” ボタンを押します。
ソングの保存中は“Storing Song”、保存が終了すると“SONG SAVE Complete”とポップアップメッセージが表示された後、“SONG”メニュー画面に戻ります。
5. HOMEボタンを押して、ホーム画面に戻ります。

ソング情報を見る

カレントソング（現在ロード中のソング）の名前（タイトル）、所属のMTRパーティション、録音残時間を“INFORMATION”画面の“SONG (1/3)”ページで確認することができます。（→70ページ「情報を見る」）

メモ

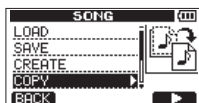
“INFORMATION”画面には、“SONG (1/3)”、“CARD (2/3)”、“FW (3/3)”の3ページがあり、F3 “[PREV]”ボタン、F4 “[NEXT]”ボタンを使ってページを切り換えます。（→70ページ「情報を見る」）

ソングをコピーする

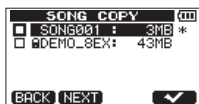
現在のアクティブパーティション内のソングを、同じパーティションまたは別のMTRパーティションにコピーすることができます。

複数のソングをまとめて一括コピーすることもできます。

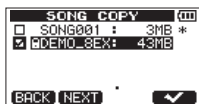
- レコーダーが停止中にMENUボタンを押して、“MENU”画面を表示します。
- DATAホイールを使って“SONG”メニュー項目を選択（反転表示）し、F4 “[▶]”ボタンを押します。“SONG”メニュー画面が表示されます。
- DATAホイールを使って“COPY”項目を選択（反転表示）し、F4 “[▶]”ボタンを押します。



“SONG COPY”画面に進み、アクティブパーティション内のソングがリスト表示されます。



- DATAホイールを使ってコピーしたいソングを選択（反転表示）し、F4 “[✓]”ボタンを押します。ソングがコピー元として選択され、チェックボックスが“✓”されます。



メモ

チェックボックスの“✓”を外したいときは、選択（反転表示）した状態でF4 “[✓]”ボタンを押します。

- 複数のソングをコピーする場合には、手順4.を繰り返します。

- コピーするソングを全て選択（チェックボックスを“✓”）したら、F2 “[NEXT]”ボタンを押します。コピー先のMTRパーティションを表示します。



また、この表示では選択されたMTRパーティションの空き容量（“Free”）と、コピーするソングのデータ容量（“Total”）が表示されます。

空き容量（“Free”）がソングの容量よりも小さいときには、コピーすることはできません（実行時に警告のポップアップメッセージ“**No Disk Space**”（空き容量がありません。）が表示されます）。

- DATAホイールを使ってコピー先のMTRパーティションを選択し、F4 “[EXEC]”ボタンを押します。コピーが実行され、終了すると“SONG”メニュー画面に戻ります。

メモ

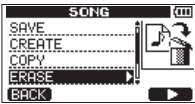
ソングコピーをやめる場合は、F1 “[BACK]”ボタンを押します。

- HOMEボタンを押して、ホーム画面に戻ります。

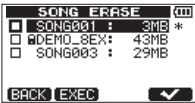
ソングを消去する

ソングを消去することができます。複数のソングをまとめて一括消去することもできます。メディアの空き容量が少なくなった場合、不要なソングを消去することをお勧めします。

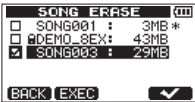
1. レコーダーが停止中にMENUボタンを押して、“MENU”画面を表示します。
2. DATAホイールを使って“SONG”メニュー項目を選択（反転表示）し、F4 “[▶]” ボタンを押します。“SONG”メニュー画面が表示されます。
3. DATAホイールを使って“ERASE”項目を選択（反転表示）し、F4 “[▶]” ボタンを押します。



“SONG ERASE”画面に進み、アクティブパーティション内のソングがリスト表示されます。



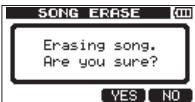
4. DATAホイールを使って消去したいソングを選択（反転表示）し、F4 “[✓]” ボタンを押します。ソングのチェックボックスが“✓”されます。



メモ

チェックボックスの“✓”を外したいときは、選択（反転表示）した状態でF4 “[✓]” ボタンを押します。

5. 複数のソングを消去する場合、手順4.を繰り返します。
6. 消去するソングを全て選択（チェックボックスを“✓”）したら、F2 “[EXEC]” ボタンを押します。確認のポップアップメッセージが表示されます。



7. F3 “[YES]” ボタンを押します。消去が実行され、終了すると“SONG”メニュー画面に戻ります。

メモ

ソングの消去をやめる場合は、F4 “[NO]” ボタンを押します。

8. HOMEボタンを押して、ホーム画面に戻ります。

メモ

MTR/パーティションには、必ずソングが1つ以上存在します。したがって、全てのソングを消去すると新規のソングが1つ作成されます。

ソングをプロテクトする

ソングをプロテクトすることにより、そのソングに対する編集、録音、消去といった操作ができなくなります。

1. レコーダーが停止中にMENUボタンを押して、“MENU”画面を表示します。
2. DATAホイールを使って“SONG”メニュー項目を選択（反転表示）し、F4 “[▶]” ボタンを押します。“SONG”メニュー画面が表示されます。
3. DATAホイールを使って“PROTECT”項目を選択（反転表示）し、F4 “[▶]” ボタンを押します。



プロテクトのオン/オフを設定する“SONG PROTECT”画面が表示されます。



4. DATAホイールを使って“PROTECT”項目を“ON”に設定し、F2 “[EXEC]” ボタンを押します。ソングのプロテクトがオンに設定されて、“SONG”メニュー画面に戻ります。

メモ

- コピー、削除などを行うときに表示されるソングリスト上では、プロテクトされたソング名の先頭に“C”アイコンが表示されます。
- プロテクトされたソングに対して禁止操作（編集、録音、消去）を実行しようとするると、ディスプレイにポップアップメッセージ“Song Protected”（ソングがプロテクトされています）と表示され、操作を受け付けません。
- プロテクトされたソングのプロテクトを解除するには、上記の手順4.で“PROTECT”項目を“OFF”に設定します。

第6章 基本レコーディング

入カソースを選択する

本機には、2つの入力（INPUT A / B）があり、それぞれ個別に入カソースを選択することができます。

入カソースには、内蔵マイク（フロントパネルのMIC A / B）または外部入カ信号（リアパネルのINPUT A / B端子からの入力）を選択できます。

INPUT Aの標準ジャック入力は、マイク／ライン信号のほかにギターやベースを入カすることができます。

ギターを入カする場合は、リアパネルのMIC/LINE - GUITARスイッチを「GUITAR」に設定します。

1. レコーダーが停止中にINPUT SETTING/EQ/DYNボタンを押して、「INPUT SETTING」画面を表示します。



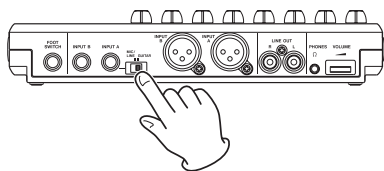
“INPUT A” と “INPUT B” 項目で、INPUT AとINPUT Bの入カソースを設定します。

2. F4 “[A/B]” ボタンを使って “INPUT A” または “INPUT B” 項目の設定値を選択（反転表示）し、DATAホイールを使って入カソースを設定します。

“INPUT A” および “INPUT B” の選択肢

選択肢	内容
Internal MIC /Low (初期値)	内蔵マイクA / B (入カゲイン：低)
Internal MIC /High	内蔵マイクA / B (入カゲイン：高)
Ext. Input, LINE / Low	外部ライン入カA / B (入カゲイン：低)
Ext. Input / Mid	外部ライン入カA / B (入カゲイン：中)
Ext. Input / High	外部ライン入カA / B (入カゲイン：高)

3. 設定が終了したら、HOMEボタンを押してホーム画面に戻ります。
4. 上記の手順2で “INPUT A” の入カソースをINPUT A端子経由の入カソースとして選択した場合は、リアパネルのMIC/LINE - GUITAR切り換えスイッチを適切に設定します。
ギターやベースを直接入カした場合は、「GUITAR」に設定します。
マイクやライン信号を入カした場合は、「MIC/LINE」に設定します。



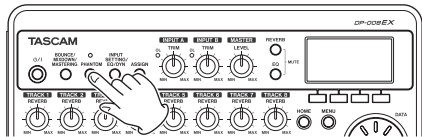
ヒント

プリアンプ内蔵のエレアコギターやアクティブタイプのエレキギターを接続する場合や、エレキギターと本機の間にはエフェクターなどを接続する場合は、MIC/LINE - GUITAR切り換えスイッチを「MIC/LINE」に設定します。

ファントム電源について

ファントム電源を必要とするコンデンサーマイクを接続する場合は、以下の手順でファントム電源をオンにします。ファントム電源をオンにすると、INPUT AおよびINPUT BのXLR端子の両方にファントム電源が供給されます。

1. レコーダーが停止中にPHANTOMボタンを押して、“PHANTOM”画面が表示されます。



2. F4 “[ON]” ボタンを押すと、ファントム電源がオンになり、PHANTOMボタンの上のインジケーターが点灯し、ホーム画面に戻ります。
ファントム電源をオフにするには、F1 “[OFF]” ボタンを押します。

注意

- ファントム電源のオン／オフは、MASTER LEVELつまみを下げた状態で行ってください。マイクによっては大きなノイズを発生し、他の機器または聴覚を損傷する恐れがあります。
- ファントム電源をオンにした状態でマイクの抜き差しをしないでください。大きなノイズを発生し、機器が故障する恐れがあります。
- ファントム電源を必要とするコンデンサーマイクを使用する場合のみ、ファントム電源をオンにしてください。
- アンバランスタイプのダイナミックマイクロホンにファントム電源を供給しないでください。機器が故障する恐れがあります。
- リボンマイクロホンの中には、ファントム電源を供給すると故障の原因になるものがあります。疑わしい場合は、リボンマイクロホンにファントム電源を供給しないでください。
- ファントム電源をオンにすると、電池の消耗が早くなります。

入力信号のモニターについて

入力信号をモニターするには、その信号を録音するTRACKのRECボタンを押し、RECインジケータを点灯/点滅させます。

メモ

レコーダー再生中は、再生信号と入力ソースの音のミックス信号が、PHONES端子またはLINE OUT端子に接続したヘッドホンまたは外部モニターシステム（パワーモニタースピーカーまたはアンプとスピーカーシステム）から聴こえてきます。

OLインジケータおよびレベルメーターについて

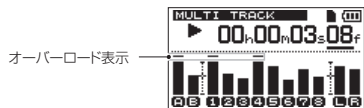
INPUT A / BのOLインジケータとディスプレイに表示されるレベルメーターによって、本機のオーディオレベルを確認することができます。

レベルメーターは信号のレベルを監視するためのものですが、本機に信号が入力されているかどうかを確認するときにも使えます。たとえば、ヘッドホンまたは外部モニターシステム（パワーモニタースピーカーまたはアンプとスピーカーシステム）から何も聴こえない場合であっても、ディスプレイの「A」と「B」のレベルメーターが振れていれば、本機には信号が入力されていることとなります。この場合は、本機以外に音が出ない原因があると思われる。

次の図のように、レベルメーターの一番上に「—」を表示している場合は、オーバーロードに達しています（「—」表示はしばらくホールドされた後、自動的に消えます）。この状態では音が歪んでいる可能性がありますので、「—」が表示しないよう、レベルを下げてください。

OLインジケータが点灯する場合は、入力ソースの入力信号が大きすぎる、あるいはTRIMつまみを上げすぎている。

TRIMつまみを「MIN」に設定してもOLインジケータが点灯する場合は、入力ソースの入力信号が大きすぎますので、入力ソースの音量を下げてください。



入力レベルメーター (A / B)

ディスプレイの「A」と「B」のレベルメーターは、本機の入力 (INPUT A / B) の入力レベルを表示します。INPUT A / BのTRIMつまみ、「INPUT SETTING」画面の設定、または入力ソースの出力ボリュームを使ってレベルを調節します。

メモ

INPUT A / Bのレベルメーターが適切なレベルを示しているのにINPUT A / BのOLインジケータが点灯する場合は、入力信号が大きすぎて音が歪んでいます。この場合は、入力ソースの音量を下げてください。

TRACKレベルメーター (1~8)

トラックの再生信号レベルまたはトラック入力信号レベルを表示します。動作状態に応じて、下記の信号のレベルを表示します。

REC インジケータ	トランスポート 状態	レベルメーターの 表示内容
消灯	再生	トラック再生信号
点滅 (録音待機)	再生	トラック再生信号
	停止	トラック入力信号
点灯 (録音時)	録音	トラック入力信号

メモ

再生信号表示時は、トラックに録音されている信号のレベルが表示されますので、メーターのレベルを変えることはできません。

入力信号表示時は、INPUT A / BのTRIMつまみによってレベルメーターの表示レベルが変わります。

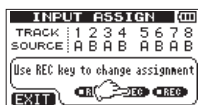
ステレオレベルメーター (L / R)

本機のステレオバス出力のレベルを表示します。

出力レベルは、MASTER LEVELつまみを使って調節します。

入力をアサインする

本機において「入力をアサインする」ということは、それぞれのTRACKの録音ソースをINPUT AまたはINPUT Bのどちらかを「INPUT ASSIGN」画面で設定することです。



メモ

- 初期設定では、上記のようにアサインされています。
- アサイン設定のセーブは、ソングのセーブまたは電源オフ（スタンバイ状態）時に行われます。また、ソングのロード時にアサイン設定もロードされます。

本機では、同時に最大2トラックの録音が可能です。1つの入力を2つのトラックに同時にアサインすることもできます（この場合は、もう一方の入力は使用できません）。2つの入力を同じトラックにアサインすることはできません。

- レコーダーが停止中にASSIGNボタンを押し、「INPUT ASSIGN」画面を表示します。
- 各TRACKのRECボタンを使って、各TRACKの入力ソースを設定します。

設定値：

- “A” (INPUT A, “TRACK 1”、“3”、“5”、“7”の初期値)
- “B” (INPUT B, “TRACK 2”、“4”、“6”、“8”の初期値)

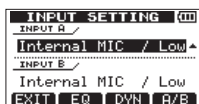
- 設定が終了したらHOMEボタンを押し、ホーム画面に戻します。

入力のイコライザーを使う

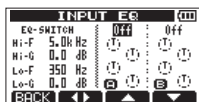
INPUT AおよびINPUT Bには、2バンドのイコライザーが搭載されています。

入力のイコライザーの設定は、“INPUT SETTING”画面で行います。

1. INPUT SETTING/EQ/DYNボタンを押して、“INPUT SETTING”画面を表示します。



2. F2 “[EQ]” ボタンを押して、“INPUT EQ”画面を表示します。



イコライザーの設定項目は、以下の通りです。

設定項目	設定値
EQ-SWITCH (入力のイコライザーのスイッチ)	ON / OFF (初期値: OFF)
Hi-F (高域の周波数)	1.7kHz~18kHz (初期値: 5kHz)
Hi-G (高域のゲイン)	±12dB (初期値: 0.0dB)
Lo-F (低域の周波数)	32Hz~1.6kHz (初期値: 350Hz)
Lo-G (低域のゲイン)	±12dB (初期値: 0.0dB)

F2 “[◀▶]” ボタンを押して、INPUT A / Bを切り換えます。

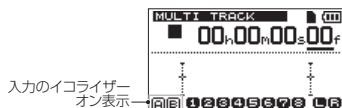
F3 “[▲]” ボタンとF4 “[▼]” ボタンを押して設定項目の選択 (反転表示)、DATAホイールで設定項目の値を設定します。

F1 “[BACK]” ボタンを押すと、“INPUT SETTING”画面に戻ります。

3. 設定が終了したら、HOMEボタンを押してホーム画面に戻します。

メモ

入力のイコライザーがオンになっている入力、ホーム画面上の入力表示が以下ようになります。



インプットダイナミクスの設定

ダイナミクスエフェクトは、INPUT A / Bに対して、3種類 (COMPRESSOR, EXCITER, DE-ESSER) の中から1つを選択できます。

コンプレッサー (COMPRESSOR)

音を圧縮するためのエフェクターです。

エキサイター (EXCITER)

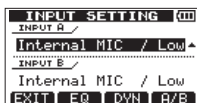
音の輪郭をはっきりさせるエフェクター。

ディエッサー (DE-ESSER)

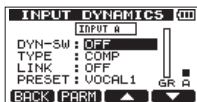
「さしすせそ」といった歯擦音を抑えてくれるエフェクターです。

ダイナミクスエフェクトを挿入する

1. INPUT SETTING/EQ/DYNボタンを押して、“INPUT SETTING”画面を表示します。



2. F3 “[DYN]” ボタンを押して、“INPUT DYNAMICS”画面を表示します。



メモ

F1 “[BACK]” ボタンを押すと、“INPUT SETTING”画面に戻ります。

3. F3 “[▲]” ボタンとF4 “[▼]” ボタンを使って、以下の項目の値を選択 (反転表示) し、DATAホイールを使って変更します。

[INPUT A] または [INPUT B]

ダイナミクスエフェクトを挿入する入力を選択します。

DYN-SW

“ON” にすると選択したエフェクトが挿入されます。(初期値: “OFF”)

TYPE

挿入するダイナミクスエフェクトの種類を選択します。

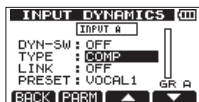
選択肢: “COMP” (初期値)、“EXCITER”、“DE-ESSER”

4. 設定が終了したらHOMEボタンを押して、ホーム画面に戻します。

コンプレッサーを使う

“INPUT DYNAMICS” 画面の“TYPE”項目を“COMP”に選択するとコンプレッサーを使うことができます。

1. “INPUT DYNAMICS” 画面を表示中にF3 “[▲]” ボタンとF4 “[▼]” ボタンを使って、“TYPE” 項目の設定値を選択（反転表示）します。
2. DATAホイールを使って、“COMP” を選択（反転表示）します。



3. F3 “[▲]” ボタンとF4 “[▼]” ボタンを使って、以下の項目の値を選択（反転表示）し、DATAホイールを使って変更します。



LINK

“ON” にするとINPUT AとINPUT Bがリンクします。（初期値：“OFF”）



PRESET

13のエフェクトライブラリがプリセットされています。

選択肢	説明
“VOCAL1”（初期値）	Vocal 1
“VOCAL2”	Vocal 2
“A_GUITAR”	Acoustic Guitar
“EGUITAR1”	Electric Guitar 1
“EGUITAR2”	Electric Guitar 2
“ELECBASS”	Electric Bass
“WOODBASS”	Wood Bass
“SLAPBASS”	Slap Bass
“SYNBASS1”	Synthesizer Bass 1
“SYNBASS2”	Synthesizer Bass 2
“BRASS”	Brass
“SNARE”	Snare
“NARRATE”	Narration

GR（ゲインリダクションメーター）

入力信号に対してどのくらいコンプレッサーが効いているかを示すメーターです。

AB（INPUT A / Bのレベルメーター）

INPUT AまたはINPUT Bのレベルメーターです。“LINK”項目を“ON”にすると、INPUT A / Bのレベルメーターが表示されます。

4. F2 “[PARM]” ボタンを押して、コンプレッサーの詳細設定画面を表示します。



5. F3 “[▲]” ボタンとF4 “[▼]” ボタンを使って設定したい項目の値を選択（反転表示）し、DATAホイールを使って変更します。

設定値が初期値のとき、各設定値の右に“i”が表示されます。

設定値と範囲は、以下のとおりです。

THRESHLD

コンプレッサー動作を始めるスレッシュヨルド値を設定します。

選択肢：“-32dB”（初期値）～“0dB”

RATIO

圧縮比を選択します。

選択肢：“1.0 : 1”、“1.1 : 1”、“1.3 : 1”、“1.5 : 1”、“1.7 : 1”、“2.0 : 1”、“2.5 : 1”、“3.0 : 1”、“3.5 : 1”、“4.0 : 1”、“5.0 : 1”、“6.0 : 1”、“8.0 : 1”、“16.0 : 1”、“inf : 1”

LEVEL

出力レベルを設定します。

選択肢：“0dB”～“32dB”

ATTACK

アタックタイムを設定します。

選択肢：“2ms”～“200ms”（“2ms” ステップ毎）

RELEASE

リリースを設定します。

選択肢：“10ms”～“1000ms”（“10ms” ステップ毎）

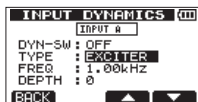
6. 設定が終了したらHOMEボタンを押して、ホーム画面に戻します。

第6章 基本レコーディング

エキサイターを使う

“INPUT DYNAMICS”画面の“TYPE”項目を“EXCITER”を選択するとエキサイターを使うことができます。

1. “INPUT DYNAMICS”画面を表示中にF3 “[▲]” ボタンとF4 “[▼]” ボタンを使って、“TYPE”項目の設定値を選択（反転表示）します。
2. DATAホイールを使って、“EXCITER”を選択（反転表示）します。



3. F3 “[▲]” ボタンとF4 “[▼]” ボタンを使って、以下の項目の値を選択（反転表示）し、DATAホイールを使って変更します。

FREQ

周波数を設定します。

選択肢: “1.00kHz”、“1.07kHz”、“1.15kHz”、“1.23kHz”、“1.32kHz”、“1.41kHz”、“1.52kHz”、“1.62kHz”、“1.74kHz”、“1.87kHz”、“2.00kHz”、“2.14kHz”、“2.30kHz”、“2.46kHz”、“2.64kHz”、“2.83kHz”、“3.03kHz”、“3.25kHz”、“3.48kHz”、“3.73kHz”、“4.00kHz”

DEPTH

効果のかり具合を設定します。

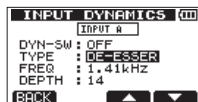
選択肢: “0” ~ “100”（初期値 “0”、“1” ステップ毎）

4. 設定が終了したらHOMEボタンを押して、ホーム画面に戻します。

ディエッサーを使う

“INPUT DYNAMICS”画面の“TYPE”項目を“DE-ESSER”を選択するとディエッサーを使うことができます。

1. “INPUT DYNAMICS”画面を表示中にF3 “[▲]” ボタンとF4 “[▼]” ボタンを使って、“TYPE”項目の設定値を選択（反転表示）します。
2. DATAホイールを使って、“DE-ESSER”を選択（反転表示）します。



3. F3 “[▲]” ボタンとF4 “[▼]” ボタンを使って、以下の項目の値を選択（反転表示）し、DATAホイールを使って変更します。

FREQ

周波数を設定します。

選択肢: “1.00kHz”、“1.07kHz”、“1.15kHz”、“1.23kHz”、“1.32kHz”、“1.41kHz”、“1.52kHz”、“1.62kHz”、“1.74kHz”、“1.87kHz”、“2.00kHz”、“2.14kHz”、“2.30kHz”、“2.46kHz”、“2.64kHz”、“2.83kHz”、“3.03kHz”、“3.25kHz”、“3.48kHz”、“3.73kHz”、“4.00kHz”

DEPTH

効果のかり具合を設定します。

選択肢: “0” ~ “100”（初期値 “0”、“1” ステップ毎）

4. 設定が終了したらHOMEボタンを押して、ホーム画面に戻します。

レコーディング（最初の録音）

以下に述べる録音操作は、すでに録音対象機器（ギターやキーボードなど）を本体に接続、入力信号をトラックの録音ソースとしてアサインし、ヘッドホンまたは外部モニターシステム（パワードモニタースピーカーまたはアンプとスピーカーシステム）を接続していることを前提にしています。

- 録音するTRACKのRECボタンを押します。
RECインジケータが点滅し、録音待機状態となります。
同時に録音できるトラック数は、最大2トラックです。2つのTRACKのRECインジケータが点滅しているときに別のRECボタンを押すと、最初に押したTRACKの録音待機状態が解除されてRECインジケータが消灯します。
たとえば、TRACK 1 → TRACK 2 → TRACK 3の順にRECボタンを押した場合は、最初に押したTRACK 1の録音待機状態が解除され、後から押したTRACK 2とTRACK 3が録音待機状態になります。

- 録音のレベルを設定します。
INPUT A / BのTRIMつまみを使って入力レベルを調節します。
このとき、ディスプレイの「**A**」と「**B**」のレベルメーターとTRIMつまみ左上のOLインジケータを監視しながら、適正にレベルを設定します。
同時に、ヘッドホンまたは外部モニターシステム（パワードモニタースピーカーまたはアンプとスピーカーシステム）から聞こえてくる音が歪んでいないことを確認します。

メモ

入力ソースがアサインされているトラックのレベルメーターは、入力のエフェクト（イコライザーやコンプレッサーなど）後の入力レベルを表示します。
入力が大きすぎると、OLインジケータが点灯します。TRIMつまみを下げてもOLインジケータが点灯する場合は、入力ソースの音量を下げます。

- 録音（●）ボタンを押しながら再生（▶）ボタンを押します。
録音が始まり録音（●）ボタンのインジケータが赤く点灯します。
TRACKのRECインジケータが点滅から点灯に変わります。
- 録音が終了したら停止（■）ボタンを押します。
- ◀ [RTZ] ボタンなどを使って、確認したい位置に移動します。

ヒント

ソングの先頭（"00h00m00s00f"）または最後に録音を開始した位置などに戻るには、RTZ機能やLRP機能を使うと簡単にその位置に移動できます。早戻し/早送りやロケート機能については、51ページ「ロケート/サーチ機能」を参照してください。

- 再生（▶）ボタンを押して、録音したトラックを再生します。

TRACKのLEVELつまみとMASTER LEVELつまみを使って、再生レベルを調節します。

PANつまみを使って、左右スピーカー間における各TRACK信号の定位を設定します。

最終的なモニターの音量は、リアパネルのVOLUMEダイヤルまたは外部モニターシステム（パワードモニタースピーカーまたはアンプとスピーカーシステム）のボリュームを使って調節します。

メモ

- 各TRACKのPANつまみやLEVELつまみは、録音済みTRACKの再生出力信号レベルと定位を調節します。
- 録音したサウンドに満足できなかったら、上記の手順を初めからやり直します。

マルチトラック録音

すでに録音されているトラックの再生信号に合わせて、別のトラックに新しい音を録音します。

録音するトラックを設定する

- 録音済みTRACKのRECボタンを押して、RECインジケータを消灯します。
- 新たに録音するTRACKのRECボタンを押して、録音待機状態にします（RECインジケータ点滅）。

TRACKのPAN / LEVELを設定する

録音済みトラックのPANつまみとLEVELつまみを使って、録音時の再生信号モニターのレベルと定位を調節します。

入力の選択とアサイン

本章ですでに述べた方法で、入力ソースを録音トラックにアサインします。

入力レベルを設定する

設定が終了したら、再生（▶）ボタンを押して再生を行います。

本番の録音と同じように、録音済みトラックの再生音と録音トラックの入力ソースをモニターすることができまので、モニターのバランスや音量を確認します。

録音する

録音（●）ボタンを押しながら再生（▶）ボタンを押します。再生音を聴きながら、別のトラックに新たな録音を行います。

第6章 基本レコーディング

実行した操作を取り消す（アンドゥ）

本機の操作を失敗したときや、録音がうまくいかなかったときなど、操作を取り消すことができます。編集操作、録音操作など、多くの通常の操作は取り消し（アンドゥ）が可能です。

本機のアンドゥには、シンプルなボタン操作で行うことができるシングルアンドゥと、操作履歴上の希望する任意の位置に戻ることができるマルチアンドゥの2種類があります。

メモ

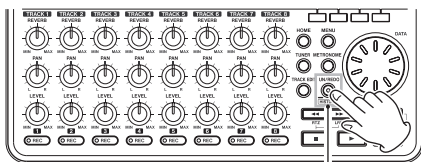
シングルアンドゥまたはマルチアンドゥが実行されて、取り消された操作があるとき、UN/REDO [HISTORY] インジケータが点灯します。

最後に行った操作を取り消す（シングルアンドゥ）

UN/REDO [HISTORY] ボタンを押します。

最後の操作を行う前の状態に戻ります。

この状態でUN/REDO [HISTORY] インジケータが点灯し、リドゥ（以下参照）が可能です。



UN/REDO [HISTORY] インジケータ

アンドゥ操作を取り消すには（リドゥ）

UN/REDO [HISTORY] インジケータが点灯中に、このボタンを押します。

最後の操作が再び有効になって本機が最新の状態に戻り、UN/REDO [HISTORY] インジケータが消灯します。

メモ

以下に述べるマルチアンドゥを実行して本機が以前の状態に戻っているときにシングルアンドゥを実行すると、さらに1つ前の状態に戻ります。

再度UN/REDO [HISTORY] ボタンを押してリドゥを実行すると、シングルアンドゥ操作が取り消され、再びマルチアンドゥ後の状態に戻ります。この場合は、本機が最新の状態に戻らないため、UN/REDO [HISTORY] インジケータは点灯したままです。

ある操作以降の操作を取り消す（マルチアンドゥ）

1. UN/REDO [HISTORY] ボタンを長押しして、“HISTORY”画面を表示します。



“HISTORY”画面には、操作の履歴がリスト表示されています。リスト上の各操作項目を「イベント」と呼びびます。

イベント番号“0”（“-START UP-”）から操作順にイベントがリスト表示され、いちばん上の行が最新のイベントです。

最新のイベント番号の末尾には“*”アイコンが表示されます。

このリスト内で指定するイベント以降のイベントを取り消すことができます。このように複数のイベントを取り消してそれ以前の状態に戻す操作を「マルチアンドゥ」と呼びびます。

2. DATAホイールを使って、操作をさかのぼりたいイベントを選択します（選択したイベント以降のイベントが取り消されることとなります）。

3. F2 [EXEC] ボタンを押します。マルチアンドゥが実行され、選択したイベント直後の状態に戻ります。この状態でUN/REDO [HISTORY] インジケータが点灯します。

上記によって取り消されたイベント情報が消えるわけではありません。本機の状態がさかのぼっているだけです。“HISTORY”画面上では、アンドゥによってさかのぼったイベント番号の末尾に“*”アイコンが表示されます。

マルチアンドゥした状態（UN/REDO [HISTORY] インジケータ点灯）で新たに録音や編集作業を行うと、現在のイベントより新しいイベント履歴が消去され、新たに行った作業が最新イベントとして登録されます。

メモ

“HISTORY”画面表示中は、UN/REDO [HISTORY] ボタンが無効になり、シングルアンドゥとリドゥを実行できません。

注意

- アンドゥが実行されて取り消された操作があるとき、UN/REDO [HISTORY] インジケーターが点灯します。

取り消された操作がないとき（＝最新の操作を行った後の状態のとき）、UN/REDO [HISTORY] インジケーターが消灯します。

UN/REDO [HISTORY] インジケーターが点灯しているとき（＝取り消された操作があるとき）に新たに録音や編集作業を行うと、新たに行った作業が最新イベントとなり、取り消された操作には戻れなくなります。

- ソングセーブ時にソングファイルとして記録される操作履歴は最大500項目です。操作履歴が500項目を超えている場合は、ソングセーブ時に古い操作履歴が削除されます。このときに削除された操作履歴は復活することはできません。
- 電源オフ（スタンバイ状態）すると操作履歴は、全て消去されます。再び電源オンしたときには電源オフ（スタンバイ状態）した時の状態となり、それ以前の操作履歴に戻ることはできません。

操作履歴の消去について

電源をオフ（スタンバイ状態）にすると、現在ロードされているソングの操作履歴が全て消去されます。

再度電源をオンにしたときは、前回の電源オフ（スタンバイ状態）時の状態でソングが立ち上がり、過去の操作のアンドゥやリドゥはできません。また、電源オンのままで現在ロード中のソングの操作履歴を消去するには、以下の手順を行います。

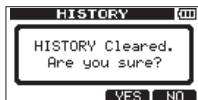
メモ

電源オフ（スタンバイ状態）時にロードされていないソングの操作履歴は消去されません。

1. UN/REDO [HISTORY] ボタンを長押しして、“HISTORY”画面を表示します。



2. F4 “[CLEAR]” ボタンを押します。
確認のポップアップメッセージが表示されます。



3. F3 “[YES]” ボタンを押します。
再度、確認のポップアップメッセージが表示されます。



4. F3 “[YES]” ボタンを押します。

操作履歴が消去され、使用していないデータが消去されます。

操作が完了するとホーム画面に戻ります。

メモ

操作履歴の削除を中止したいときは、F4 “[NO]” ボタンを押します。

ヒント

- 操作履歴の消去を行った直後に“HISTORY”画面を見ると、イベント（操作）番号“0”（“-START UP-”）のみが表示され、全ての操作履歴が消去されたことを確認できます。
- 電源オフ（スタンバイ状態）しても操作履歴を残しておきたいときは、電源オフ（スタンバイ状態）する前にソングプロテクトをオンにしておいてください。（→ 41ページ「ソングをプロテクトする」）

注意

操作履歴の消去は取り消し（アンドゥ）できません。よく確認してから実行してください。

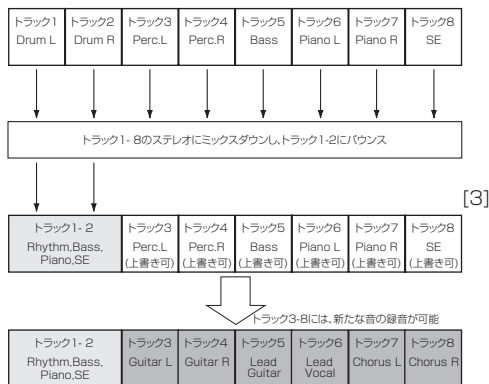
第7章 レコーダー機能

トラックバウンス

本機のトラックバウンス（ピンポン録音）機能を使って、録音済みのトラック1-8をミックスしてトラックに戻すことができます。

テープを使ったマルチトラックレコーダーでは、空きトラックにバウンスすることしかできません（つまり再生トラックには録音することができません）。たとえば、トラック1-7をトラック8にバウンスできますが、トラック1-8をトラック1にバウンスすることはできません。

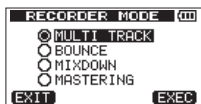
本機ではこうした制約がなく、トラック1-8をミックスダウンしてトラック1-2に録音（ステレオバウンス）、あるいはトラック1-8をモノラルミックスしてトラック1に録音（モノラルバウンス）といったことが可能です。



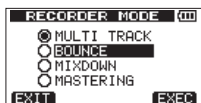
再生トラック自身に録音した場合は、当然、元の再生トラックは消去されます（上図ではトラック1-2のドラムパートがミックス信号で上書きされます）。ただし、本機には取り消し（アンドゥ）機能がありますので、誤った操作を行った場合でも操作を取り消すことができます。（→48ページ「実行した操作を取り消す（アンドゥ）」）

トラックバウンスを行う

- レコーダーが停止中に**BOUNCE/MIXDOWN/MASTERING**ボタンを押して、“**RECORDER MODE**”画面を表示します。



- DATAホイールを使って、“**BOUNCE**”項目を選択（反転表示）します。



- F4 “[EXEC]” ボタンを押します。

ポップアップメッセージ“**Bounce!**”を表示した後、本機のレコーダーモードが“**BOUNCE**”モードに切り換わり、ホーム画面に戻ります。



メモ

レコーダーモードが“**BOUNCE**”モードのときは、ホーム画面左上のバーに“**BOUNCE**”が反転表示されます。

- バウンス先にしたい**TRACK**の**REC**ボタンを押し、**REC**インジケータを点滅させます。ステレオバウンスする場合は、2つの**TRACK**の**REC**ボタンを押します。

モノラルバウンス（単一トラックにバウンス）の場合は、いずれか1つの**TRACK**の**REC**ボタンを押します。

- バウンス元になる**TRACK**の**LEVEL**つまみと**PAN**つまみを調節します。

ステレオバウンスの場合は、若いトラックがL側になります。

モノラルバウンスにする場合は、バウンス元となる**TRACK**の**PAN**つまみを1/4に設定します。**MASTER LEVEL**つまみで全体のレベルを調節します。

- バウンスを開始したい位置に移動してから、**録音**（●）ボタンを押しながら**再生**（▶）ボタンを押します。トラックバウンスが実行されます。バウンスを終了したい位置で**停止**（■）ボタンを押します。

結果を確認する

バウンス元のトラックをミュートして（→61ページ「トラックのミュート」）、ソングの冒頭から再生します。楽器のバランスが良くない、あるいはパン設定が良くないなど、結果に満足できない場合は、アンドゥを実行します。（→48ページ「実行した操作を取り消す（アンドゥ）」）

結果に満足したら、レコーダーが停止中に**BOUNCE/MIXDOWN/MASTERING**ボタンを押して“**RECORDER MODE**”画面を表示し、レコーダーモードを“**MULTI TRACK**”モードに戻します。

トラックバウンス後、バウンスしたトラック以外のトラックには、新たに録音（上書き）することができます。

ヒント

後からオリジナルトラックが必要になる可能性がある場合は、バウンス（ピンポン録音）の前にソングのデータをパソコンにバックアップしたり、ソングのコピーを作成しておいてください。（→40ページ「ソングをコピーする」）（→74ページ「パソコンと接続する」）

ロケート／サーチ機能

ダイレクトロケート機能

ホーム画面上部には、レコーダーの現在位置「時:分:秒:フレーム」を時間表示しています(30フレームで1秒)。この時間表示部に指定の時間を入力することによって、レコーダーの現在位置を移動することができます。

1. ホーム画面で**HOME**ボタンを使って、タイムカウンター表示のカーソル(下線)を移動します。カーソル位置の桁の値を編集することができます。下図の例では、「秒」桁が選択されています。



2. **DATA**ホイールを使ってカーソル(下線)桁の値を変えます。それぞれの桁は、自動繰り上げ/繰り下げされます。たとえば、プラス方向に**DATA**ホイールを回転して「59」秒から「0」秒になったとき、「分」の桁の値が1つ大きくなります。

メモ

DATAホイールを回している間は、以下のポップアップメッセージを表示します。



3. 別の桁を編集するには、**HOME**ボタンを使って桁を移動し、**DATA**ホイールを使って値を変更します。
4. 希望する任意の時間値を設定後、**再生**(▶)ボタンを押すと、その位置から再生が始まります。

ソングの先頭に戻す(RTZ機能)／最後に録音を始めた位置に戻す(LRP機能)

シンプルなボタン操作でソングの先頭("00h00m00s00f")または最後に録音を始めた位置に移動することができます。RTZ、LRPはそれぞれ、Return To Zero, Last Recording Positionの意味です。

ソングの先頭("00h00m00s00f")に戻るには停止(■)ボタンを押しながら◀◀ [RTZ] ボタンを押します。

最後に録音を始めた位置に戻るには停止(■)ボタンを押しながら▶▶ [LRP] ボタンを押します。録音を行った後、録音をやり直したいときなどに便利な機能です。

早戻し／早送りサーチ

停止中に◀◀ [RTZ] ボタンまたは▶▶ [LRP] ボタンを押すと、早戻し/早送りを行います。

押すたびに速度が、10倍→50倍→100倍→1000倍と変化します。

再生中に◀◀ [RTZ] ボタンまたは▶▶ [LRP] ボタンを押すと、押し続けている間だけ早戻し/早送りを行います。このときの早戻し/早送りの速度は、10倍(固定)です。

リピート再生

リピート再生機能を使って、繰り返し再生を行うことができます。

リピート範囲は、INポイントとOUTポイントの間です。

INポイント／OUTポイントを設定する

INポイントとOUTポイントは、リピート再生の範囲設定に使われるほかに、トラック編集の範囲設定にも使われます。また、ステレオマスタートラック作成時の始点および終点としても使われます。

録音時、再生時、停止時のいずれでも、これらのポイントを設定することができます。

メモ

以下の場合には、INポイント/OUTポイントの取り込みや編集ができません。

- リピート再生中
- レコーダーモードが「MIXDOWN」モードまたは「MASTERING」モード中

INポイント／OUTポイントを取り込む

1. IN/OUTボタンを押して、「I/O SETTING」画面を表示します。



2. 停止中、再生中、録音中にかかわらず、レコーダーが希望する任意の位置にあるときに、F3 [IN] ボタンまたはF4 [OUT] ボタンを押します。

F3 [IN] ボタンまたはF4 [OUT] ボタン押した位置をINポイント/OUTポイントとして設定し、「SET IN!」/「SET OUT!」と、取り込んだ時間がポップアップメッセージとして表示されます。



[SET INの場合]



[SET OUTの場合]

第7章 レコーダー機能

メモ

ホーム画面表示中、F3 / F4ボタンの割り当て表示は出ませんが、F3 / F4ボタンを押すとINポイント / OUTポイントを設定できます。

設定された時は、上記と同様に“SET IN!” / “SET OUT!” と表示されます。

INポイント / OUTポイントを編集する

1. “I/O SETTING” 画面表示中にF2 “[EDIT]” ボタンを押して、“I/O SETTING” 画面を編集モードにします。



2. 以下の要領で、INポイント / OUTポイントの値を編集します。

- F3 “[▲]” ボタンまたはF4 “[▼]” ボタンを使って、“IN” 項目と “OUT” 項目の間のカーソル (反転表示部) 移動を行います。
- ◀ [RTZ] ボタンまたは ▶ [LRP] ボタンを使って時間桁間のカーソル (反転表示部) 移動を行います。
- DATAホイールを使って、カーソル (反転表示部) 位置の値を変更します。

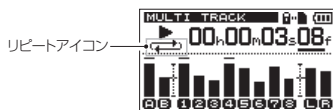
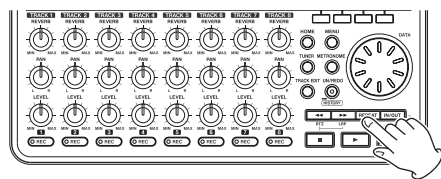
3. 編集を終了したら、HOMEボタンを押してホーム画面に戻ります。

リピート再生を実行する

1. リピートしたい区間の始点と終点を、それぞれINポイントとOUTポイントとして設定し、設定後、ホーム画面に戻します。

2. REPEATボタンを押します。

ホーム画面上に“↺”アイコンを表示し、リピート再生が始まります。



INポイントから再生が始まり、OUTポイントまで来ると、あらかじめ設定したリピート再生の再生間隔 (リピートインターバル) を置いてから、再びINポイントからの再生が始まります。

以後、INポイントとOUTポイントの間を繰り返し再生します。

3. リピート再生を解除するには、REPEATボタンを押してホーム画面上の“↺”アイコンを消します。

なお、次に述べる方法で、OUTポイントまで再生してから再び再生を始めるまでの再生間隔 (リピートインターバル) を設定します。

メモ

INポイントとOUTポイントの間が2フレーム未満の場合は、REPEATボタンを押したときにポップアップメッセージ “I/O Too Short” (INポイントとOUTポイントが近すぎます) を表示し、リピート再生を行えません。

リピート再生の再生間隔を設定する

リピート再生の再生間隔 (リピートインターバル) を1.0秒～9.9秒の範囲で設定することができます。

1. MENUボタンを押して、“MENU” 画面を表示します。
2. DATAホイールを使って “PREFERENCE” メニュー項目を選択 (反転表示) し、F4 “[▶]” ボタンを押します。

“PREFERENCE” 画面が表示されます。



3. F3 “[▲]” ボタンまたはF4 “[▼]” ボタンを使って “Repeat Int” 項目の設定値を選択 (反転表示) し、DATAホイールを使って値を設定します。

“1.0sec” ~ “9.9sec” の範囲 (0.1秒単位) で設定できます。(初期値: “1.0sec”)

4. 設定が終了したら、HOMEボタンを押してホーム画面に戻ります。

INポイント / OUTポイントへのロケート

ホーム画面表示中に、停止 (■) ボタンを押しながらF1ボタンを押すと、INポイントに移動します。

停止 (■) ボタンを押しながらF2ボタンを押すと、OUTポイントに移動します。

パンチイン／アウト

パンチイン／アウトは、録音済みのトラックの一部を差し替えるときに使うテクニックです。

レコーダーを再生して、差し替え部分に来たら録音に切り換え（パンチイン）、差し替え部分を終了したら再生（または停止）に切り換えます（パンチアウト）。

1. あらかじめ差し替える部分を決めておきます。
差し替えた音声が入る元のトラック音声とうまくつながるようなポイントを選びます。
2. 差し替えるTRACKのRECボタンを押して、録音待機状態にします（RECインジケータ点滅）。
3. 差し替え部分の手前から再生を始めます。
4. 差し替え部分に来たら録音（●）ボタンを押し、演奏を行います。
録音に切り換わります（パンチイン）。
5. 差し替え部分の終わりに来たら再生（▶）ボタンを押します。
再生に切り換わります（パンチアウト）。

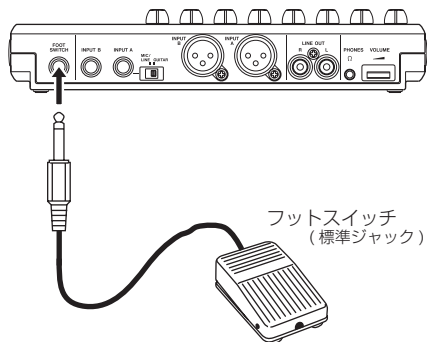
ヒント

差し替え部分の終わりに来たとき、停止（■）ボタンを押して停止してパンチアウトすることもできます。

フットスイッチを使ったパンチイン／アウト

リアパネルのFOOT SWITCH端子に接続したフットスイッチ（標準ジャック）を使って、パンチイン／アウトを行うこともできます。

上記の手順4.で録音（●）ボタンの代わりにフットスイッチを踏み、手順5.の再生（▶）ボタンの代わりに再度フットスイッチを踏みます。



フットスイッチの極性を設定する

フットスイッチの極性の設定は、“PREFERENCE”画面で行います。

フットスイッチを接続し、フットスイッチを踏んでいない状態で“FootSW Polarity”項目を“OFF”に設定することにより、接続したフットスイッチの極性にあった動作をします。

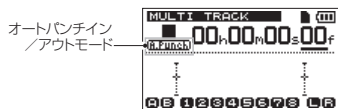
1. リアパネルのFOOT SWITCH端子に、フットスイッチを接続します。
2. レコーダーが停止中にMENUボタンを押して、“MENU”画面を表示します。
3. DATAホイールを使って“PREFERENCE”メニュー項目を選択（反転表示）し、F4 “[▶]” ボタンを押します。
“PREFERENCE”画面が表示されます。
4. F3 “[▲]” ボタンまたはF4 “[▼]” ボタンを使って、“FootSW Polarity”項目の設定値を選択（反転表示）します。



5. フットスイッチを踏んでいない状態で、DATAホイールを使って“OFF”に設定をします。
6. 設定が終了したら、HOMEボタンを押してホーム画面に戻ります。

オートパンチイン／アウト機能

INポイントとOUTポイントが設定されているとき、録音録音(●)ボタンとIN/OUTボタンを同時に押し、ホーム画面上に「**IN Punch**」アイコンを表示し、オートパンチイン／アウトモードに切り換わります。

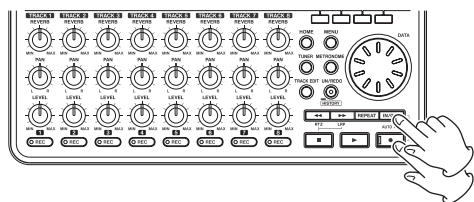


オートパンチイン／アウトモードには、リハーサル機能があります。これは、実際には録音はしませんが、INポイントとOUTポイントの間を、実際に録音したときと同様のモニターができる機能です。

オートパンチイン／アウトをリハーサルする

パンチイン／アウトを実行する前に、リハーサルをすることができます。リハーサルでは、モニターが実際の録音と同じように切り換わりますが、録音は実行されません。

1. オートパンチイン／アウトしたいTRACKのRECボタンを押します。
2. INポイントとOUTポイントを設定後、録音(●)ボタンとIN/OUTボタンを同時に押し、オートパンチイン／アウトモードに切り換えます。



3. 再生(▶)ボタンを押します。

INポイントの2秒前から再生が始まり、INポイントでモニター音がトラック再生音+入力音から入力音のみに切り換わります。このときINポイントとOUTポイントの間で録音(●)インジケータが点滅します。その後OUTポイントでモニター音が、トラック再生音+入力音に戻り、録音(●)インジケータが消灯します。OUTポイントの1秒後に自動的に停止します。納得がいくまで、繰り返しリハーサルを行うことができます。

オートパンチイン／アウトを実行する

リハーサルが終了したら、実際にオートパンチイン／アウトを行います。

1. オートパンチイン／アウトモード時に、録音(●)ボタンを押しながら、再生(▶)ボタンを押します。リハーサル時と同様に、INポイントの2秒手前から再生を開始します。INポイントからOUTポイントの間、録音(●)インジケータが点灯し、音声は録音されます。
2. OUTポイントの1秒後に自動的に停止し、オートパンチイン／アウトモードを抜けてINポイントの2秒前に自動的に移動します。

メモ

- リピートモード時およびRECボタンが1つも押されていないときは、オートパンチイン／アウトモードに切り換わりません。
- オートパンチイン／アウトは、アンドゥ可能です。

従来のテープレコーダーでは、高度のテクニックを必要としたようなトラック編集を、本機では簡単に、しかも正確に行うことができます。

さらにテープレコーダーでは、編集に失敗した場合にやり直しができませんでしたが、本機は「ノンデストラックタイプ・エディティング（非破壊編集）」という手法を採用し、元のデータを残したまま編集を行っているため、取り消し（アンドゥ）機能によって、簡単に編集をやり直すことができます。（→ 48ページ「実行した操作を取り消す（アンドゥ）」）

トラック編集の概要

本機には、以下のトラック編集機能があります。

- コピー／ペースト
- コピー／インサート
- ムーブ／ペースト
- ムーブ／インサート
- オープン（無音挿入）
- カット（部分削除）
- サイレンス（部分消去）
- クロントラック（トラック複製）
- クリーンアウト（トラック削除）

トラック編集ポイント

トラック編集のうち、コピー／ペースト、コピー／インサート、ムーブ／ペースト、ムーブ／インサートは、INポイント／OUTポイントおよび編集操作を始めた時の現在位置をTOポイントとし、編集ポイントとして使います。サイレンス、カット、オープンでは、INポイントおよびOUTポイントを編集ポイントとして使います。これらのINポイント／OUTポイントは、リピート再生で使うINポイントおよびOUTポイントと共通です。INポイントおよびOUTポイントの設定方法については、51ページ「INポイント／OUTポイントを設定する」をご覧ください。INポイント／OUTポイントを編集する場合は、「**I/O SETTING**」画面で行います。（→ 51ページ「INポイント／OUTポイントを設定する」）

INポイント

INポイントは、トラック編集対象の始点になります。IN/OUTボタンを押して「**I/O SETTING**」画面を表示し、**F3**「**[IN]**」ボタンを押した時間がINポイントとして登録されます。

OUTポイント

OUTポイントは、トラック編集対象の終点になります。IN/OUTボタンを押して「**I/O SETTING**」画面を表示し、**F4**「**[OUT]**」ボタンを押した時間がOUTポイントとして登録されます。

TOポイント

TOポイントは、コピーやムーブ操作におけるペースト先や移動先のポイントになります。

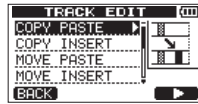
「**TRACK EDIT**」画面を表示する前に停止していた現在の位置（カレントポイント）がTOポイントとなります。

メモ

これらのIN / OUT / TOポイントは、各編集機能の画面でも変更が可能です。

トラック編集の基本操作

1. HOMEボタンを押して、ホーム画面を表示します。
2. レコーダーが停止中に**TRACK EDIT**ボタンを押して、「**TRACK EDIT**」画面（トラック編集項目選択画面）を表示します。



3. DATAホイールを使って希望する任意のトラック編集機能を選択（反転表示）し、**F4**「**[▶]**」ボタンを押します。各編集機能の画面が表示されます。



4. 設定項目の値を選択します。複数の設定項目がある場合には、**F3**「**[▲]**」ボタンと**F4**「**[▼]**」ボタンを使って項目を選択し、DATAホイールを使って値を選択します。設定項目の詳細は、次ページ以降の各機能説明をお読みください。
5. **F2**「**[EXEC]**」ボタンを押して、機能を実行します。

メモ

F1「**[BACK]**」ボタンを押すと、実行しないで「**TRACK EDIT**」画面に戻ります。

第8章 トラックの編集

各トラック編集機能の設定項目

この後に説明する各トラック編集機能の画面内に表示される設定項目について説明します。

SOURCE TRK (コピー元のトラック)

OPEN TRK (無音部分を挿入するトラック)

CUT TRK (部分削除するトラック)

SILENCE TRK (部分消去するトラック)

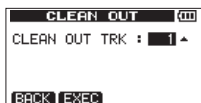
CLEAN OUT TRK (削除するトラック)

これらは、編集するトラックを選択する項目です。選択肢は、編集機能によって異なります。

- “1” ~ “8” : 各トラック
- “1/2”、“3/4”、“5/6”、“7/8” : ペアトラック
- “1-8” : 全トラック
- “MST” : ステレオマスタートラック
- “ALL” : 1-8トラック およびステレオマスタートラック



[SOURCE TRK項目表示例]



[CLEAN OUT TRK項目表示例]

IN / OUT / TO

編集ポイントです。

IN / OUT / TOポイントを編集する場合は、◀◀ [RTZ] ボタンと ▶▶ [LRP] ボタンを使ってカーソルを移動し、DATAホイールで時間を設定します。



[INポイント項目編集表示例]



[OUTポイント項目編集表示例]



[TOポイント項目編集表示例]

DESTINATION TRK (コピー先のトラック)

コピー先、挿入先、複製先のトラックを選択します。

“SOURCE TRK” (コピー元のトラック) 項目でモノラルトラックを選択した場合は、“DESTINATION TRK” (コピー先のトラック) 項目にモノラルトラックが表示されます。

“SOURCE TRK” (コピー元のトラック) 項目でペアトラックまたはステレオマスタートラックを選択した場合は、“DESTINATION TRK” (コピー先のトラック) 項目にペアトラックが表示されます。



[DESTINATION TRK項目表示例]

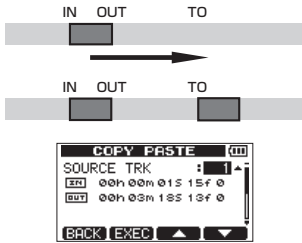
COPY TIMES

コピーしたトラックデータを何回ペーストするかを選択します。

“1” ~ “99” の中から選択できます。



コピー／ペースト



コピー元のトラックのINポイントとOUTポイントの間をコピーし、コピー先のトラックのTOポイントに上書きします。

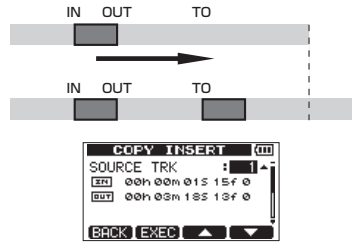
この操作によって、コピー先に録音されていたデータが上書きされます。したがって、コピー先のトラックの長さは変化しません。

1回の操作で、複数回コピーをすることができます。つまり、コピー先のトラックのTOポイント以降に、コピーしたトラックデータが指定回数分、続けて上書きコピーされます。

設定項目は、以下の通りです。

- SOURCE TRK
("1" ~ "8"、"1/2"、"3/4"、"5/6"、"7/8"、"1-8")
- IN / OUT / TO
- DESTINATION TRK
- COPY TIMES

コピー／インサート



コピー元のトラックのINポイントとOUTポイントの間をコピーし、コピー先のトラックのTOポイントに挿入します。

この操作によって、コピー先に録音されていたデータが挿入されます。コピー先のトラックのTO以降に録音されていたデータは、新しい素材が挿入された分だけ後ろにずれます。したがって、コピー先トラックの長さが長くなります。

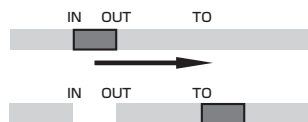
1回の操作で、複数回コピーをすることができます。つまり、コピー先のトラックのTOポイント以降に、コピーしたトラックデータが指定回数分、続けて挿入されます。

設定項目は、以下の通りです。

- SOURCE TRK
("1" ~ "8"、"1/2"、"3/4"、"5/6"、"7/8"、"1-8")
- IN / OUT / TO
- DESTINATION TRK
- COPY TIMES

第8章 トラックの編集

ムーブ／ペースト



ムーブ元のトラックのINポイントとOUTポイントの間をコピーし、ムーブ先のトラックのTOポイント以降に上書きします。

この操作の後、ムーブ元のトラックのINポイントとOUTポイントの間は無音になります。

この操作によって、ムーブ先のトラックに録音されていたデータは上書きされます。したがって、ムーブ先のトラックの長さは変化しません。

設定項目は、以下の通りです。

- SOURCE TRK
("1" ~ "8"、"1/2"、"3/4"、"5/6"、"7/8"、"1-8")
- IN / OUT / TO
- DESTINATION TRK

ムーブ／インサート



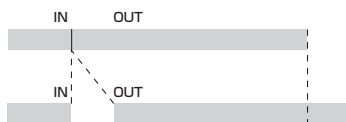
ムーブ元のトラックのINポイントとOUTポイントの間を移動し、ムーブ先のトラックのTOポイントに挿入します。この操作の後、ムーブ元のトラックのINポイントとOUTポイントの間は無音になります。

この操作によって、ムーブ先のトラックのTOポイント以降に移動データが挿入されます。したがって、ムーブ先トラックの長さが長くなります。

設定項目は、以下の通りです。

- SOURCE TRK
("1" ~ "8"、"1/2"、"3/4"、"5/6"、"7/8"、"1-8")
- IN / OUT / TO
- DESTINATION TRK

オープン（無音挿入）

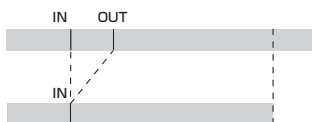


選択したトラックのINポイントとOUTポイントの間に無音部分を挿入します。

この操作では、INポイントの位置でトラックが前後に分割され、INポイント以降のパートがOUTポイント以降に移動します。したがって、トラックの長さが長くなります。設定項目は、以下の通りです。

- OPEN TRK
("1" ~ "8"、"1/2"、"3/4"、"5/6"、"7/8"、"1-8"、"ALL")
- IN / OUT

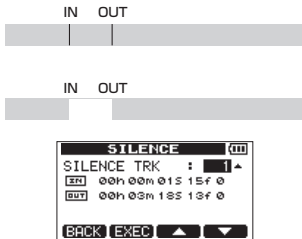
カット（部分削除）



選択したトラックのINポイントとOUTポイントの間をカット（削除）して、OUTポイント以降のパートを手前に詰めます。したがって、トラックの長さが短くなります。設定項目は、以下の通りです。

- CUT TRK
("1" ~ "8"、"1/2"、"3/4"、"5/6"、"7/8"、"1-8"、"ALL")
- IN / OUT

サイレンス（部分消去）



選択したトラックのINポイントとOUTポイントの間を消去します。

INポイントとOUTポイントの間に無信号を録音したときと同じです。

この操作では、トラックの長さは変わりません。

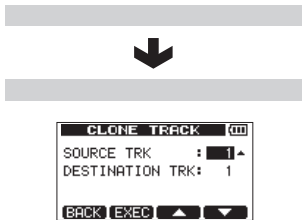
設定項目は、以下の通りです。

- SILENCE TRK
("1" ~ "8"、"1/2"、"3/4"、"5/6"、"7/8"、"1-8")
- IN / OUT

ヒント

この機能を使って、短いノイズなどを消すことができます。

クローントラック（トラック複製）



各トラック、ペアトラックまたはステレオマスタートラックを、別のトラックにコピーして、トラックを複製します。

トラック全体のコピーですので、IN / OUT / TOポイントは関係ありません。

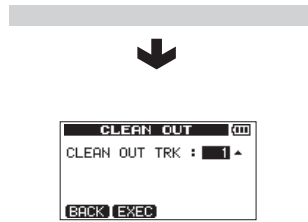
設定項目は、以下の通りです。

- SOURCE TRK
("1" ~ "8"、"1/2"、"3/4"、"5/6"、"7/8"、"1-8"、"MST")
- DESTINATION TRK

メモ

"SOURCE TRK"（コピー元のトラック）項目と同じトラックを "DESTINATION TRK"（コピー先のトラック）項目に設定すると、F2 "[EXEC]" ボタンを押したときにポップアップメッセージ "Same Track"（同じトラックを指定しています）が表示され、操作を受け付けません。

クリーンアウト（トラック削除）



指定したトラック全体を削除します。トラック全体の削除ですので、IN / OUT / TOポイントは関係ありません。設定項目は、以下の通りです。

- CLEAN OUT TRK
("1" ~ "8"、"1/2"、"3/4"、"5/6"、"7/8"、"1-8")

第9章 ミックスダウンとマスタリング

ミックスダウン

録音した個々のトラックの音量、定位などを調節し、それらをステレオにミックスしてバランス良く仕上げるのがミックスダウンです。

レベルとバランス

TRACK 1~8のLEVELつまみを使ってトラックの相対バランスを調節します。そして、MASTER LEVELつまみを使って全体のレベルを調節します。

ディスプレイの“L”と“R”のレベルメーターを見ながらレベルが適正になるように調節します。大きすぎると音が歪みます。

メモ

ディスプレイのトラックレベルメーターには、トラックに録音された信号のレベルが表示されます。したがって、各TRACKのLEVELつまみを動かしてもメーターの振れは変わりません。

ヒント

曲全体を通して同じ音量にする必要はありません。たとえば、ギターソロの間に徐々に音量を上げる、といったことも可能です。

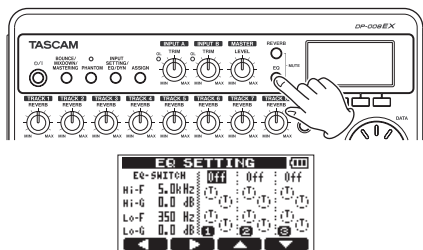
定位 (パン)

各TRACKのPANつまみを使って、トラック信号のステレオ定位を設定します。

トラックのイコライザー

各TRACKには、2バンドのイコライザーを搭載しています。トラックのイコライザー設定は、“EQ SETTING”画面で行います。

1. EQボタンを押して、“EQ SETTING”画面を表示します。



2. トラックのイコライザーを設定します。イコライザーの設定項目は、以下の通りです。

設定項目	設定値
EQ-SWITCH (トラックのイコライザースイッチ)	On / Off (初期値: Off)
Hi-F (高域の周波数)	1.7kHz ~ 18kHz (初期値: 5kHz)
Hi-G (高域のゲイン)	± 12dB (初期値: 0.0dB)
Lo-F (低域の周波数)	32Hz ~ 1.6kHz (初期値: 350Hz)
Lo-G (低域のゲイン)	± 12dB (初期値: 0.0dB)

F1 “[◀]” ボタンとF2 “[▶]” ボタンを使って設定するトラックを切り換えます。

F3 “[▲]” ボタンとF4 “[▼]” ボタンを使って設定する設定項目の値を選択 (反転表示) し、DATAホイールを使っての値を設定します。

3. トラックのイコライザー設定が終了したら、HOMEボタンを押してホーム画面に戻ります。

メモ

トラックのイコライザーがオンになっているTRACKは、ホーム画面上のトラック表示が以下ようになります。

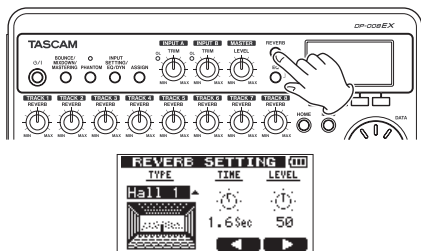


[TRACK 1-4のイコライザーをオンにした表示例]

リバーブ

本機には、6種類のリバーブエフェクトを搭載しています。各TRACKのリバーブエフェクトへの送りレベルは、各TRACKのREVERBつまみで行います。トラックにイコライザーをかけた信号を送ります。

1. REVERBボタンを押して、“REVERB SETTING”画面を表示します。



第9章 ミックスダウンとマスタリング

2. リバーブの設定をします。リバーブ効果には、以下の設定項目があります。

設定項目		設定値
TYPE	リバーブの種類	Hall 1/Hall 2/Room/ Studio/Plate 1/ Plate 2 (初期値: Hall 1)
TIME	リバーブの時間 (深さ)	0.2 (Plateのみ0.8) ~3.2Sec*
LEVEL	リバーブの量 (音量)	0~100*

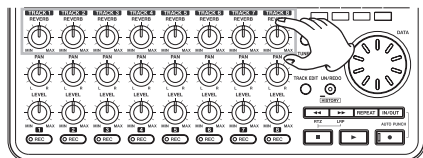
* “TIME” 項目と “LEVEL” 項目の初期値は、手順4の「メモ」を参照ください。

F3 “[◀]” ボタンとF4 “[▶]” ボタンを使って設定項目の値を選択（反転表示）し、DATAホイールを使って値を設定します。

リバーブ効果の戻りは、ステレオ信号にミックスされます。

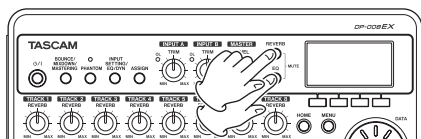
3. リバーブの設定が終了したら、HOMEボタンを押してホーム画面に戻ります。

4. 各TRACKのREVERBつまみを使って、各TRACKのリバーブ効果へ送るレベルを調節します。



トラックのミュート

1. REVERBボタンとEQボタンを同時に押して、“TRACK MUTE”画面を表示します。



2. 各TRACKのRECボタンを押すことにより、トラックのミュートをオン/オフします。

トラックのミュートがオンになると、トラック番号が反転表示になります。



[TRACK 3-8がミュート状態の表示例]

3. トラックのミュート設定が終了したら、HOMEボタンを押してホーム画面に戻ります。

メモ

トラックのミュートがオンになっているトラックは、ホーム画面上のトラック表示が以下ようになります。



トラックのミュート
オン表示

メモ

各リバーブTYPEの初期値は、以下の通りです。

TYPE	初期値	
	TIME	LEVEL
Hall 1	1.8	80
Hall 2	2.2	80
Room	1.4	10
Studio	0.6	20
Plate 1	1.4	60
Plate 2	1.8	60

設定値が各リバーブTYPEの初期値と同じ値になっている場合は、設定値の下に “INI” と表示します。

第9章 ミックスダウンとマスタリング

ステレオマスタートラックを作成する

納得のいくミキシングができれば、ミックスダウンを行いステレオマスタートラックを作成します。

本機で録音したステレオマスタートラックは、ソングの一部として保存されます。

本機では、作成したステレオマスタートラックを外部のステレオレコーダーに録音できるほか、本機の内部でWAVファイル形式に変換してパソコンにエクスポートすることができます。(→80ページ「ステレオマスタートラックをエクスポートする」)

メモ

ソング内に作成できるステレオマスタートラックは、1つだけです。

始点/終点を設定する

ステレオマスタートラックを作成する前に、ステレオマスタートラックの始点/終点を設定します。ソングのINポイントからOUTポイントまでの範囲が、ステレオマスタートラックとして録音されます。

通常は、曲のはじまりのポイントをINポイント、曲の終わりのポイントをOUTポイントに設定します。

ステレオマスタートラックを始点にしたい位置でF3「[IN]」ボタンを押して、終点にしたい位置でF4「[OUT]」ボタンを押して、INポイント(=始点)およびOUTポイント(=終点)を設定します。

INポイント/OUTポイントを修正する方法など詳しい情報は、51ページ「INポイント/OUTポイントを設定する」をご覧ください。

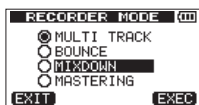
ステレオマスタートラックの作成

INポイント/OUTポイントを設定後、ステレオマスタートラックを作成します。

- レコーダーが停止中にBOUNCE/MIXDOWN/MASTERINGボタンを押して、「RECORDER MODE」画面を表示します。



- DATAホイールを使って、「MIXDOWN」項目を選択(反転表示)します。



- F4「[EXEC]」ボタンを押します。ポップアップメッセージ「Mixdown!」を表示した後、本機のレコーダーモードが「MIXDOWN」モードに切り換わり、ホーム画面に戻ります。



この状態で再生や録音を行うと、ヘッドホンまたは外部モニターシステム(パワードモニタースピーカーまたはアンプとスピーカーシステム)からは、トラックのミックス信号(=録音される信号)が聴こえます。

メモ

- レコーダーモードが「MIXDOWN」モードのときは、ホーム画面左上に「MIXDOWN」が反転表示されます。
 - INポイントとOUTポイントの間が4秒未満の場合は、レコーダーモードを「MIXDOWN」モードに切り換えようとするときにポップアップメッセージ「Trk Too Short」(トラックが短すぎです)を表示し、「MIXDOWN」モードに切り換えることができません。
 - レコーダーモードが「MIXDOWN」モードのときは、INポイント/OUTポイントの変更はできません。
 - レコーダーモードが「MIXDOWN」モードのとき、再生機能などで機能しないものがあります。こうした機能を実行しようすると、ポップアップメッセージ「In Mixdown Mode」が表示されます。
- 録音(●)ボタンを押しながら再生(▶)ボタンを押します。ステレオマスタートラックの作成が始まり、録音(●)インジケータが点灯します。レコーダー位置がどこであっても、INポイントから録音が始まります。必要に応じてLEVELつまみ、PANつまみを使ってミキシングをコントロールします。ここでの操作は、ステレオマスタートラックに反映されます。レコーダー位置がOUTポイントに到達すると、ステレオマスタートラックの作成が自動的に終了します。
 - ステレオマスタートラックの作成をやり直したいときは再度、録音(●)ボタンを押しながら再生(▶)ボタンを押します。

新しいステレオマスタートラックが作成され、以前のステレオマスタートラックは上書き消去されます。

メモ

- ステレオマスタートラックを録音した後、ステレオマスタートラックを再生して確認することができます。(→63ページ「ステレオマスタートラックを確認する」)
 - ステレオマスタートラックの作成もアンドゥが可能です。したがって、何回かステレオマスタートラックを録音した後、前に録音したステレオマスタートラックを採用することもできます。
- BOUNCE/MIXDOWN/MASTERINGボタンを押して「RECORDER MODE」画面を表示し、DATAホイールを使ってレコーダーモードを「MULTI TRACK」モードに戻します。

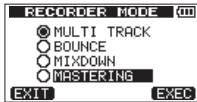
ステレオマスタートラックを確認する

ステレオマスタートラックの作成が終了した後、作成されたステレオマスタートラックを試聴するには、以下の操作を行います。

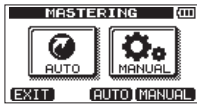
1. レコーダーが停止中に**BOUNCE/MIXDOWN/MASTERING**ボタンを押して、“**RECORDER MODE**”画面を表示します。



2. DATAホイールを使って、“**MASTERING**”項目を選択（反転表示）します。



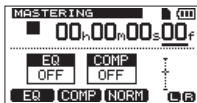
3. F4 “[EXEC]”ボタンを押します。
“**MASTERING**”モード選択画面を表示します。



メモ

ステレオマスタートラックが無い場合は、ポップアップメッセージ“**No Master Trk**”が表示され、“**MASTERING**”モードに切り換わりません。

4. F4 “[MANUAL]”ボタンを押します。
ポップアップメッセージ“**Mastering!**”を表示した後、本機のレコーダーモードが“**MASTERING**”モードに切り換わり、“**MASTERING**”画面を表示します。



メモ

レコーダーモードが“**MASTERING**”モードのときは、ホーム画面左上に“**MASTERING**”が反転表示されません。

5. この状態で**再生 (▶)**ボタンを押すと、ステレオマスタートラックが再生されます。
ステレオマスタートラックの信号は**LINE OUT**端子から出力されますので、外部のステレオレコーダーにダビングすることができます。

6. 納得のいくステレオマスタートラックが作成できたら、**BOUNCE/MIXDOWN/MASTERING**ボタンを押して“**RECORDER MODE**”画面を表示し、**DATA**ホイールを使ってレコーダーモードを“**MULTI TRACK**”モードに戻します。
作成したステレオマスタートラックが気に入らない場合は、再度ステレオマスタートラックを作成します。
新しいステレオマスタートラックが以前のステレオマスタートラックを上書きします。

メモ

保存されているソングに録音されているステレオマスタートラックを聴くには、そのソングをロードしてから、レコーダーモードを“**MASTERING**”モードに切り換えた後、**再生 (▶)**ボタンを押して再生します。

ヒント

- 本機のレコーダーモードが“**MULTI TRACK**”モードのときのみ、本機で作成したステレオマスタートラックのファイルを、パソコンで再生可能なファイルとして、パソコンに転送することができます。(→ 80ページ「ステレオマスタートラックをエクスポートする」)
- 本機のレコーダーモードが“**MULTI TRACK**”モードのときのみ、ステレオマスタートラックを**TRACK 1-8**のうちのいずれかのペアトラックにコピーして「クローン」トラックを作ることができます。(→ 59ページ「クローントラック (トラック複製)」)

第9章 ミックスダウンとマスタリング

ステレオマスタートラックを仕上げる (マスタリング)

本機には、ステレオマスタートラック専用のマスタリングツールが搭載され、イコライザー、コンプレッサー、ノーマライズを使って全体の音圧や音質を調節することができます。

本機のレコーダーモードを“MASTERING”モードに切り換え、マスタリングツールを使ってステレオマスタートラックを仕上げる(=マスタリングする)ことができます。

AUTO MASTERINGモード

エフェクトのかり具合(MAXIMUM / NATURAL)を設定後、本機が自動でマスタリングを行います。

MANUAL MASTERINGモード

マスタリング用イコライザー、マスタリング用コンプレッサーまたはノーマライズを個別に調節し、マスタリングすることができます。

オートマスタリングモードで仕上げる

- レコーダーが停止中にBOUNCE/MIXDOWN/MASTERINGボタンを押して、“RECORDER MODE”画面を表示します。
- DATAホイールを使って“MASTERING”項目を選択(反転表示)し、F4 “[EXEC]” ボタンを押して“MASTERING”モード選択画面を表示します。



メモ

ステレオマスタートラックが無い場合は、ポップアップメッセージ“**No Master Trk**”が表示され、“MASTERING”モードに切り換わりません。

- F3 “[AUTO]” ボタンを押します。

ポップアップメッセージ“**Mastering!**”を表示した後、本機のレコーダーモードが“MASTERING”モードに切り換わり、“AUTO MASTERING”画面を表示します。



メモ

“AUTO MASTERING”モード中は、録音(●)ボタンと再生(▶)ボタンの操作はできません。

- F1 “[TYPE]” ボタンを押して、以下のオートマスタリングのエフェクトタイプを設定します。

NATURAL SOUND :

ソフトに音圧を上げる効果が得られます。



MAXIMUM SOUND :

最大限に音圧を上げる効果が得られます。



- オートマスタリングのエフェクトタイプを設定後、F2 “[RHSL]” ボタンを押して再生音へのエフェクト効果を確認します。
確認後、F2 “[STOP]” ボタンを押して停止します。



- F3 “[EXEC]” ボタンを押して、オートマスタリングを開始します。



メモ

オートマスタリングするステレオマスタートラックのオフラインピーク検出が実行されていない場合には、ポップアップメッセージ“**Peak Detect**”を表示し、オフラインピーク検出を実行します。



オフラインピーク検出を終了すると確認のポップアップメッセージが表示されますので、F3 “[YES]” ボタンを押してオートマスタリングを開始します。



- F4 “[NO]” ボタンを押すと、オートマスタリングを取り消し、“AUTO MASTERING”画面に戻ります。

7. オートマスタリングを終了すると、エフェクトタイプが“OFF”の“AUTO MASTERING”画面に戻ります。

メモ

アンドゥおよびリドゥは、“AUTO MASTERING”モードではできません。レコーダーモードを“MULTI TRACK”モードまたは“MIXDOWN”モードで行ってください。

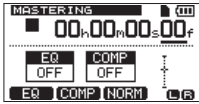
マニュアルマスタリングモードで仕上げる

マニュアルでのマスタリングは、以下の手順で行います。

ステップ1・マニュアルマスタリングモードに設定する

“MASTERING”モード選択画面を表示中に、F4 “[MANUAL]” ボタンを押します。

ポップアップメッセージ“Mastering!”を表示した後、本機のレコーダーモードが“MASTERING”モードに切り換わり、“MASTERING”画面を表示します。



メモ

ステレオマスタートラックが無い場合は、ポップアップメッセージ“**No Master Trk**”が表示され、“MASTERING”モードに切り換わりません。

ステップ2・マスタリングツールを使って調節する

F1 “[EQ]” ボタン、F2 “[COMP]” ボタンまたはF3 “[NORM]” ボタンを押して、希望する任意のツール画面を表示します。

ツール画面には、イコライザー(“MASTERING EQ”画面)、コンプレッサー(“MASTERING COMP”画面)、ノーマライズ(“NORMALIZE”画面)があります。また、コンプレッサーはマルチバンドまたはシングルバンドのいずれかのタイプを選ぶことができます(ライブラリーで選択)。マルチバンドの場合は、“MASTERING COMP”画面の設定項目表示が低域/中域/高域(“LOW BAND” / “MID BAND” / “HIGH BAND”)の各周波数帯域別に分かれます。

それぞれのツール画面で設定を行います。(詳細は、以下に述べる「マスタリング用コンプレッサーを使う」、「マスタリング用イコライザーを使う」、「ノーマライズする」をご覧ください。)

レコーダーモードが“MASTERING”モードのときに、再生(▶) ボタン、停止(■) ボタン、◀ [RTZ] ボタン、▶▶ [LRP] ボタンの各トランスポートボタンを使うことができますので、再生音を確認しながら各ツールの設定を行います。

ステップ3・録音を行う

マスタリングツールの設定を終了したら、録音(●) ボタンを押しながら再生(▶) ボタンを押して録音を行います。

録音中は、録音(●) インジケーターが点灯します。録音は、(現在の位置にかかわらず)常にソングの先頭“00h00m00s00f”からスタートします。

レコーダーモードが“MASTERING”モードのときの録音では、ステレオマスタートラックが上書きされます。

メモ

途中で録音を停止した場合は、停止した時点までのステレオマスタートラックが作成されます。

ステップ4・確認する

イコライザーおよびコンプレッサーをオフにしてから再生を行い、マスタリングの結果を確認します。

この段階でアンドゥとリドゥ操作が可能ですので、マスタリング前とマスタリング後の音を比較することができます。

結果が満足できない場合には

アンドゥを行ってステレオマスタートラックを上書き以前の状態に戻してから、再びステップ1からマスタリングをやり直します。

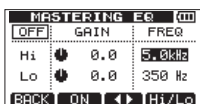
メモ

アンドゥおよびリドゥは、“MASTERING”モードではできません。レコーダーモードを“MULTI TRACK”モードまたは“MIXDOWN”モードで行ってください。

第9章 ミックスダウンとマスタリング

マスタリング用イコライザーを使う

- レコーダーモードが“MASTERING”モードのときにF1 “[EQ]” ボタンを押して、“MASTERING EQ” 画面を表示します。



- マスタリング用イコライザー設定します。イコライザーの設定項目は、以下の通りです。

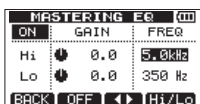
	GAIN	FREQ
Hi	高域のゲイン 設定値：±12dB (初期値：0.0dB)	高域の周波数 設定値：1.7kHz~18kHz (初期値：5kHz)
Lo	低域のゲイン 設定値：±12dB (初期値：0.0dB)	低域の周波数 設定値：32Hz~1.6kHz (初期値：350Hz)

F3 “[◀▶]” ボタンを使って設定する“GAIN”項目または“FREQ”項目を選択（反転表示）します。

F4 “[Hi/Lo]” ボタンを使って設定する“Hi”または“Lo”を選択（反転表示）します。

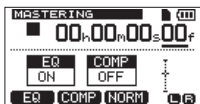
F3 “[◀▶]” ボタンとF4 “[Hi/Lo]” ボタンを使って選択（反転表示）した項目の値を、DATAホイールを使って設定します。

“MASTERING EQ”画面の左上に、マスタリング用イコライザーが“ON”か“OFF”かが表示されています。“OFF”のときにF2 “[ON]” ボタンを押すと、イコライザーをオンに、“ON”のときにF2 “[OFF]” ボタンを押すと“OFF”になります。



- 設定が終了したら、F1 “[BACK]” ボタンを押して“MASTERING”画面に戻します。

- MASTERING 画面の“EQ”項目に、マスタリング用イコライザーが“ON”か“OFF”かが表示されます。



マスタリング用コンプレッサーを使う

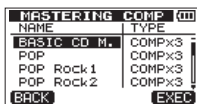
マスタリング用のコンプレッサーは、シングルバンドまたはマルチバンドのいずれかのタイプを選ぶことができます。

マルチバンドタイプのコンプレッサーは、ステレオマスタートラックに対して低域/中域/高域に分割した周波数帯域にそれぞれ独立した設定で処理を行うことができるため、全体の音圧バランスを調節することができます。これによって不要なピークを抑え、全体のゲインを持ち上げることで音圧を上げ、迫力のある音に仕上げるすることができます。

- レコーダーモードが“MASTERING”モードのときにF2 “[COMP]” ボタンを押して、“MASTERING COMP”画面を表示します。



- F3 “[LIB]” ボタンを押して、“MASTERING COMP”画面のライブラリー選択表示にします。



“TYPE”項目に“COMPx3”と表示されているライブラリーはマルチバンドタイプ、“COMPx1”と表示されているライブラリーはシングルバンドタイプです。

- DATAホイールを使ってライブラリーを選択（反転表示）し、F4 “[EXEC]” ボタンを押して確定します。ライブラリーを読み込んだ後、“MASTERING COMP”画面に戻ります。

- 次にF4 “[PARM]” ボタンを押して、“MASTERING COMP”画面の設定項目表示に変更します。



[マルチバンドタイプ表示]



[シングルバンドタイプ表示]

このとき、選択されているバンドが左上に表示されます。マルチバンドタイプの場合は、F2 “[BAND]” ボタンを押して値を設定するバンドを切り換えることができます。F2 “[BAND]” ボタンを押すたびに“LOW BAND” → “MID BAND” → “HIGH BAND” (→ “LOW BAND”) と切り換わります。

第9章 ミックスダウンとマスタリング

シングルバンドタイプの場合は、F2 “[BAND]” ボタンを押すと “BAND” と “A.MAKEUP” が交互に切り換わります。

5. F3 “[▲]” ボタンとF4 “[▼]” ボタンを使って設定したい項目の値を選択（反転表示）し、DATAホイールを使って変更します。
設定値が初期値のとき、各設定値の右に “i” が表示されます。
設定値と範囲は、以下の通りです。

THRSHLD

コンプレッサー動作を始めるスレッシュホールド値を設定します。

選択肢：“-32dB” ~ “0dB”

RATIO

圧縮比を選択します。

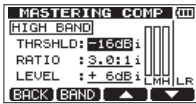
選択肢：“1.0 : 1”、“1.1 : 1”、“1.3 : 1”、“1.5 : 1”、“1.7 : 1”、“2.0 : 1”、“2.5 : 1”、“3.0 : 1”、“3.5 : 1”、“4.0 : 1”、“5.0 : 1”、“6.0 : 1”、“8.0 : 1”、“16 : 1”、“inf : 1”

LEVEL

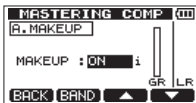
出力レベルを設定します。

選択肢：“-20dB” ~ “+20dB”

6. F2 “[BAND]” ボタンを押して、バンド（音域）を設定します。
マルチバンドタイプの場合は、“LOW BAND”、“MID BAND” または “HIGH BAND” に切り換え、それぞれのバンド（音域）の設定値を変更します。



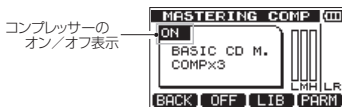
シングルバンドの場合は、“A.MAKEUP” を表示させます。



コンプレッサーによって音量が低下しないよう、自動的に音量を補正するオートメイクアップ機能をオン/オフします。

初期値の場合には、値の右に “i” と表示します。

7. 設定が終了したらF1 “[BACK]” ボタンを押して、“MASTERING COMP” 画面に戻ります。
8. F2 “[ON]” ボタンを押して、コンプレッサーのオン/オフを切り換えます。オン/オフ状態は、“MASTERING COMP” 画面内に表示されます。



9. 設定が終了したら、F1 “[BACK]” ボタンを押して “MASTERING” 画面に戻ります。

コンプレッサーの設定は、81ページ「第13章 マスタリング用コンプレッサーの設定一覧」を参照してください。

ノーマライズを使う

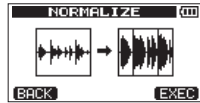
自動的に音量を調節するノーマライズを行えます。最大音量レベルを調べそれが最大になるよう音量を上げます。

注意

ノーマライズを行ってから、マスタリング用イコライザーまたはコンプレッサーをかけると歪が発生する可能性があります。

ノーマライズは、マスタリング用イコライザーまたはコンプレッサーで音質の調節を行った後に実行するようにしてください。

1. レコーダーモードが “MASTERING” モードのときに、F3 “[NORM]” ボタンを押して、“NORMALIZE” 画面を表示します。



2. F4 “[EXEC]” ボタンを押すと、ノーマライズを実行します。
3. ノーマライズが終了したら、F1 “[BACK]” ボタンを押して “MASTERING” 画面に戻ります。

ステレオマスタートラックをコピーする

トラック編集のクローントラック機能を使って、ステレオマスタートラックをトラックにコピーすることが出来ます。（→ 59ページ「クローントラック（トラック複製）」）

マスタリングモードを終了する

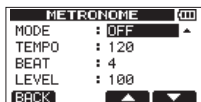
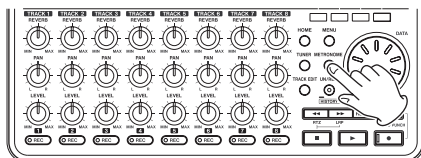
“MASTERING” モードを終了して “MULTI TRACK” モードに戻るには、BOUNCE/MIXDOWN/MASTERING ボタンを押します。

第10章 さまざまな機能

メトロノーム機能

本機は、メトロノーム機能を内蔵しています。メトロノームは、レコーダー走行中に動作します。再生時と録音時の両方、または録音時のみ動作するように設定することができます。

1. レコーダーが停止中に**METRONOME**ボタンを押して、“**METRONOME**”画面を表示します。



2. 以下の項目を設定します。
F3 “[▲]” ボタンとF4 “[▼]” ボタンを使って項目の設定値を選択（反転表示）し、DATAホイールを使って値を選択します。

MODE

以下のモードから選択します。

モード	内容
“OFF”（初期値）	メトロノーム機能オフ、初期値
“REC&PLAY”	録音／再生時にメトロノームが動作
“REC ONLY”	録音時のみ、メトロノームが動作

TEMPO

スピードを“20”～“250”（BPM）の範囲で設定します。（初期値：“120”）

BEAT

拍子を“1”～“12”の範囲で設定します。（初期値：“4”）拍子の1拍目にアクセントが付きます。

LEVEL

メトロノームの音量を“0”～“100”の範囲で設定します。（初期値：“100”）

3. 設定が終了したら、**HOME**ボタンを押してホーム画面に戻します。

手順2で行った“**MODE**”項目の設定に従って、メトロノームが動作します。
なお、録音時にメトロノームが動作しても、メトロノーム信号は録音されません。

メモ

- メトロノーム動作時、外部接続されたスピーカーでメトロノーム音をモニターしマイクを使って録音すると、メトロノーム音も録音されることがあります。
- メトロノーム動作中、“**METRONOME**”画面で“**LEVEL**”項目の調節を行うことができますが、他の項目は変更できません。
- 録音の最初にギターやベースなどを録音するとき、メトロノームをガイドクリックとして使うことができます。
- メトロノームを使って練習をするときは、何も録音されていないソングを再生するか、または各**TRACK**の**LEVEL**つまみを下げた状態でソングを再生します。

チューナー機能

内蔵のクロマチックチューナーを使ってギターや管楽器のチューニングすることができます。

本機のチューナーには、チューニングメーターを見ながら楽器のチューニングができるクロマチックチューナーモードと、基準音を出力するオシレーターモードがあります。

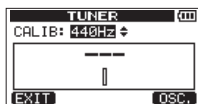
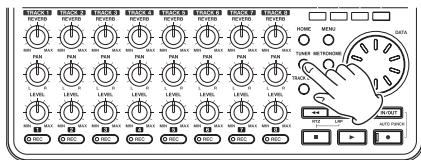
クロマチックチューナーモード

1. ギターまたはベースを**INPUT A**端子に接続します。
INPUT B端子に接続してもチューニングできません。
管楽器などをチューニングする場合は、内蔵**MIC A**を使ってチューニングをします。
2. “**INPUT SETTING**”画面で、“**INPUT A**”の入力ソースを“**Ext. Input, LINE / Low**”、“**Ext. Input / Mid**”または“**Ext. Input / High**”の中から設定します。（→ 42ページ「入力ソースを選択する」）

メモ

内蔵マイクを使用する場合は、“**INPUT SETTING**”画面で“**Internal MIC / Low**”または“**Internal MIC / High**”を選択します。

3. レコーダーが停止中に**TUNER**ボタンを押して、“**TUNER**”画面を表示します。
“**CALIB**”項目（基準周波数）の値が選択（反転表示）されています。



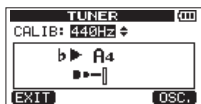
4. DATAホイールを使って、A音の基準周波数を設定します。

“435Hz”～“445Hz”の範囲で設定できます。
(初期値：“440Hz”)

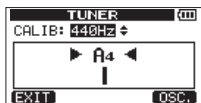
5. 楽器を弾いて、チューニングを行います。

弾いた音に最も近い音名がチューニングメーター上部に表示されます。

合わせたい音名が表示されて、チューニングメーター中央部が点灯するように楽器をチューニングします。チューニングが低すぎる場合は左側、高すぎる場合は右側にバーが表示されます。ズレが大きいほど、バーが長く表示されます。



ぴったり合うと音名の左右の“▶◀”が点灯します。



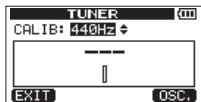
6. チューニングが終了したら、HOMEボタンを押してホーム画面に戻します。

メモ

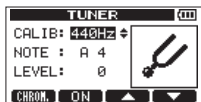
入力音をモニターしたい場合は、“INPUT A”がアサインされているTRACKのRECボタンを押します。(→43ページ「入力のアサインする」)

オシレーターモード

1. レコーダーが停止中にTUNERボタンを押して、“TUNER”画面を表示します。



2. F4 “[OSC.]”ボタンを押して、“TUNER”画面のオシレーターモード表示に切り換えます。



3. “TUNER”画面のオシレーターモード表示では、以下の設定します。

CALIB

A4 (ラ)の基準周波数を“435Hz”～“445Hz”の範囲で設定します。(初期値：“440Hz”)

NOTE

出力する音を“C3”～“B5”範囲で設定します。
(初期値：“A4”)

LEVEL

出力レベルを“10”（最小）～“100”（最大）の範囲で設定します。(初期値：“50”)

F3 “[▲]”ボタンとF4 “[▼]”ボタンを使って項目の設定値を選択（反転表示）し、DATAホイールを使って値を設定します。

F2 “[ON]”ボタンで出力のオン/オフを行います。

F1 “[CHROM.]”ボタンでクロマチックチューナーモードに移行します。

4. チューニングが終了したら、HOMEボタンを押してホーム画面に戻します。

オートパワーセーブ機能

最後に動作、あるいは操作してから自動的に電源がオフ（スタンバイ状態）になるまでの時間を設定することができます。

1. レコーダーが停止中にMENUボタンを押して、“MENU”画面を表示します。

2. DATAホイールを使って“PREFERENCE”メニュー項目を選択（反転表示）し、F4 “[▶]”ボタンを押します。

“PREFERENCE”画面が表示されます。

3. F3 “[▲]”ボタンとF4 “[▼]”ボタンを使って“Auto Power Save”項目の設定値を選択（反転表示）し、DATAホイールを使って以下の中から値を選択します。

選択肢：“OFF”（自動オフしない）、“3min”、“5min”、“10min”、“30min”（初期値）



4. 設定が終了したら、HOMEボタンを押してホーム画面に戻します。

第10章 さまざまな機能

プリファレンス設定を初期設定に戻す

“PREFERENCE”画面の設定とバックアップメモリー項目(87ページ)を初期状態(工場出荷時の状態)に戻すことができます。この操作をイニシャライズと呼びます。

- レコーダーが停止中にMENUボタンを押して、“MENU”画面を表示します。
- DATAホイールを使って“PREFERENCE”メニュー項目を選択(反転表示)し、F4 “[▶]”ボタンを押します。
“PREFERENCE”画面が表示されます。
- F3 “[▲]”ボタンとF4 “[▼]”ボタンを使って“Initialize”項目の“Exec”を選択(反転表示)し、F2 “[EXEC]”ボタンを押します。



- 確認のポップアップメッセージが表示されますので、F3 “[YES]”ボタンを押します。



イニシャライズを実行完了後、“PREFERENCE”画面に戻ります。

メモ

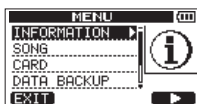
イニシャライズを実行しない場合は、F4 “[NO]”ボタンを押します。

- 設定が終了したら、HOMEボタンを押してホーム画面に戻します。

情報を見る

カレントソング(現在ロード中のソング)、SDカード、ファームウェアの情報を見ることができます。

- レコーダーが停止中にMENUボタンを押して、“MENU”画面を表示します。
- DATAホイールを使って“INFORMATION”項目を選択(反転表示)し、F4 “[▶]”ボタンを押します。



“INFORMATION”画面の“SONG (1/3)”ページが表示されます。

“INFORMATION”画面には、このページを含めて3ページあります。

- F3 “[PREV]”ボタンとF4 “[NEXT]”ボタンを使って、ページを切り換えます。
各ページには、以下の情報が表示されます。

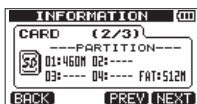
SONG (1/3) ページ

現在ロード中のソングが所属しているMTRパーティション番号、ソングの名前(タイトル)、録音残時間を表示



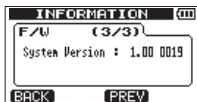
CARD (2/3) ページ

MTRパーティション構成と各容量、FATパーティションの容量を表示



F/W (3/3) ページ

システムのファームウェアバージョンを表示



パーティションの概要

「第5章 ソングの管理」の「パーティションとソング」(37ページ)でも述べたように、本機でフォーマットしたSDカードはパーティションに仕切られています。

パーティションには、録音データ(ソング情報)を記録するためのMTRパーティションと、パソコンからの読み込みが可能なFATパーティションがあります。

MTRパーティションは、複数存在する場合があります。この場合は、ソングのタイプごとにMTRパーティションを分けて使ったり、ソング情報を、保管などの目的のために別のMTRパーティションにコピーすることができます。FATパーティションは、FAT32形式によるフォーマットで、本機とUSB接続したパソコンから読み込むことができます。

パソコン上にソングを保存する場合やステレオマスタートラックをパソコンにエクスポートする場合、あるいは本機のソングにオーディオファイルをインポートする場合など、このFATパーティションを介して行われます。そのため、パソコンとMTRパーティション間でソング情報をコピーするためには、2段階の操作が必要です。

なお、必要に応じてSDカード全体のフォーマットや各パーティション毎のフォーマット、あるいはリパーティション(パーティションの仕切り直し)を行うことができます。

注意

フォーマットとリパーティションは、操作の取り消し(アンドゥ)ができません。

メモ

- FATフォーマット (File Allocation Table) は、パソコンで読むことができるディスクフォーマットです。
- 使用できるSDカードは、512MB以上のSD / SDHC規格に対応したカードです。TASCAMのウェブサイト (<http://tascam.jp/>) には、当社で動作確認済みのSDカードのリストが掲載されています。
- アクティブパーティションを選択する方法については「アクティブパーティションを変更する」(37ページ)をご覧ください。

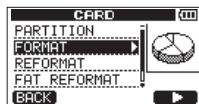
SDカードをフォーマットする

この操作では、SDカード全体をフォーマットします。その際、容量の大きいSDカードでは、本機のMTRパーティションのサイズを設定することができます。

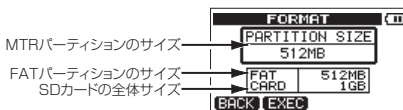
注意

この操作によってSDカード全体のデータが消去されます。取り消し(アンドゥ)はできません。フォーマットを実行する前に、よく確認してください。

- レコーダーが停止中にMENUボタンを押して、“MENU”画面を表示します。
- DATAホイールを使って“CARD”メニュー項目を選択(反転表示)し、F4 “[▶]” ボタンを押します。“CARD”メニュー画面が表示されます。
- DATAホイールを使って“FORMAT”項目を選択し、F4 “[▶]” ボタンを押します。



“FORMAT”画面が表示されます。



次の表は、SDカードの容量別に、FATパーティションサイズとMTRパーティションサイズを示しています。SDカードの容量によってFATパーティションのサイズは決まります。

MTRパーティションサイズは、4GB以下のSDカードでは固定ですが、8GB以上のSDカードでは選択可能です。ただし、最後の1つは残ったスペースで作られますので、サイズが異なります。

SDカードの容量と各パーティションサイズ

SDカードの容量	FATパーティションサイズ	MTRパーティションサイズ
32GB	4GB	2GB、4GB、8GB、16GBから選択
16GB	4GB	2GB、4GB、8GBから選択
8GB	2GB	2GB、4GBから選択
4GB	2GB	2GB固定
2GB	1GB	1GB固定
1GB	512MB	512MB固定
512MB	256MB	256MB固定

第11章 SDカードの管理

メモ

MTRパーティションを細かくしても扱えるパーティション数は4つまでです。また、未フォーマットSDカードを挿入するとフォーマットを促されますが、その際はMTRパーティションサイズの選択ができません。変更したい場合は、上記手順によりフォーマットしてください。

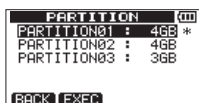
4. SDカード容量が4GB以下の場合、F2 “[EXEC]” ボタンを押します。

SDカード容量が8GB以上の場合、DATAホイールを使ってMTRパーティションサイズを選択してから、F2 “[EXEC]” ボタンを押します。全てのソングが消去されることを警告するポップアップメッセージが表示されます。



5. F3 “[YES]” ボタンを押して、SDカードをフォーマットします。

たとえば、16GBのSDカードをMTRパーティションサイズ4GBでフォーマットを行った場合は、4GBのFATパーティションを除いた12GBがMTRパーティション用に使われ、4GBのパーティションが2つと、残りの3GBのパーティションが1つ作成されます（本機における1GBは1024MBです。したがって、本機のパーティションの表示サイズの合計がSDカードの表示サイズと一致しない場合があります）。



メモ

- フォーマットが終了すると、“CARD” メニュー画面に戻ります。
- フォーマット後の各MTRパーティションには、ソングが1つずつ自動作成されます。
- フォーマットしない場合は、F4 “[NO]” ボタンを押します。

MTRパーティションを再フォーマットする

希望する任意のMTRパーティションを再フォーマットすることができます。

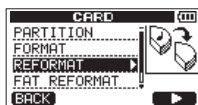
パーティションサイズを変更する必要がなく、特定のMTRパーティションのみをフォーマットしたい場合に、この機能を使います。

注意

この操作は、取り消し（アンドゥ）ができません。

選択したMTRパーティション内の全てのデータが消えます。再フォーマットを実行する前に、よく確認してください。

1. レコーダーが停止中にMENUボタンを押して、“MENU”画面を表示します。
2. DATAホイールを使って“CARD”メニュー項目を選択（反転表示）し、F4 “[▶]” ボタンを押します。“CARD”メニュー画面が表示されます。
3. DATAホイールを使って“REFORMAT”項目を選択（反転表示）し、F4 “[▶]” ボタンを押します。

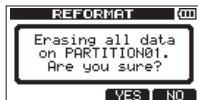


“REFORMAT”画面が表示されます。



MTRパーティションのリストがパーティションのサイズ（空き容量ではありません）とともに表示されます。現在選択されているMTRパーティションには“*”アイコンが表示されています。

4. DATAホイールを使って、再フォーマットしたいMTRパーティションを選択（反転表示）し、F2 “[EXEC]” ボタンを押します。MTRパーティション内のデータが全て消去されるを警告するポップアップメッセージが表示されます。



5. F3 “[YES]” ボタンを押して、MTRパーティションを再フォーマットします。

メモ

- 再フォーマットが終了すると、“CARD”メニュー画面に戻ります。
- 再フォーマット後のMTRパーティションには、ソングが1つ自動作成されます。
- 再フォーマットしない場合は、F4 “[NO]” ボタンを押します。

FATパーティションを再フォーマットする

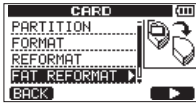
FATパーティションのみを再フォーマットすることができます。

FATパーティションのサイズは、変更できません。

注意

この操作は取り消し（アンドゥ）ができません。FATパーティションの全てのデータが消えます。再フォーマットを実行する前に、よく確認してください。

- レコーダーが停止中にMENUボタンを押して、“MENU”画面を表示します。
- DATAホイールを使って“CARD”メニュー項目を選択（反転表示）し、F4 “[▶]” ボタンを押します。“CARD”メニュー画面が表示されます。
- DATAホイールを使って“FAT REFORMAT”項目を選択（反転表示）し、F4 “[▶]” ボタンを押します。



FATパーティション上のデータが全て消去されることを警告するポップアップメッセージが表示されます。



- F3 “[YES]” ボタンを押して、FATパーティションを再フォーマットします。

メモ

- 再フォーマットが終了すると、“CARD”メニュー画面に戻ります。
- 再フォーマットしない場合は、F4 “[NO]” ボタンを押します。

SDカードを初期化（イニシャライズ）する

本機で使用したSDカードを他の機器で使用する場合は、初期化（イニシャライズ）を行うことをお勧めします。SDカードの初期化（イニシャライズ）を行うと、SDカード全体がFAT32形式でフォーマットされます。

- レコーダーが停止中にMENUボタンを押して、“MENU”画面を表示します。
- DATAホイールを使って“CARD”メニュー項目を選択（反転表示）し、F4 “[▶]” ボタンを押します。“CARD”メニュー画面が表示されます。
- DATAホイールを使って“SD INITIALIZE”項目を選択（反転表示）し、F4 “[▶]” ボタンを押します。



SDカード上のデータが全て消去されることを警告するポップアップメッセージが表示されます。



- F3 “[YES]” ボタンを押して、SDカード全体を初期化（イニシャライズ）し、FAT32形式でフォーマットします。

メモ

初期化（イニシャライズ）しない場合は、F4 “[NO]” ボタンを押します。

注意

初期化（イニシャライズ）後、再び本機で使用する場合は、SDカードのフォーマットが必要です（→ 71 ページ「SDカードをフォーマットする」）

第12章 パソコンを使ったデータ送受信

本機とパソコンを付属のUSBケーブルで接続することで、本機のSDカードの中のソング情報をパソコンにバックアップしたり、バックアップしたソング情報を本機にリストア（復元）することができます。また、ソング内のトラックファイルやステレオマスターファイルをパソコンにエクスポートしたり、パソコン上のオーディオファイルを本機にインポートすることができます。バックアップしたデータは、他のDP-008EXにリストア（復元）することができます。このようにDP-008EX間でのファイルのやりとりが自由にできますので、別の場所での追加録音やミックスダウンを行うことも簡単にできます。

注意

本機とパソコンをUSB接続する代わりに、本機からSDカードを取り外して直接（あるいはカードアダプターを使って）パソコンにセットしてバックアップを行う場合は、必ず本機の電源をオフ（スタンバイ状態）にしてからSDカードを取り出してください。

メモ

- ソングファイルが記録されているMTRパーティションにパソコンから直接アクセスすることはできません。
- 本章の説明の中で「パソコン」と表記する場合は、本機が対応しているWindowsまたはMacのパソコンを指します。（→ 74ページ「必要なパソコンシステム」）

本機では、以下のデータをパソコンに転送することができます。

ソング全体

本機では、ソング全体のデータをFATパーティションの《BACKUP》フォルダーからパソコンに転送することができます。この操作を「バックアップ」と呼びます。また、パソコンにバックアップしたデータをFATパーティションの《BACKUP》フォルダーに転送し、ソングファイルとして復元することができます。この操作を「リストア（復元）」と呼びます。

WAVフォーマットのトラック

トラックをWAVファイルに変換してパソコンにエクスポートしたり、パソコン上のWAVファイルを本機にインポートすることができます。

WAVファイルは、本機のFATパーティションの《WAVE》フォルダーに格納されます。

ステレオマスターファイル

本機のステレオマスタートラックを、ステレオWAVファイルとして（FATパーティションの《WAVE》フォルダーから）パソコンに転送することができます。エクスポートのみが可能です。

必要なパソコンシステム

本機と以下のパソコンを接続することができます。

Windows

Windows XP、Windows Vista、Windows 7

Mac OS X

Mac OS X 10.2 以上

本機とパソコンを接続すると、パソコンは本機をリムーバブルディスクとして認識します。専用のドライバーは不要です。

メモ

本機とパソコン間のデータ転送は、USB2.0スピード（最大）で行われます。ご使用のパソコンがUSB1.1の場合は、データ転送は可能ですが、動作が遅くなります。また、USB2.0スピードを得るためには、付属のUSBケーブルもしくはUSB2.0に対応したケーブルを使用する必要があります。

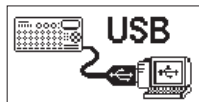
パソコンと接続する

本機のFATパーティションを使う前に、本機とパソコンをUSB接続します。USB接続中は、録音／再生など本機のリコーダー操作はいっさいできません。

パソコンと接続するには、付属のUSBケーブルを使って、本機の右サイドパネルのUSB端子とパソコンのUSBポートを接続します。

本機の電源をオンの状態でUSB接続しても、USB接続後に本機の電源をオンにしても、どちらでも問題ありません。

本機の電源がオンのときにUSB接続を行うと、現在ロード中のソングが保存された後にUSB接続が有効になり、本機のディスプレイに以下のような画面が表示されます。



USB接続後に本機の電源をオンにすると、直接上記の画面が表示されます。

パソコンのディスプレイには、《DP-008EX》という名前の外部ドライブとして表示されます。

《DP-008EX》ドライブをクリックすると、DP-008EXのFATパーティションの《BACKUP》フォルダーと《UTILITY》フォルダー、《WAVE》フォルダーが表示されます。

注意

- 本機への電源供給は、電池または専用ACアダプター (TASCAM PS-P520) からとなります。USB経由での電源供給は行いません。
- 電池の残量が少ない状態でUSB接続を行わないでください。データ転送中に電源が切れた場合は、データが失われます。また、失われたデータは復活することができません。
- 《DP-008EX》内にある3つのフォルダー名は、変更しないでください。
- 本機が認識できる FATパーティションのファイル数は、ファイルとフォルダーを合わせて100個までとなります。100個を超える場合は、パソコンなどに移動してください。

メモ

- 本機のレコーダーモードが“MULTI TRACK”モードのときのみ、パソコンとのUSB接続が可能です。
- USB接続する前に、パソコンに転送するファイルが全てFATパーティションにエクスポート、もしくはバックアップされていることを確認してください。
- 《UTILITY》フォルダーは、本機のシステムをアップデートするときなどに使われます。

接続を解除する

以下の手順でUSB接続を正しく解除します。

注意

データを転送中にUSB接続を解除したり、USBケーブルを抜いたりしないでください。パソコンや本機のデータが破壊される可能性があります。

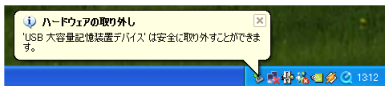
メモ

パソコンとの接続を解除することを、パソコン側では「取り外す」と言います。

Windows XP / Windows Vista / Windows 7 の場合

Windows XP、Windows Vista、Windows 7の場合は、以下の手順で接続を解除します。

システムトレイ（通常は画面の右下）内に、PCカードのアイコンと矢印があります。



1. このアイコンを左クリックしてポップアップバーを表示します。
パソコンから本機を取り外すには、このポップアップバーをクリックします。
2. パソコンのディスプレイに、本機を取り外すことができることを告げるポップアップメッセージが表示されたら、USBケーブルを外します。
本機が自動的に再起動し、ディスプレイにホーム画面が表示されます。

メモ

パソコンのディスプレイに、本機を安全に取り外せないことを告げるポップアップメッセージが表示された場合は、USBケーブルを外さないでください。

本機上のファイルにアクセス（読み出し／書き込み）している全てのコンピュータプログラムとウィンドウを閉じてから、再度上記の操作を行ってください。

Mac OS X の場合

1. 本機のアイコン《DP-008EX》をゴミ箱にドラッグするか、Command + E キーの操作を行って、DP-008EXを取り外します。
2. 本機のアイコン《DP-008EX》がデスクトップから消えたら、USBケーブルを外します。
本機が自動的に再起動して、ディスプレイにホーム画面が表示されます。

ヒント

OSのバージョンによっては、Finderウィンドウに表示される《DP-008EX》のイジェクトアイコンをクリックしたり、Controlキーを使った操作を行って、取り外すこともできます。

第12章 パソコンを使ったデータ送受信

ソングのバックアップとリストア(復元)

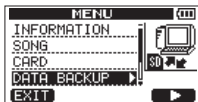
ソングのバックアップでは、オーディオトラックだけでなく編集データなどもバックアップします。

ソングのリストア(復元)は、これと逆の作業になります。つまり、パソコンから本機のFATパーティションへ転送し、ソングファイルを復元します。

ソングをバックアップする

バックアップを開始する前に、バックアップするソングを含むMTRパーティションが選択されていることを確認してください。(→37ページ「アクティブパーティションを選択する」)

1. レコーダーが停止中にMENUボタンを押して、“MENU”画面を表示します。
2. DATAホイールを使って“DATA BACKUP”メニュー項目を選択(反転表示)し、F4 “[▶]” ボタンを押します。

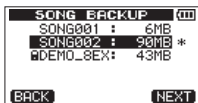


“DATA BACKUP”画面が表示されます。

3. DATAホイールを使って“SONG BACKUP”項目を選択(反転表示)し、F4 “[▶]” ボタンを押します。



“SONG BACKUP”画面に進み、現在選択されているMTRパーティション内のソングリストが表示されます。



4. DATAホイールを使ってバックアップするソングを選択(反転表示)し、F4 “[NEXT]” ボタンを押します。“SONG BACKUP”画面のファイルの名前(タイトル)を編集する表示になります。



5. 必要に応じてバックアップするソングの名前(タイトル)を編集します。(→38ページ「名前の編集」)

6. 名前(タイトル)を付けたら、F2 “[EXEC]” ボタンを押します。ソングがMTRパーティションからFATパーティションにバックアップコピーされます(拡張子“.001”が付加されます)。ディスプレイには、バックアップ中であるポップアップメッセージ“Writing File”を表示します。



バックアップコピーを終了すると、ディスプレイの表示が“DATA BACKUP”画面に戻ります。

メモ

FATパーティションにソングをバックアップするのに必要な空き容量がない場合は、警告のポップアップメッセージ“it's too Large”(空き容量より大きいです。)が表示されます。この場合は、本機とパソコンを接続し、パソコンからの操作で不要なファイルを削除して、空き容量を確保してください。

7. USBケーブルを使って本機とパソコンを接続します。(→74ページ「パソコンと接続する」)
8. パソコン側の操作で、本機のFATパーティションの《BACKUP》フォルダーからパソコンにバックアップファイルをコピーします。
9. コピーが終了したら、USB接続を解除します。(→75ページ「接続を解除する」)

注意

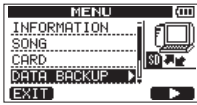
- バックアップしたソングのファイル名をパソコン上で変更するときは、ファイル名が半角英数字で8文字以内になるようにしてください。
- 拡張子は、変更しないでください。

ソングをリストア(復元)する

リストア(復元)は、基本的にバックアップの逆の作業です。つまりパソコンから本機にバックアップファイルを転送し、ソングを復元します。

1. USBケーブルを使って本機とパソコンを接続します。(→74ページ「パソコンと接続する」)
2. パソコン側の操作で、パソコン上のバックアップファイルを本機のFATパーティションの《BACKUP》フォルダーにコピーします。
3. コピーが終了したら、正しい手順でUSBケーブルを外し、本機とパソコンの接続を解除します。(→75ページ「接続を解除する」)
4. 本機が自動的に再起動した後、MENUボタンを押して“MENU”画面を表示します。

5. DATAホイールを使って“DATA BACKUP”メニュー項目を選択（反転表示）し、F4 “[▶]” ボタンを押します。



“DATA BACKUP”画面が表示されます。

6. DATAホイールを使って“SONG RESTORE”項目を選択（反転表示）し、F4 “[▶]” ボタンを押します。



“SONG RESTORE”画面に進み、FATパーティション上のバックアップファイルが表示されます。



メモ

FATパーティションにファイルが存在しない場合は、警告のポップアップメッセージ“File Not Found”（ファイルが見つかりません）が表示されます。

7. DATAホイールを使ってリストア（復元）したいファイルを選択（反転表示）し、F2 “[EXEC]” ボタンを押します。

実際のソングの名前（タイトル）と確認のポップアップメッセージ“Are you sure?”（本当にいいですか？）が表示されます。



メモ

ファイル名が短い場合は、FATパーティション上のファイル名の最後にスペースが表示されますが、実際のファイル名にはそのスペースは含まれません。

8. F3 “[YES]” ボタンを押します。
現在ロード中のソングが保存された後、手順7で選択したソングがリストア（復元）され、ロードされます。

メモ

SDカードの空き容量が足りない場合は、警告のポップアップメッセージが“Card Full”表示されます。

9. HOMEボタンを押して、ホーム画面に戻します。

トラックのインポートとエクスポート

パソコンと本機のFATパーティション間で、トラック個別のインポート/エクスポートが可能です。

トラックのインポート/エクスポートに使われるファイルは、WAV形式です（拡張子《.WAV》が付きます）。インポート/エクスポートは、モノラル/ステレオとも対応しています。

別の形式のオーディオファイルを本機にインポートする場合は、事前に16ビット、44.1kHzのモノラル/ステレオWAVファイルに変換する必要があります。

トラックをインポートする

トラックをインポートする前に、アクティブパーティションとしてインポート先のMTR/パーティションが選択されていることと、インポート先のソングがロードされていることを確認してください。（→ 37ページ「アクティブパーティションを選択する」）

1. 付属のUSBケーブルを使って、本機とパソコンを接続します。（→ 74ページ「パソコンと接続する」）
2. パソコン側の操作で、パソコン上のWAVファイルを本機のFATパーティションの《WAVE》フォルダーにコピーします。

メモ

コピーするファイルは、半角英数字のファイル名（8文字以内）を持つファイルでなければなりません。日本語のファイル名を持つファイルをコピーした場合は、後述の手順6.で表記される画面上のファイル名が表示されないため、インポートすることができません。

3. トラックファイルをパソコンからインポートしたら、正しい手順でUSBケーブルを外し、本機とパソコンの接続を解除します。（→ 75ページ「接続を解除する」）
4. 本機が自動的に再起動したら、MENUボタンを押して“MENU”画面を表示します。
5. DATAホイールを使って“IMPORT/EXPORT”項目を選択（反転表示）し、F4 “[▶]” ボタンを押します。



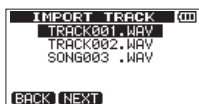
“IMPORT/EXPORT”画面が表示されます。

6. DATAホイールを使って“IMPORT TRACK”項目を選択（反転表示）し、F4 “[▶]” ボタンを押します。



第12章 パソコンを使ったデータ送受信

FATパーティション上に存在するソングファイルが表示されます。



メモ

- 本機は、44.1kHz以外のサンプリング周波数のWAVファイルに対応していません。これらのファイルをインポートしても、ディスプレイに表示されません。インポート可能なファイルがFATパーティション上にない場合は、ポップアップメッセージ“Import File Not Found”（インポートするファイルが見つかりません）が表示されます。
 - ファイル名が短い場合は、FATパーティション上のファイル名の最後にスペースが表示されますが、実際のファイル名にはそのスペースは含まれません。
7. DATAホイールを使って、インポートするWAVファイルを選択し、F2 “[NEXT]” ボタンを押します。ディスプレイに、MTRパーティションの空き容量および選択したWAVファイルのサイズが表示されます。



8. DATAホイールを使って、WAVファイルのインポート先のトラックを選択し、F4 “[EXEC]” ボタンを押します。インポートを開始します。

メモ

- 十分な空き容量がない場合や、警告のポップアップメッセージ“Import File Too Large”（インポートするファイルが大きすぎます。）が表示されます。
 - インポート先のトラックは、空のトラックでなければなりません。本機は、FATパーティションからファイルを読み、指定のトラックにインポートします。このとき、ファイルの先頭がソングの先頭（“00h00m00s00f”）に対応します。他の録音トラックと同じように、トラックにインポートされたファイルに対して、編集を行うことができます。（→ 55ページ「トラックの編集」）
 - ステレオWAVファイルをインポートする場合は、空のペアトラックが必要となります。
9. インポートが終了したら、HOMEボタンを押してホーム画面に戻ります。

トラックをエクスポートする

希望する任意のトラックを16ビット、44.1kHzのモノラル/ステレオWAV形式のファイルとしてエクスポートすることができます。

- レコーダーが停止中にMENUボタンを押して、“MENU”画面を表示します。
- DATAホイールを使って“IMPORT/EXPORT”メニュー項目を選択（反転表示）し、F4 “[▶]” ボタンを押します。



“IMPORT/EXPORT”画面が表示されます。

- DATAホイールを使って“EXPORT TRACK”項目を選択（反転表示）し、F4 “[▶]” ボタンを押します。



“EXPORT TRACK”画面に進み、オーディオファイルが記録されているソングトラックのファイルリストが表示されます。



ファイル名から元のトラック番号がわかります。

ヒント

ファイル名を編集するときはF3 “[NAME]” ボタンを押し、“NAME EDIT”画面を表示して編集します。（→ 38ページ「名前の編集」）



メモ

オーディオファイルが記録されていないトラックは、ファイルリストに表示されません。

4. DATAホイールを使ってエクスポートするトラックを選択（反転表示）し、F4 “[✓]” ボタンを押します。選択したトラックのチェックボックスが“✓”されます。

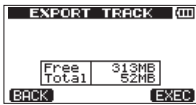


複数のチェックボックスを“✓”することにより、それらをまとめてエクスポートすることができます。

メモ

チェックボックスの“✓”を外すには、そのトラックを選択（反転表示）した状態でF4 “[✓]” ボタンを押します。

5. エクスポートするトラックを選択（“✓” マークを付ける）が終了したら、F2 “[NEXT]” ボタンを押します。FATパーティション（エクスポートするトラックのエクスポート先）の空き容量およびエクスポートするトラックの総容量が表示されます。



6. F4 “[EXEC]” ボタンを押します。選択したトラックが、編集した名前（タイトル）に拡張子《.WAV》を付加したトラックファイル名でFATパーティションにエクスポートされます。以前と同じ名前（タイトル）のトラックファイルをエクスポートしている場合は、確認のポップアップメッセージ“Duplicate name Are you sure?”（名前が重複しています。本当に上書きしてもいいですか？）が表示されます。



- F3 “[YES]” ボタンを押すと、上書きされます。
F4 “[NO]” ボタンを押すと、ファイルリストの画面に戻ります。

7. HOMEボタンを押して、ホーム画面に戻します。
8. 本機とパソコンを接続します。（→ 74ページ「パソコンと接続する」）
9. パソコン側の操作で、トラックファイルを本機のFATパーティションの《WAVE》フォルダーからパソコンにコピーします。

10. トラックファイルをパソコンにエクスポートしたら、正しい手順でUSBケーブルを外し、本機とパソコンの接続を解除します。（→ 75ページ「接続を解除する」）

メモ

- パソコンにエクスポートしたトラックファイルの名前（タイトル）を、パソコン側で変更することができます。この場合、「8.3形式：8文字以内の英数字、3文字以内の英数字という形式」に従い、拡張子“.WAV”を付加することを忘れないでください。また、特殊なシンボルなどを使用しないでください。
- エクスポートされるファイル名は、以下となります。
TRACK 1からは、“EX000_1.WAV”
TRACK 2からは、“EX000_2.WAV”
TRACK 3からは、“EX000_3.WAV”
TRACK 4からは、“EX000_4.WAV”

第12章 パソコンを使ったデータ送受信

ステレオマスタートラックをエクスポートする

マスタリングを終了したステレオマスタートラックをパソコンにエクスポートすることができます。(→ 62ページ「ステレオマスタートラックを作成する」)

新しいステレオマスタートラックを作成するとき、既存のステレオマスタートラックは上書きされますので、複数の異なるステレオマスタートラックを残しておきたい場合は、パソコンに保存するとよいでしょう。

以下に述べるエクスポート手順を開始する前に、ステレオマスタートラックをエクスポートするソングが現在ロードされていることと、ステレオマスタートラックが作成されていることを確認してください。

1. レコーダーが停止中にMENUボタンを押して、“MENU”画面を表示します。
2. DATAホイールを使って“IMPORT/EXPORT”メニュー項目を選択(反転表示)し、F4 “[▶]” ボタンを押します。



“IMPORT/EXPORT”画面が表示されます。

3. DATAホイールを使って“EXPORT MASTER”項目を選択(反転表示)し、F4 “[▶]” ボタンを押します。



“EXPORT MASTER”画面を表示します。



メモ

ステレオマスタートラックが存在しない場合は、警告のポップアップメッセージ“Master Track Not Found”(ステレオマスタートラックが見つかりません。)が表示されます。

4. 必要に応じてステレオマスターファイルの名前(タイトル)を編集します。(→ 38ページ「名前の編集」)

5. ファイル名の編集が終了したら、F2 “[EXEC]” ボタンを押します。

16ビット、44.1kHzの1つのステレオWAVファイルとして、ステレオマスタートラックがFATパーティションにエクスポートされます。

エクスポートされたファイルは、上記手順4.で編集した名前(タイトル)に拡張子《.WAV》を付加したファイル名になります。

以前に同じ名前(タイトル)のステレオマスタートラックをエクスポートしている場合は、確認のポップアップメッセージ“Duplicate name Are you sure?”(名前が重複しています。本当に上書きしてもいいですか?)が表示されます。



F3 “[YES]” ボタンを押すと、上書きされます。

F4 “[NO]” ボタンを押すと前の画面に戻り、名前(タイトル)を変えることができます。

メモ

エクスポートをやめる場合は、F1 “[BACK]” ボタンを押します。

6. HOMEボタンを押して、ホーム画面に戻します。
7. USBケーブルを使って本機とパソコンを接続します。(→ 74ページ「パソコンと接続する」)
8. パソコン側の操作で、本機のFATパーティションの《WAVE》フォルダー内のステレオマスターファイルをパソコンにコピーします。
9. ファイルのコピーを終えたら、正しい手順でUSBケーブルを外し、本機とパソコンの接続を解除します。(→ 75ページ「接続を解除する」)

第13章 マスタリング用コンプレッサー設定一覧

マスタリング用コンプレッサーのプリセットライブラリー

マスタリング用コンプレッサーのプリセットライブラリーは、以下をご覧ください。

マルチバンドコンプレッサー

プリセット名	内容
BASIC CD M.	ベーシックなCDマスタリング用です。
POP	ドンシャリで特に高域が派手な音質になるような設定です。
POP Rock1	高域を派手に色付けしつつ、中低域にも音圧感を出しています。
POP Rock2	POP Rock1の設定よりコンプレッション感を強く出しています。
Rock1	Rockに向けたふっくらとした低音域の音圧を出せます。
Rock2	Rock1の設定より低域、高域の強調を派手にしています。
Classic	クラシック向きの緩やかなコンプレッションです。
Dance	Dance Music向きの超高域と超低域の強調をしています。
R&B HipHop	R&BやHipHopに向けた強いコンプレッションのかかった高域とパンチのある低域を出しています。

シングルバンドコンプレッサー

プリセット名	内容
Basic Comp	レベルを揃えるための基本的な設定としてお使いください。
Basic Limit	リミッターとしての基本的な設定です。
Hard Comp	かなり深いコンプレッションを得ることができます。
Hard Limit	リミッターとして深い設定です。

コンプレッサーを使用することで音が歪む場合は各バンドのゲインを下げるか、最大レベルがOL（オーバードロード）インジケータの点灯する少し手前になるようにしてミックスダウンし直してください。それにより、バランス良く、効果的に音圧を上げることができます。

マスタリング用コンプレッサーのパラメーター初期設定一覧

マスタリング用コンプレッサーのパラメーターは、以下をご覧ください。

Lib	TYPE	Threshold			Ratio			Level			Auto Makeup
		High	Mid	Low	High	Mid	Low	High	Mid	Low	
BASIC CD M.	3Band	-16dB	-11dB	-15dB	3.0:1	3.0:1	3.0:1	+6dB	+5dB	+6dB	—
POP	3Band	-13dB	-13dB	-11dB	4.0:1	4.0:1	4.0:1	+8dB	+2dB	+6dB	—
POP Rock 1	3Band	-13dB	-13dB	-11dB	4.0:1	4.0:1	4.0:1	+7dB	+2dB	+6dB	—
POP Rock 2	3Band	-15dB	-13dB	-11dB	6.0:1	6.0:1	6.0:1	+7dB	+2dB	+5dB	—
Rock 1	3Band	-17dB	-13dB	-11dB	2.0:1	2.0:1	3.0:1	+4dB	+2dB	+3dB	—
Rock 2	3Band	-17dB	-13dB	-11dB	2.0:1	2.0:1	4.0:1	+8dB	+2dB	+3dB	—
Classic	3Band	-15dB	-13dB	-15dB	1.5:1	1.5:1	1.5:1	+3dB	+5dB	+3dB	—
Dance	3Band	-14dB	-13dB	-16dB	4.0:1	1.5:1	4.0:1	+8dB	+2dB	+5dB	—
R&B HipHop	3Band	-20dB	-13dB	-19dB	8.0:1	2.0:1	6.0:1	+11dB	+1dB	+8dB	—
Basic Comp	1Band		-16dB			2.0:1			+2dB		On
Basic Limit	1Band		-18dB			16:1			+2dB		On
Hard Comp	1Band		-24dB			2.5:1			+2dB		On
Hard Limit	1Band		-24dB			16:1			+1dB		On

第14章 トラブルシューティング

本機を使用中に問題が起きた場合には、このトラブルシューティングを参考にして問題の解決にお役立てください。また、ディスプレイにエラーメッセージが出る場合は、83ページ「第15章 メッセージ」にある一覧表をご覧ください。

電源が入らない

- 電池が消耗していませんか？
- 電池の⊕、⊖を間違えてセットしていませんか？
- 別売の専用ACアダプター（TASCAM PS-P520）の電源プラグがしっかりと差し込まれていますか？

電源が自動的に切れてしまう

オートパワーセーブ機能が設定されていませんか？（→69ページ「オートパワーセーブ機能」）

- 本機は欧州待機時電力規制（ErP）に対応しているため、ACアダプター・電池使用時にかかわらずオートパワーセーブ機能が動作します。オートパワーセーブ機能を使用したくないときは「OFF」に設定してください（工場出荷時には「30分」に設定されています）。

再生しているのに音が出ない

- 各TRACKのLEVELつまみは、適正なレベルまで上がっていますか？
- MASTER LEVELつまみは、適正なレベルまで上がっていますか？
- PHONES端子またはLINE OUT端子にヘッドホンまたは外部モニターシステム（パワーモニタースピーカーまたはアンプとスピーカーシステム）が正しく接続されていますか？
また、外部モニターシステム（パワーモニタースピーカーまたはアンプとスピーカーシステム）が正しく設定されていますか？
- リアパネルのVOLUMEダイヤルが適正なレベルまで上がっていますか？（PHONES端子のみ）

録音しようとするサウンドが歪んで聴こえる

- 本機のトップパネルのINPUT A / BのTRIMつまみが上がりすぎていませんか？
あるいは、入力ソースの音量が高すぎませんか？
- モニターのレベルが高すぎて、外部モニターシステム（パワーモニタースピーカーまたはアンプとスピーカーシステム）が歪んでいませんか？

録音ができない

- 録音（●）ボタンを押しながら再生（▶）ボタンを押して録音を開始する時点で、少なくともいずれか1つのTRACKが録音待機状態（RECインジケーター点滅）になっていますか？
- 入力ソースがトラックにアサインされていますか？（→43ページ「入力のアサインする」）

パソコン上に本機のファイルが表示されない

- 本機がUSB端子経由でパソコンに接続されていますか？（→74ページ「パソコンと接続する」）
- USB接続する前に、FATパーティションにソング、トラック、ステレオマスタートラックをバックアップまたはエクスポートしてありますか？
パソコンからは直接MTRパーティション内のファイルにアクセスすることはできません。

ACアダプターで使用時、パッシブタイプのギターやベースを直接接続したときにノイズが発生する。

- 本機のLINE OUT端子を他の機器に接続すると、ノイズが軽減される場合があります。
- 他の機器から妨害ノイズの影響などを受けている可能性があります。近くにパワーアンプなど大型のトランスを持つ機器や蛍光灯などがある場合は、これらの機器との間隔や方向を変えることにより、ノイズが軽減される場合があります。

第15章 メッセージ

以下のポップアップメッセージの一覧表を示します。

本機では、状況に応じたポップアップメッセージが表示されますが、それぞれのメッセージの内容を知りたいとき、および対処方法を知りたいときにこの表をご覧ください。

メッセージ	内容と対処方法
Battery Empty	「電池残量がありません。」 残量がない状態の時に表示されます。 新しい電池に交換するか、別売の専用ACアダプター（TASCAM PS-P520）を接続してご使用ください。
Battery Low	「電池残量が少なくなっています。」 電池残量が少なくなった状態で録音しようとする则表示されます。 新しい電池に交換するか、別売の専用ACアダプター（TASCAM PS-P520）を接続してご使用ください。
Card Full	「録音中にSDカードがいっぱいになりました。」 不要なデータをエクスポート、若しくは削除をして容量を確保するか、別のSDカードに交換してご使用ください。
Empty Export Track	「エクスポートトラックに録音されたデータがありません。」 何も録音されていないソングのトラックをエクスポートしようとする则表示されます。 （→ 77ページ「トラックのインポートとエクスポート」） 録音されたソングのトラックをエクスポートしてください。
File Not Found	「ファイルが見つかりません。」 FATパーティションにバックアップされたソングがないときに、ソングをリストア（復元）しようとする则表示されます。（→ 76ページ「ソングのバックアップとリストア（復元）」）
I/O Too Short	「INポイントとOUTポイントが近すぎます。」 リピート再生モードに切り換えようとするときにINポイントとOUTポイントの間が近すぎると表示されます。INポイントとOUTポイントの間を2フレーム以上離してください。 （→ 52ページ「リピート再生を実行する」）
Import File Not Found	「インポートするファイルが見つかりません。」 WAVファイルのないFATパーティションからWAVファイルをインポートしようとしています。（→ 77ページ「トラックをインポートする」） 本機をパソコンに接続して、インポートするファイルをパソコンから本機のFATパーティションに転送してください。
Import File Too Large	「インポートするファイルが大きすぎます。」 MTRパーティションの空き容量より容量の大きいWAVファイルをFATパーティションからインポートしようとしています。MTRパーティション内の不要なソングを削除して空き容量を増やしてから再度インポートを試みてください。
In Bounce Mode	「バウンスモード中です。」 “ BOUNCE ” モード中に禁止操作をしようとしたときに表示されます。
In Mixdown Mode	「ミックスダウンモード中です。」 “ MIXDOWN ” モード中に禁止操作をしようとしたときに表示されます。
In Master Mode	「マスタリングモード中です。」 “ MASTERING ” モード中に禁止操作をしようとしたときに表示されます。
In Punch Mode	「パンチイン／アウトモードです。」 パンチイン／アウトモード中に禁止操作をしようとしたときに表示されます。
In Repeat Mode	「リピート再生モード中です。」 リピート再生モード中に禁止操作をしようとしたときに表示されます。
Invalid Card	「挿入されているSDカードは、本機で使用できないフォーマットです。」 電源をオフ（スタンバイ）にしてから別のSDカードを挿入するか、“ MENU ” → “ CARD ” から “ FORMAT ” してください。

第15章 メッセージ

メッセージ	内容と対処方法
It's too Large	「ソングファイルが大きすぎます。」 FATパーティションの空き容量より大きなソングファイルをバックアップしようとしています。(→ 76ページ「ソングのバックアップとリストア (復元)」) FATパーティションをフォーマットするか(→ 73ページ「FATパーティションを再フォーマットする」)、本機をパソコンに接続して、不要なファイルを削除するなどして、空き容量を確保してください。
Master Track Not Found	「ステレオマスタートラックが見つかりません。」 ステレオマスタートラックがソング内に録音されていないときにステレオマスタートラックをエクスポートしようとすると表示されます。(→ 80ページ「ステレオマスタートラックをエクスポートする」) ソングをマスタリングしてから、ステレオマスタートラックをエクスポートしてください。
Master Track Too Large	「ステレオマスタートラックが大きすぎます。」 FATパーティションの空き容量より大きなステレオマスタートラックをエクスポートしようとしています。(→ 80ページ「ステレオマスタートラックをエクスポートする」) FATパーティションをフォーマットするか(→ 73ページ「FATパーティションを再フォーマットする」)、本機をパソコンに接続して、不要なファイルを削除するなどして、空き容量を確保してください。
No Armed Track	「録音待機トラックがありません。」 1つ以上のトラックを録音待機状態にしないでオートパンチン/アウトモードに切り換えようとしています。(→ 54ページ「オートパンチン/アウト機能」) 録音待機トラックを設定してから、オートパンチン/アウトモードに切り換えてください。
No Disk Space	「空き容量がありません。」 MTRパーティションに十分な空き容量がないときにソングを作成しようしたり、ソングをコピーしようしたりすると表示されます。 ソングを消去するか(→ 41ページ「ソングを消去する」)、SDカードをフォーマット(→ 71ページ「SDカードをフォーマットする」)するなどして、空き容量を確保してください。
No Master Trk	「マスタートラックが存在しません。」 トラックの複製を作るとき、存在しないステレオマスタートラックをソーストラックとして選択しようとすると表示されます。(→ 59ページ「クローントラック (トラック複製)」) ステレオマスタートラックを作るか、または別のソーストラックを選択してください。
No Song	「ソングがありません。」 ソングが存在しないパーティションからソングをロードしようとしています。(→ 38ページ「ソングをロードする」) パーティションを変更してください。(→ 37ページ「アクティブパーティションを変更する」)
No Undo Histry	「アンドゥの操作履歴がありません」 アンドゥするような操作が存在しません。(→ 49ページ「操作履歴の消去について」)
No SD Card	「SDカードが挿入されていません。」 電源をオフ(スタンバイ状態)にしてからSDカードを挿入してください。
Not Stopped	「レコーダーが停止していません。」 レコーダーが停止していないとき、 UN/REDO [HISTORY] ボタンのように停止中でないと受け付けられないボタンを押すと表示されます。
Now Recording	「録音中です。」 録音を行っているときにメニュー操作を行おうとすると表示されます。他にも録音中に受け付けられない操作があります。

メッセージ	内容と対処方法
Protected Card	「挿入されているSDカードは、ライトプロテクトされています。」 録音や編集を行いたい場合は、電源をオフ（スタンバイ状態）してSDカードのライトプロテクトを解除してください。
Same Track	「同じトラックを指定しています。」 クローントラック設定で、“SOURCE TRK”と“DESTINATION TRK”とで同じトラックを指定すると表示されます。
SD Size Error	「本機では、使用できない小さいサイズのSDカードが挿入されています。」 512MB以上のSDカードをご使用ください。
Song Protected	「ソングがプロテクトされています。」 プロテクトされているソングに変更（録音、編集など）を加えようとする则表示されます。変更を加える前にプロテクトを解除してください。（→41ページ「ソングをプロテクトする」）
Too Many songs	「これ以上ソングを作成できません。」 1つのMTRパーティションを持つことができるソングの数は最大250です。不要なソングを削除してから、新しいソングを作成してください。
Track Full	「トラックが録音済みです。」 全てのトラックが録音されている状態でインポートを実行しようとする则表示されます。（→77ページ「トラックをインポートする」）
Trk Edit Fail	「トラックエディットに失敗しました。」 ソングを保存してから本体の電源を入れ直して再度トラックエディットを実行してください。
Trk Too Short	「トラックが短すぎです。」 レコーダーモードを“MIXDOWN”モードに切り換えたようとするときに、INポイントとOUTポイントの間が4秒未満の場合に表示されます。INポイントとOUTポイントの間を4秒以上離してください。（→51ページ「INポイント／OUTポイントを設定する」）
Work Memory Full	「内蔵する作業用メモリーがいっぱいになりました。」 SDカードの空き容量が残っていても、1ソングでの長時間録音を行ったり、編集作業を多く行くと発生する場合があります。 操作履歴の消去を実行すると空き作業用メモリーが増え、作業が続行できる場合があります。（→49ページ「操作履歴の消去について」） 電源をオフ（スタンバイ状態）することで空き作業用メモリーが増え、作業が続行できる場合があります。
Audio Rst Fail	これらのエラーが出た場合は、本体の電源を入れなおしてください。 これらのエラーが頻繁に発生する場合は、ティアック修理センター（裏表紙に記載）にご相談ください。
Device Error	
FileErr	
FX Busy	
FX Rx Failed	
I/F Error	
Mount Error	
SaveParam Fail	
SD-Card Error!	
SD Not Found	
SD Read Busy	
SD Write Busy	

第16章 仕様

定格

記録メディア

- SDカード (512MB ~ 2GB)
- SDHCカード (4GB ~ 32GB)

ファイルシステム

- MTRパーティション : TASCAMオリジナル
- FATパーティション : FAT32

入出力定格

アナログオーディオ入出力定格

INPUT A端子

- **XLRタイプ [BALANCED]**
コネクター : XLR-3-31
(1 : GND, 2 : HOT, 3 : COLD)
入カインピーダンス : 2.4k Ω
規定入力レベル : -8dBu
最大入力レベル : +8dBu
- **標準ジャックタイプ [UNBALANCED]**
コネクター : 6.3mm (1/4") TS標準ジャック
入カインピーダンス :
10k Ω 以上 (INPUT A切り換えスイッチを「MIC/
LINE」に設定時)
1M Ω (INPUT A切り換えスイッチを「GUITAR」
に設定時)
規定入力レベル : -10dBV
最大入力レベル : +6dBV
ヘッドルーム : 16dB

INPUT B端子

- **XLRタイプ [BALANCED]**
コネクター : XLR-3-31
(1 : GND, 2 : HOT, 3 : COLD)
入カインピーダンス : 2.4k Ω
規定入力レベル : -8dBu
最大入力レベル : +8dBu
- **標準ジャックタイプ [UNBALANCED]**
コネクター : 6.3mm (1/4") TS標準ジャック
入カインピーダンス : 10k Ω 以上
規定入力レベル : -10dBV
最大入力レベル : +6dBV
ヘッドルーム : 16dB

内蔵マイク

無指向 x2

LINE OUT端子

- コネクター : RCAピンジャック
- 規定出力レベル : -10dBV
- 最大出力レベル : +6dBV

PHONES端子

- コネクター : 3.5mm (1/8")
ステレオミニジャック
- 最大出力レベル : 20mW+20mW以上
(THD+N 1%、32 Ω)

コントロール入出力定格

USB端子

- コネクター : USB Mini-Bタイプ 4ピン
- フォーマット : USB2.0 HIGH SPEED
マストレージクラス

オーディオ性能

周波数特性

- INPUT (MIC/LINE) \rightarrow LINE OUT :
20Hz ~ 20kHz, +1dB/-3dB

歪率

- INPUT (LINE) \rightarrow LINE OUT : 0.05%以下

S/N比

- INPUT (MIC/LINE) \rightarrow LINE OUT : 81dB以上

動作条件

最新の対応OS状況については、TASCAMのウェブサイト (<http://tascam.jp/>) ご確認ください。

対応OS

- Windows : Windows XP、Windows Vista、
Windows 7
- Mac OS X : Mac OS X 10.2以上

一般

電源

- 単3形電池4本 (アルカリ乾電池またはニッケル水素電池)
- 専用ACアダプター (TASCAM PS-P520、別売)

消費電力

- 2.4W (最大時)

電池持続時間 (連続使用時)

- **アルカリ乾電池 (EVOLTA) 使用時**

持続時間	備考
約5.5時間	ライン入力使用、録音時
約6時間	ヘッドホン使用、再生時

録音時 : JEITA録音時、再生時 : JEITA音楽再生時

- **ニッケル水素電池 (eneloop) 使用時**

持続時間	備考
約6.5時間	ライン入力使用、録音時
約7時間	ヘッドホン使用、再生時

録音時 : JEITA録音時、再生時 : JEITA音楽再生時

外形寸法

221 x 44.3 x 126.5mm
(幅 x 高さ x 奥行き、突起部を含む)

質量

610g (電池を含まず)

動作温度

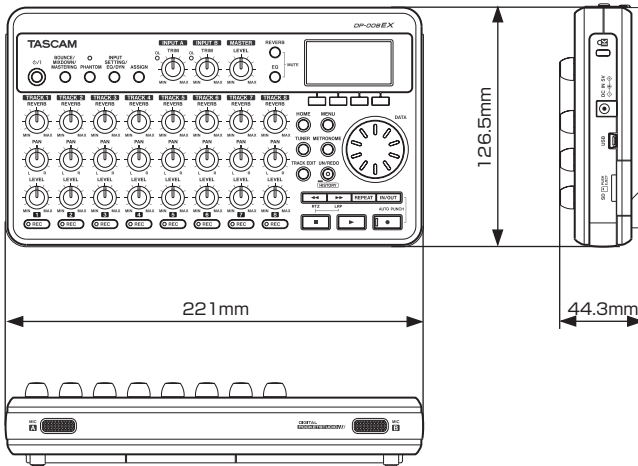
5 ~ 35℃

バックアップメモリー

本機は、電源をオフ（スタンバイ状態）にしても、以下の設定をバックアップします。

- “INPUT SETTING” 画面の項目（入力のイコライザーを除く）
- “PREFERENCE” 画面の以下の項目
 - Repeat Int
 - Contrast
 - Back Light
 - Auto Power Save
 - FootSW Polarity

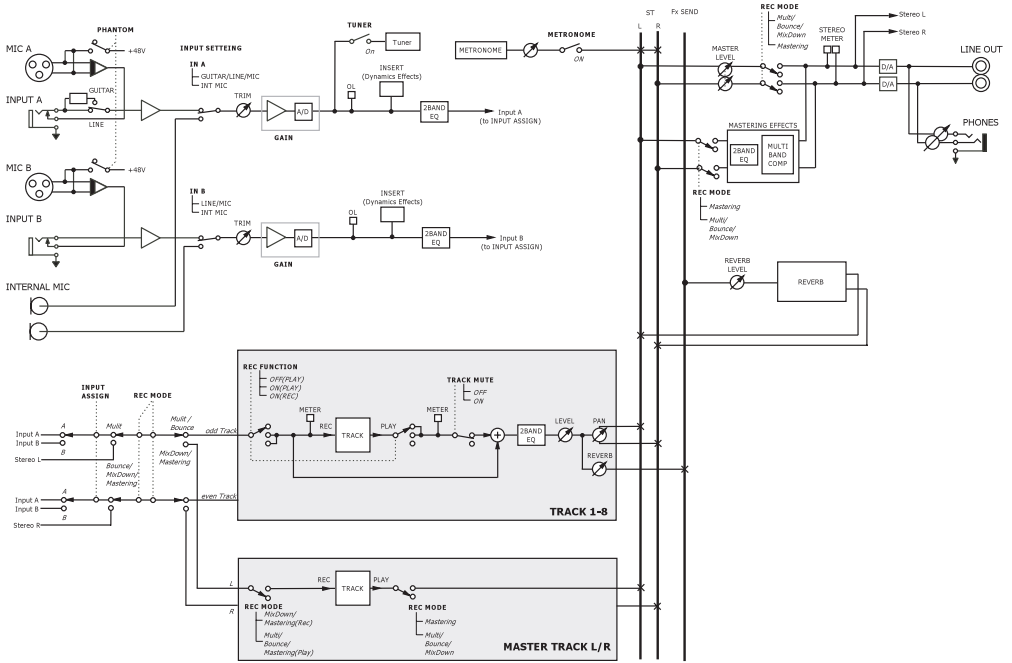
寸法図



- * 取扱説明書のイラストが一部製品と異なる場合があります。
- * 製品の改善により、仕様および外観が予告なく変更することがあります。

第16章 仕様

ブロックダイアグラム



第17章 こんなことをするには

以下に、パネルを見ただけではやり方がわからないような機能の操作方法を一覧表にまとめます。82ページ「第14章 メッセージ」と合わせてご利用ください。

- ボタン名称は、REPEATのように表記します。
- [MENUボタンを押し、“MENU”画面から“CARD”メニュー項目を選択し、“CARD”メニュー画面の中から“FORMAT”項目を選択する]という操作を「MENU→CARD→FORMAT」のように表記します。
- REVERB + EQのような表記は、「REVERBボタンを押しながらEQボタンを押す」という意味です。
- 複雑な操作の場合は、全部の操作は表記しません。

こんなことをしたい	操作方法、使用するボタン	詳しくはこちら
FATパーティションをフォーマットしたい	MENU→CARD→FAT REFORMAT	「FATパーティションを再フォーマットする」(73ページ)
INポイント/OUTポイントを設定したい	IN/OUT、F3、F4	「INポイント/OUTポイントを設定する」(51ページ)
INポイント/OUTポイントを編集したい	IN/OUT→F2	「INポイント/OUTポイントを設定する」(51ページ)
USB接続を有効にした	本機とパソコンをUSBケーブルで接続します	「パソコンと接続する」(74ページ)
USB接続を解除する	本機をパソコンから切断します	「接続を解除する」(75ページ)
WAVファイルをトラックにインポートしたい	MENU→IMPORT/EXPORT→IMPORT TRACK	「トラックをインポートする」(77ページ)
アクティブパーティションを変更したい	MENU→CARD→PARTITION	「アクティブパーティションを選択する」(37ページ)
ギターや管楽器をチューニングしたい	TUNER	「チューナー機能」(68ページ)
現在のアクティブパーティションを知りたい	MENU→INFORMATION	「ソング情報を見る」(40ページ)
SDカードの全領域をパソコンで使用可能にしたい	MENU→CARD→SD INITIALIZE	「SDカードを初期化(イニシャライズ)する」(73ページ)
SDカードをフォーマットしたい	MENU→CARD→FORMAT	「SDカードをフォーマットする」(71ページ)
新規ソングを作成したい	MENU→SONG→CREATE	「新しいソングを作成する」(39ページ)
ステレオマスタートラックを作成したい	BOUNCE/MIXDOWN/ MASTERING→MIXDOWN	「ステレオマスタートラックを作成する」(62ページ)
ステレオマスタートラックをパソコンにエクスポートしたい	MENU→IMPORT/EXPORT →EXPORT MASTER	「ステレオマスタートラックをエクスポートする」(80ページ)
アンドゥした操作を取り消したい(リドゥ)	UN/REDO [HISTORY]	「実行した操作を取り消す(アンドゥ)」(48ページ)
操作を取り消して、以前の状態に戻りたい(アンドゥ)	UN/REDO [HISTORY]	「実行した操作を取り消す(アンドゥ)」(48ページ)
ソングに名前(タイトル)を付けたい	MENU→SONG→NAME EDIT	「名前の編集」(38ページ)
ソングのプロテクトを解除したい	MENU→SONG→PROTECT	「ソングをプロテクトする」(41ページ)
ソングをプロテクトしたい	MENU→SONG→PROTECT	「ソングをプロテクトする」(41ページ)
ソングの名前(タイトル)を見たい	MENU→INFORMATION	「ソング情報を見る」(40ページ)
ソングをコピーしたい	MENU→SONG→COPY	「ソングをコピーする」(40ページ)
ソングを削除(消去)したい	MENU→SONG→ERASE	「ソングを消去する」(41ページ)
ソングをバックアップしたい	MENU→DATA BACKUP →SONG BACKUP	「ソングのバックアップとリストア(復元)」(76ページ)
ソングを保存したい	MENU→SONG→SAVE	「ソングを保存する」(39ページ)
ソングをロードしたい	MENU→SONG→LOAD	「ソングをロードする」(38ページ)

第17章 こんなことをするには

こんなことをしたい	操作方法、使用するボタン	詳しくはこちら
トラック全体を消去したい	TRACK EDIT→CLEAN OUT	「クリーンアウト（トラック削除）」（59ページ）
トラック内に無音パートを挿入したい	TRACK EDIT→OPEN	「オープン（無音挿入）」（58ページ）
トラックの一部をカットして詰めたい	TRACK EDIT→CUT	「カット（部分削除）」（58ページ）
トラックの一部を無音にしたい	TRACK EDIT→SILENCE	「サイレンス（部分消去）」（59ページ）
トラックの複製を作りたい	TRACK EDIT→CLONE TRACK	「クローントラック（トラックの複製）」（59ページ）
トラックの内容をパソコンにエクスポートしたい	MENU→IMPORT/EXPORT →EXPORT TRACK	「トラックをエクスポートする」（78ページ）
パーティションをフォーマットしたい	MENU→CARD→REFORMAT	「MTRパーティションを再フォーマットする」（72ページ）
パソコンからソングを復元したい	MENU→DATA BACKUP→SONG RESTORE	「ソングのバックアップとリストア（復元）」（76ページ）
別のトラックにピンポン（バウンス）したい	BOUNCE/MIXDOWN/ MASTERING→BOUNCE	「トラックバウンス」（50ページ）
メトロノームの設定をしたい	METRONOME	「メトロノーム機能」（68ページ）
メトロノームを使いたい	METRONOME	「メトロノーム機能」（68ページ）
録音残時間を知りたい	MENU→INFORMATION	「ソング情報を見る」（40ページ）
作成したステレオマスタートラックを聴きたい	BOUNCE/MIXDOWN/ MASTERING→MASTERING	「ステレオマスタートラックを確認する」（63ページ）
ステレオマスタートラックを仕上げたい	BOUNCE/MIXDOWN/ MASTERING→MASTERING	「ステレオマスタートラックを仕上げる（マスタリング）」（64ページ）
内蔵マイクを使いたい	INPUT SETTING/EQ/DYN	「入力ソースを選択する」（42ページ）
ギターを録音したい	INPUT SETTING/EQ/DYN	「入力ソースを選択する」（42ページ）
INPUT A / Bをアサインするトラックを変更したい	ASSIGN	「入力をアサインする」（43ページ）
リピート再生時の間隔（リピートインターバル）を変更したい	MENU→PREFERENCE	「リピート再生の間隔を設定する」（52ページ）
オートパワーセーブ機能を使いたい	MENU→PREFERENCE	「オートパワーセーブ機能」（69ページ）
ディスプレイのコントラストを変更したい	MENU→PREFERENCE	「コントラストを調節する」（36ページ）
リバーブをかけたい	REVERB	「リバーブ」（60ページ）
入力音にイコライザーをかけたい	INPUT SETTING/EQ/DYN→F2	「入力のイコライザーを使う」（44ページ）
入力音にダイナミクスエフェクトをかけたい	INPUT SETTING/EQ/DYN→F3	「インプットダイナミクスの設定」（44ページ）
トラックにイコライザーをかけたい	EQ	「トラックのイコライザー」（60ページ）
ファントム電源を使いたい	PHANTOM	「ファントム電源について」（42ページ）
トラックの再生音をミュートしたい	REVERB + EQ	「トラックのミュート」（61ページ）

この製品の取り扱いなどに関するお問い合わせは

タスカム カスタマーサポートまでご連絡ください。お問い合わせ受付時間は、土・日・祝日・弊社休業日を除く10:00～12:00 / 13:00～17:00です。

タスカム カスタマーサポート 〒206-8530 東京都多摩市落合 1-47



一般電話・公衆電話からは市内通話料金でご利用いただけます。

0570-000-809

PHS・IP電話などからはナビダイヤルをご利用いただけませんので、通常の電話番号（下記）にお掛けください。

電話：042-356-9137 / FAX：042-356-9185

故障・修理や保守についてのお問い合わせは

修理センターまでご連絡ください。

お問い合わせ受付時間は、日・祝日・弊社休業日を除く9:30～17:00です。

ティアック修理センター 〒358-0026 埼玉県入間市小谷田 858



一般電話・公衆電話からは市内通話料金でご利用いただけます。

0570-000-501

ナビダイヤルは全国どこからお掛けになっても市内通話料金でご利用いただけます。

PHS・IP電話などからはナビダイヤルをご利用いただけませんので、通常の電話番号（下記）にお掛けください。

新電電各社をご利用の場合は、「0570」がナビダイヤルとして正しく認識されず、「現在、この電話番号は使われておりません」などのメッセージが流れることがあります。

このような場合は、ご契約の新電電各社へお問い合わせいただくか、通常の電話番号（下記）にお掛けください。

電話：04-2901-1033 / FAX：04-2901-1036

■ 住所や電話番号は、予告なく変更する場合があります。あらかじめご了承ください。

ティアック株式会社

〒206-8530 東京都多摩市落合 1-47

<http://tascam.jp>

Printed in China